NEC

LaVie L

2 準備と設定

「あなたのパソコン」として使うために

パソコンは、ほかの電化製品とちがって
電源をいれただけでは使えません。
付属品をとりつけ、あなた個人が使うための
設定をし、インターネットにつなぐところまで、
この本の手順にそって、準備してみましょう。

もう一台パソコンを買ったときの
内容の移しかえや、設定を最初から
やり直す方法も、この本がご案内します。

新しいパソコンがやってきました！

箱を開いて、

嬉しいような、そわそわするような、

そんな、新しい道具を手にするときの気持ちを

たいせつにしながら、

間違いなく確実に、

パソコンの準備と設定を進めていけるよう、

この本は作られています。

853-810601-477-A

『準備と設定』の読み方

第1章〜第3章まで

「箱を開けて最初にすること」「電源を入れる前に接続しよう」「セットアップを始める」

箱の中の添付品を確認したり、バッテリや AC アダプタを接続する手順、はじめて電源を入れたときの設定（Windows のセットアップ）手順を説明しています。

第4章

「基本中の基本の操作」

電源の入れ方／切り方、音量調節、CD-ROM などのディスクの扱い方など、基本的な操作について説明しています。

第5章

「これからインターネットを始めるかたへ」

これまでにパソコンを持っていなかったかたは、この章をご覧ください。インターネットに接続する方法について説明しています。

第6章

「パソコンを買い替えたかたへ」

パソコンを買い替えたかたは、この章をご覧ください。インターネットに接続する方法や、以前のパソコンの設定やデータを新しいパソコンに移す方法について説明しています。

第7章

「前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ」

複数のパソコンをネットワーク接続して利用したいかたは、この章をご覧ください。

第8章

「再セットアップする」

パソコンの調子が悪くなったときなどに、買ってきたときの状態に戻す「再セットアップ」について説明しています。

第9章

「パソコン内部に取り付ける」

このパソコンにメモリを取り付ける方法を説明しています。

853-810601-477-A
2005 年 9 月　初版

このマニュアルの表記について

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります

ポイント	そのページで説明している手順で、特に大切なことです。
!	してはいけないことや、注意していただきたいことです。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているソフトの破壊、パソコンの破損などの可能性があります。

◆このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【 】	【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
DVD/CD ドライブ	DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RWドライブ(DVD-R/+R 2層書込み)、およびCD-R/RW with DVD-ROM ドライブのいずれかを指します。
「サポートナビゲーター」	電子マニュアル「サポートナビゲーター」を起動して、各項目を参照することを示します。「サポートナビゲーター」は、デスクトップの(困ったときのサポートナビゲーター)をダブルクリックして起動します。

◆このマニュアルでは、各モデル(機種)を次のような呼び方で区別しています

次ページの表をご覧になり、ご購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

このパソコン	表の各モデル(機種)を指します。
DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW(DVD-R/+R 2層書込み)モデル	DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW ドライブ(DVD-R/+R 2層書込み)(DVD スーパーマルチドライブ(DVD-R/+R 2層書込み))を搭載しているモデルのことです。
CD-R/RW with DVD-ROM モデル	CD-R/RW with DVD-ROM ドライブ(マルチプレードライブ)を搭載しているモデルのことです。
TV モデル	テレビ / 地上アナログデータ放送を見るための機能を搭載しているモデルのことです。
デュアルモードワイヤレスLAN(Super G対応)モデル	IEEE802.11b(2.4GHz)とIEEE802.11g(2.4GHz)の両方の規格に対応した通信機器と接続でき、Atheros Communications社が開発したワイヤレス通信の高速化技術「Super G」に対応したワイヤレスLAN インターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
トリプルワイヤレスLAN(Super AG対応)モデル	IEEE802.11a(5GHz)とIEEE802.11b/g(2.4GHz)の両方の規格に対応した通信機器と接続でき、Atheros Communications社が開発したワイヤレス通信の高速化技術「Super AG」に対応したワイヤレスLAN インターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
Windows XP Home Edition モデル	Microsoft® Windows® XP Home Edition があらかじめインストールされているモデルのことです。
Windows XP Professional モデル	Microsoft® Windows® XP Professional があらかじめインストールされているモデルのことです。
Office 2003 モデル	Office Personal 2003またはOffice Professional 2003があらかじめインストールされているモデルのことです。

Office Personal 2003 モデル　Office Personal 2003 があらかじめインストールされているモデルのことです。

Office Professional 2003 モデル　Office Professional 2003 があらかじめインストールされているモデルのことです。

<table>
<tr><th rowspan="2">シリーズ名</th><th rowspan="2">型名
（型番）</th><th colspan="6">表記の区分</th></tr>
<tr><th>DVD/CDドライブ</th><th>ワイヤレスLAN</th><th>TV機能</th><th>添付マウス</th><th>OS</th><th>添付ソフト</th></tr>
<tr><td rowspan="4">LaVie L
（アドバンストタイプ）</td><td>LL970/DD
(PC-LL970DD)</td><td rowspan="4">DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW（DVD-R/+R 2層書込み）モデル</td><td rowspan="6">トリプルワイヤレスLAN（Super AG対応）モデル</td><td>TVモデル
（リモコン添付）</td><td rowspan="4">光センサーUSBマウス添付モデル</td><td rowspan="4">Windows XP Home Edition モデル</td><td rowspan="7">Office Personal 2003 モデル</td></tr>
<tr><td>LL900/DD
(PC-LL900DD)</td><td>–</td></tr>
<tr><td>LL770/DD
(PC-LL770DD)</td><td>TVモデル
（リモコン添付）</td></tr>
<tr><td>LL750/DD
(PC-LL750DD)</td><td rowspan="4">–</td></tr>
<tr><td rowspan="3">LaVie L
（ベーシックタイプ）</td><td>LL590/DE
(PC-LL590DE)</td><td>CD-R/RW with DVD-ROMモデル</td><td>–</td><td>Windows XP Professional モデル</td></tr>
<tr><td>LL550/DD
(PC-LL550DD)</td><td>DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW（DVD-R/+R 2層書込み）モデル</td><td rowspan="2">光センサーUSBマウス添付モデル</td><td rowspan="2">Windows XP Home Edition モデル</td></tr>
<tr><td>LL350/DD
(PC-LL350DD)</td><td>CD-R/RW with DVD-ROMモデル</td><td>デュアルモードワイヤレスLAN（Super G対応）モデル</td></tr>
</table>

◆ LaVie G シリーズについて

LaVie G シリーズの各モデルについては、添付の『LaVie G シリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

◆本文中の画面やイラスト、ホームページについて

・本文中の画面やイラスト、ホームページは、モデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。
・記載しているホームページの内容やアドレスは、このマニュアルの制作時点のものです。

◆アドバンストタイプをお使いのかたへ

この製品は、著作権保護技術を採用しており、米国と日本の特許技術と知的財産権によって保護されています。この著作権保護技術の使用には、マクロヴィジョン社の許可が必要です。またその使用は、マクロヴィジョン社の特別な許可がない限り、家庭での使用とその他一部の鑑賞用の使用に制限されています。この製品を分解したり改造することは禁じられています。

◆このマニュアルで使用しているソフトウェア名などの正式名称

(本文中の表記)	(正式名称)
Windows、Windows XP、Windows XP Home Edition	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack 2
Windows、Windows XP、Windows XP Professional	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版 Service Pack 2
Windows XP Media Center Edition	Microsoft® Windows® Media Center Edition operating system 日本語版
Windows 2000 Professional	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Windows Me、Windows Millennium Edition	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 98 Second Edition	Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 operating system 日本語版
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 operating system 日本語版
Office Personal 2003	Microsoft® Office Personal Edition 2003 (Microsoft® Office Word 2003、Microsoft® Office Excel 2003、Microsoft® Office Outlook® 2003、Microsoft® Office Home Style+)
Office Professional 2003	Microsoft® Office Professional Enterprise Edition 2003 (Microsoft® Office Word 2003、Microsoft® Office Excel 2003、Microsoft® Office Outlook® 2003、Microsoft® Office PowerPoint® 2003、Microsoft® Office Access 2003、Microsoft® Office Publisher 2003、Microsoft® Office InfoPath™ 2003)
Outlook、Outlook 2003	Microsoft® Office Outlook® 2003
Home Style+	Microsoft® Office Home Style+
インターネットエクスプローラ、Internet Explorer	Microsoft® Internet Explorer 6.0 Service Pack 2
アウトルックエクスプレス、Outlook Express	Microsoft® Outlook® Express 6.0
マカフィー・ウイルススキャン	マカフィー®・ウイルススキャン
インターネット無料体験	BIGLOBE インターネット無料体験
DigitalMedia	Roxio DigitalMedia SE 7

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、NEC 121 コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
(4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3) 項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
(5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6) 海外 NEC では、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
(7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® XP Home EditionまたはMicrosoft® Windows® XP Professional、および本機に添付の CD-ROM、DVD-ROM は、本機のみでご使用ください。
(8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。

目次

『準備と設定』の読み方 ……… 巻頭
このマニュアルの表記について ……… 2

第1章
箱を開けて最初にすること ……… 9
添付品はそろっていますか？ ……… 10
型番と製造番号を確認する ……… 11

第2章
電源を入れる前に接続しよう ……… 13
バッテリパックを取り付ける ……… 14
AC アダプタを接続する ……… 15
リモコンを使う準備をする（添付モデルのみ） ……… 17

第3章
セットアップを始める ……… 19
電源を入れる ……… 20
では、始めましょう ……… 23
画面を見ながら手順を進める ……… 26
キーボードを使って自分の名前を入れる ……… 34
121 ポップリンクを設定する ……… 38
ここで一段落 ……… 39
マウスを接続する ……… 40
お客様登録のお願い ……… 41

第4章
基本中の基本の操作 ……… 43
電源の切り方 ……… 44
電源の入れ方 ……… 47
スタンバイ機能について ……… 48
各部の名称と役割 ……… 50
音量を調節する ……… 55
CD-ROM や DVD の扱い方 ……… 56
フロッピーディスクの扱い方 ……… 60
パソコンがはじめてのかたへ ……… 63
パソコンの画面で解説、検索「サポートナビゲーター」について ……… 67
もしものときに備えて ……… 69
アンテナ線を接続する ……… 71
ワイヤレス LAN 機能について ……… 75

第5章
これからインターネットを始めるかたへ ……… 79
インターネットの魅力 ……… 80
いろいろある接続方法 ……… 81
ブロードバンドにもいろいろある ……… 82

ブロードバンド接続の流れ 84
プロバイダに入会する 86
ブロードバンド接続の設定 91
ルータを利用したブロードバンド接続の設定 98
インターネットに接続する 103
ダイヤルアップ接続の設定 104
メールソフトを設定する 107
パソコンを安全に使うための設定をおこなう 113

第6章 **パソコンを買い替えたかたへ 119**
インターネットを使えるようにする：ブロードバンド編 120
インターネットを使えるようにする：ダイヤルアップ編 123
古いパソコンからデータを移す 132
周辺機器を使えるようにする 140
ソフトを移す 141

第7章 **前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ 143**
ホームネットワークでできること 144
複数のパソコンをホームネットワークでつなぐ 146

第8章 **再セットアップする 149**
再セットアップを始める前に 150
再セットアップする（C ドライブのみ）......158
C ドライブの領域を変更して再セットアップする 171
再セットアップ用 DVD/CD-ROM を作成する 174
再セットアップ用 DVD/CD-ROM を使って再セットアップする 182

第9章 **パソコン内部に取り付ける 187**
メモリ 188

付録
パソコンのお手入れ 200
バッテリリフレッシュについて 202
DVD/CD ドライブからディスクが取り出せなくなったときは 204
ケーブルに F 型コネクタプラグを取り付ける 205
アフターケアについて 207
パソコンの譲渡、廃棄、改造について 208
仕様一覧 212
索引 225
各部の名称 ......巻末

■輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
従いまして、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1: NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd.

第1章

箱を開けて最初にすること

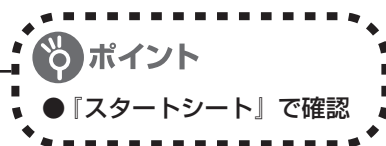
この章には、パソコンの箱を開けて最初にすることが書いてあります。添付品が全部そろっているか、型番や製造番号が合っているか確認しましょう。

この章の所要時間：約10分

添付品はそろっていますか？ 10

型番と製造番号を確認する 11

添付品はそろっていますか？

●『スタートシート』で確認

1 『スタートシート』を見る

マニュアルセットの中に『スタートシート』が入っています。『スタートシート』裏面の「添付品を確認する」を見て、添付品が全部そろっているか確認してください。万一、足りないものがあったり、添付品の一部が破損していたときは、すぐに下記までお問い合わせください。

LaVie G シリーズをご購入の場合は、『LaVie G シリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧になり、添付品を確認してください。

困ったときには…
NEC 121（ワントゥワン）コンタクトセンター
フリーコール 0120-977-121

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

添付品を確認する

このページのチェックリストを見ながら、添付品がそろっているか確認をしてください。万一、添付品が足りない場合は、すぐにNEC 121コンタクトセンター 0120-977-121（フリーコール）へお問い合わせください。
携帯電話、PHSからは03-6670-6000までお願いいたします。 ※通話料は、お客様のご負担となります。
※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

アドバンストタイプの場合
□ 本体
□ バッテリパック

LaVie G シリーズをご購入の場合
LaVie G シリーズをご購入いただいた場合、お客様の選択により添付品が異なります。添付品の確認をするときには、『LaVie G シリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

ベーシックタイプの場合
□ 本体
□ バッテリパック

□ TVアンテナ変換ケーブル（LL970/DD、LL770/DDのみ）
□ リモコン
□ リモコン用アルカリ電池（単3形、2本）（LL970/DD、LL770/DDのみ）
□ ACアダプタ
□ 電源コード
□ マウス（LL590/DEを除く）
□ 電話回線ケーブル（モジュラーケーブル）

マニュアルなど
□ スタートシート（このシート）
□ ソフトウェアのご使用条件（お客様へのお願い）／ソフトウェア使用条件適用一覧 （1枚になっています。箱の中身を確認後必ずお読みください）
□ Microsoft® Windows®XP Embedded Adapted for Television, Version 3.0のご使用条件（お客様へのお願い）（LL970/DD、LL900/DD、LL770/DD、LL750/DDのみ） （インスタント機能のご使用条件です。箱の中身をご確認後必ずお読みください）
□ 安全にお使いいただくために
□ クイック操作シート
□ はじめよう！ブロードバンド インターネット活用ブック
□ 筆王 ユーザーズガイド for NEC
□ 添付書類保管ファイル
□ 121wareガイドブック
□ 準備と設定
□ 活用ブック
□ パソコンでテレビを楽しむ本（LL970/DD、LL770/DDのみ）
□ インスタント機能ガイド（LL970/DD、LL900/DD、LL770/DD、LL750/DDのみ）
□ MediaGarage操作ガイド

Microsoft® Office Personal Edition 2003の添付品
□ Microsoft® Office Personal Edition 2003 パッケージ

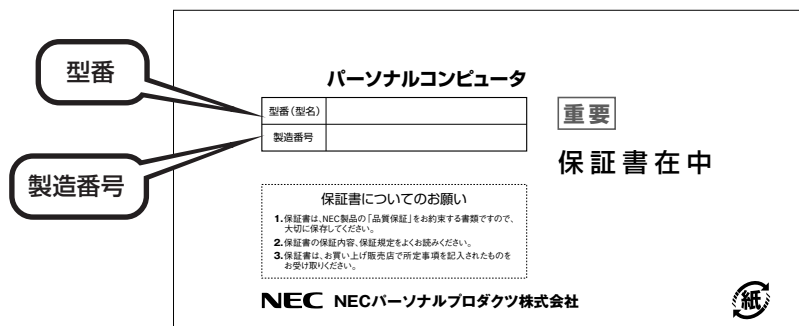
添付品がすべてそろっていることを確認したら、『準備と設定』をご覧になり、記載された手順にしたがってパソコンを接続してください。

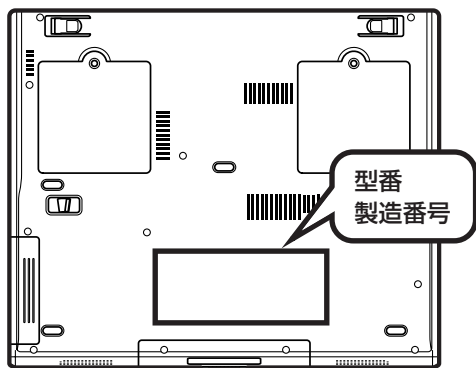
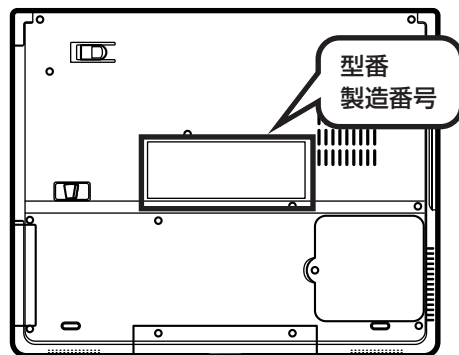
©NEC Corporation, NEC Personal Products,Ltd. 2005
2005年9月 Printed in Japan

添付品の内容はモデルにより異なります。

型番と製造番号を確認する

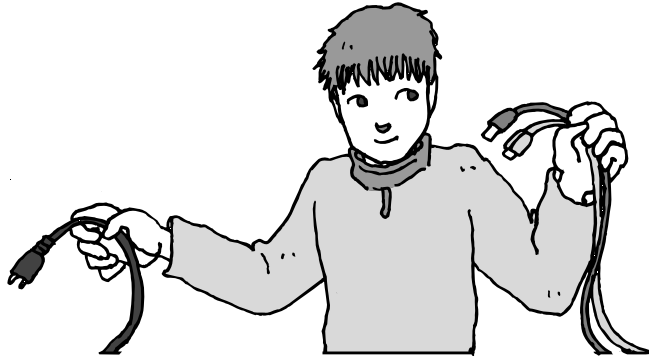
● 保証書と本体のラベルの記載が一致していることを確認する

1 パソコン本体の保証書を見る

2 パソコン底面のラベルと一致しているか確認する

アドバンストタイプの場合

ベーシックタイプの場合

・機器に記載された番号が保証書と異なっている場合、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

・保証書は、所定事項（販売店名、お買い上げ日など）が記入されていることを確認して、保管しておいてください。保証期間中に万一故障した場合は、保証書記載内容に基づいて修理いたします。保証期間終了後の修理についてはNEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

第2章

電源を入れる前に接続しよう

添付品と保証書の内容を確認したら接続です。バッテリとACアダプタを取り付けましょう。電源を扱うことになるので、慎重に作業しましょう。次ページから順番に作業を進めてください。

この章の所要時間：約５分

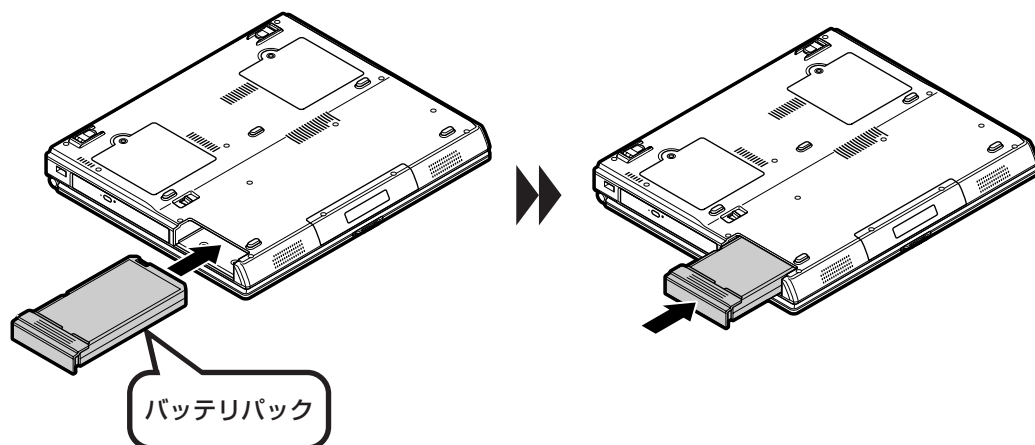
バッテリパックを取り付ける 14
ACアダプタを接続する 15
リモコンを使う準備をする（添付モデルのみ） 17

インターネットや周辺機器は後から接続

ここではまだ、電話回線には接続しません。また、プリンタなどの周辺機器があるときも、まだ接続しないでください。「第３章　セットアップを始める」で説明している作業が終わってから、電話回線や周辺機器の接続をおこないます。

バッテリパックを取り付ける

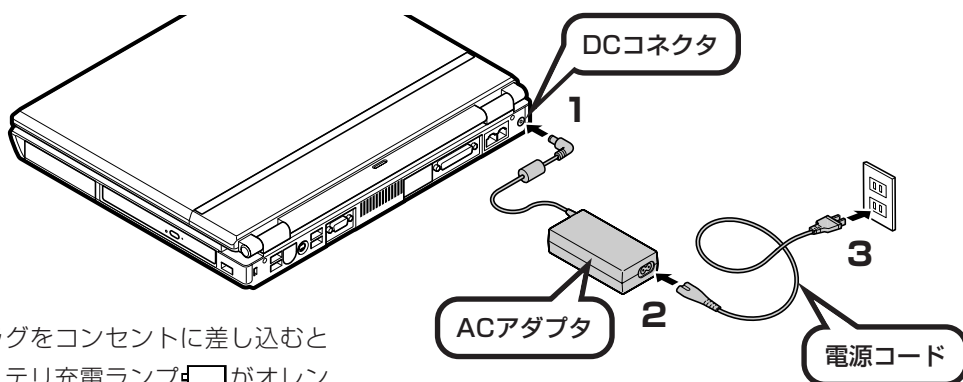
パソコンを裏返し、バッテリパックを取り付ける

バッテリパックの向きに注意して、矢印の方向にカチッと音がするまでしっかり取り付けてください。

ACアダプタを接続する

ポイント

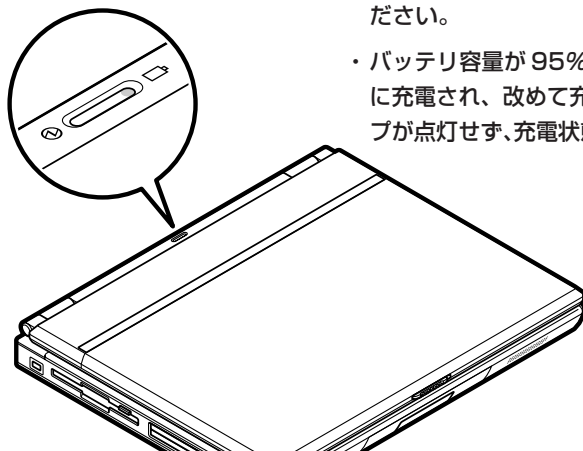
● 手順をよく読み、接続する順番を守りましょう

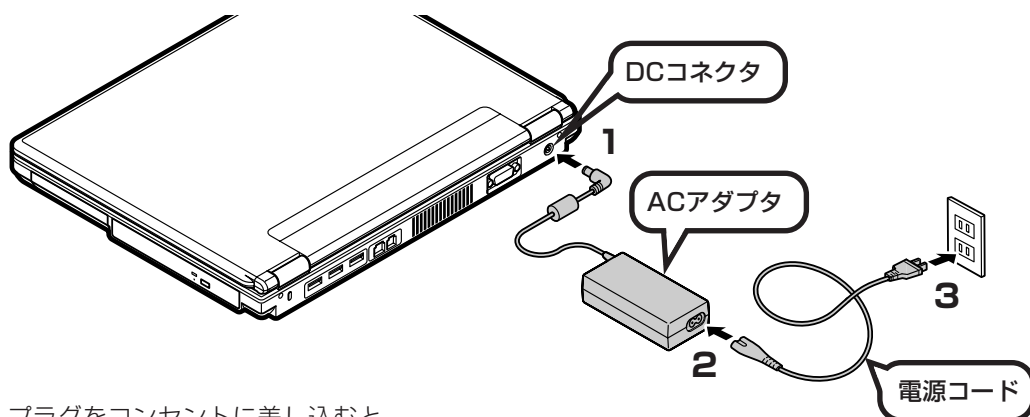
アドバンストタイプ

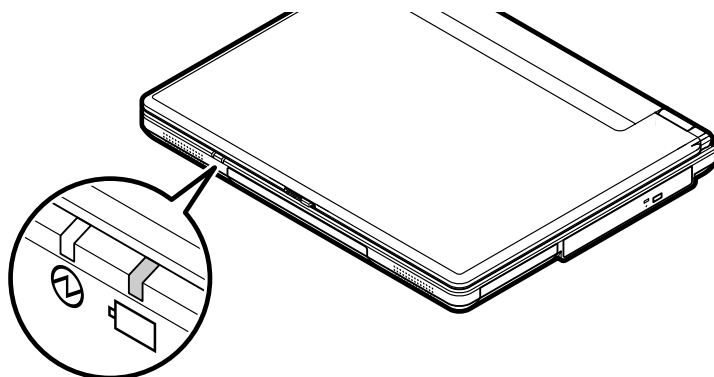
1 ACアダプタ(PC-VP-WP36-01)をDCコネクタ(⎓)に接続する
2 電源コードをACアダプタに接続する
3 電源コードのプラグをコンセントに差し込む

プラグをコンセントに差し込むとバッテリ充電ランプがオレンジ色に点灯して、バッテリの充電が始まります。
バッテリがフル充電されるとバッテリ充電ランプが消灯します。
今はフル充電されるまで待つ必要はありませんので、ACアダプタを接続したまま次へ進んでください。

・セットアップ作業が終わるまで、ACアダプタを抜かないでください。

・ご購入直後は、バッテリ駆動ができなかったり動作時間が短くなることがあります。またバッテリ残量が正しく表示されない場合もあります。バッテリがフル充電されるまで AC アダプタを抜かないでください。

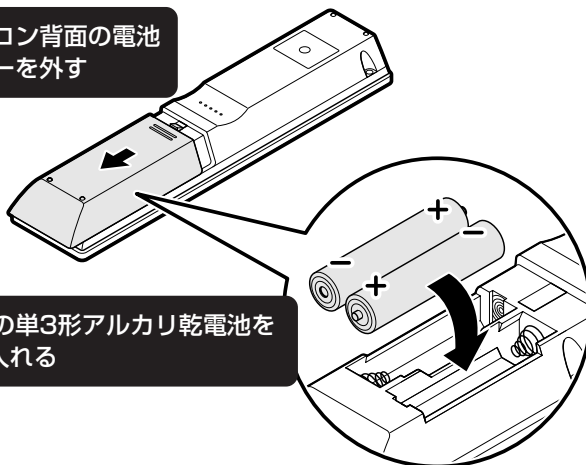
・バッテリ容量が 95%以上の場合、バッテリが十分に充電され、改めて充電する必要がないため、ランプが点灯せず、充電状態にならない場合があります。

ベーシックタイプ

1 ACアダプタ(PC-VP-WP36-01)をDCコネクタ(⎓)に接続する
2 電源コードをACアダプタに接続する
3 電源コードのプラグをコンセントに差し込む

プラグをコンセントに差し込むとバッテリ充電ランプがオレンジ色に点灯して、バッテリの充電が始まります。
バッテリがフル充電されるとバッテリ充電ランプが消灯します。
今はフル充電されるまで待つ必要はありませんので、ACアダプタを接続したまま次へ進んでください。

- セットアップ作業が終わるまで、ACアダプタを抜かないでください。
- ご購入直後は、バッテリ駆動ができなかったり動作時間が短くなることがあります。またバッテリ残量が正しく表示されない場合もあります。バッテリがフル充電されるまで AC アダプタを抜かないでください。
- バッテリ容量が 95%以上の場合、バッテリが十分に充電され、改めて充電する必要がないため、ランプが点灯せず､充電状態にならない場合があります。

リモコンを使う準備をする（添付モデルのみ）

ポイント

- 乾電池を入れる
- ＋（プラス）と－（マイナス）の向きを間違えないように

1 リモコンに乾電池を入れる

ご使用の環境や方法にもよりますが、このリモコンの電池寿命はアルカリ乾電池で約100時間です。

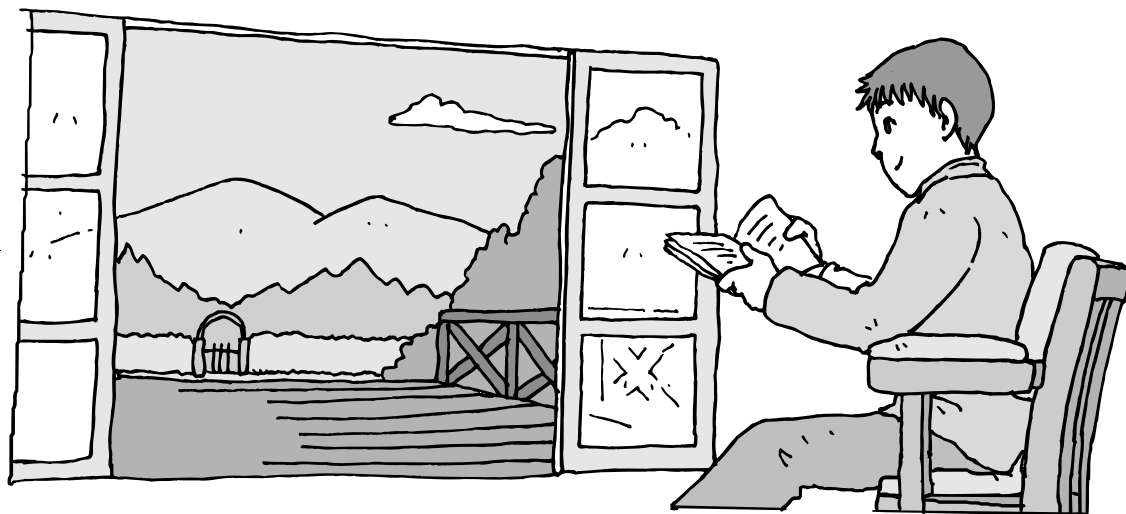
入れたら電池カバーをもとどおりにはめてください。

インターネット、周辺機器などの接続は後から

ここまでの接続が終わったら、続けて「第３章　セットアップを始める」に進んでください。第３章で説明している作業が終わってからTVアンテナ、インターネット、周辺機器などの接続をおこないます。

電源コードなどが人の通る場所にないことを、もう一度確認してください。ケーブルを足に引っかけたりするとパソコンの故障の原因になるだけでなく、思わぬけがをすることもあります。

第3章

セットアップを始める

今度は、いよいよパソコンの電源を入れます。最初に電源を入れるときは、「セットアップ作業」といって、自分の名前を登録したりする操作が必要です。この後の説明をよく読んで、ゆっくり確実に操作してください。

この章の所要時間：約30分

電源を入れる 20

では、始めましょう 23

画面を見ながら手順を進める 26

キーボードを使って自分の名前を入れる 34

121ポップリンクを設定する 38

ここで一段落 39

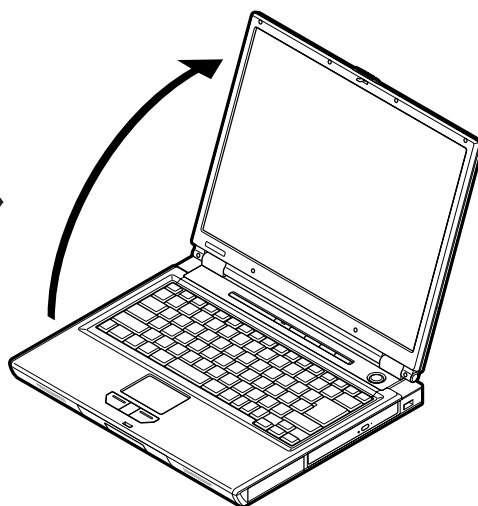
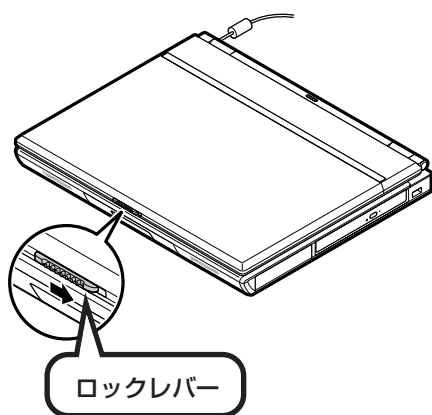
マウスを接続する 40

お客様登録のお願い 41

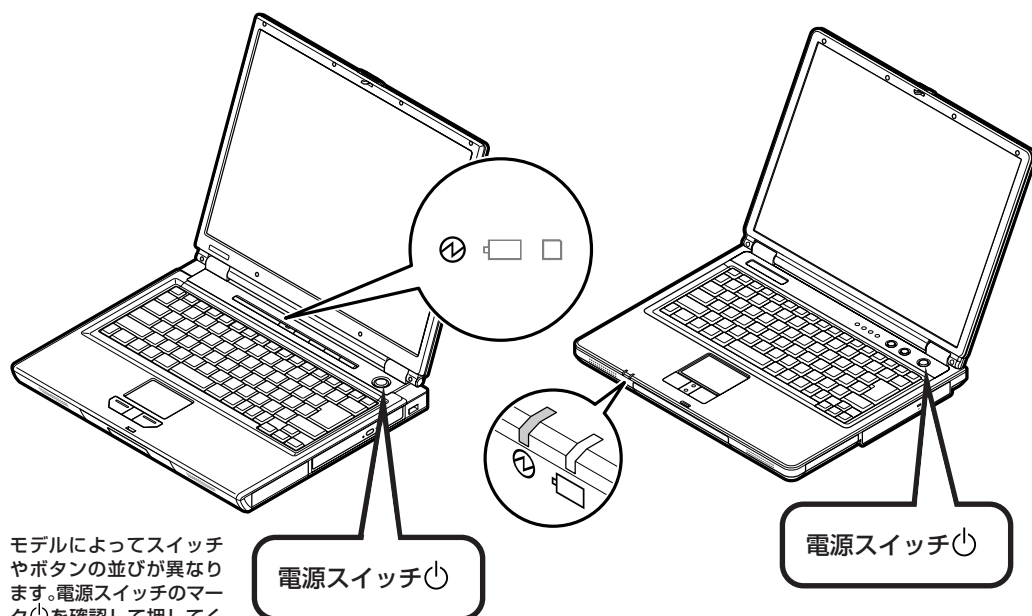
電源を入れる

ポイント
- 電源スイッチの場所を確認しておく

1 パソコンのふたを開ける

ロックレバーを右にスライドしたまま、ふたを持ち上げます。ふたの裏がディスプレイになっています。

2 電源を入れる

電源スイッチ⏻を 1 秒程度押すと電源が入り、電源ランプが点灯します。

アドバンストタイプの場合　　**ベーシックタイプの場合**

モデルによってスイッチやボタンの並びが異なります。電源スイッチのマーク⏻を確認して押してください。

液晶ディスプレイのドット抜けについて

液晶ディスプレイは、非常に高精度な技術で作られていますが、画面の一部にドット抜け※（ごくわずかな黒い点や、常時点灯する赤、青、緑の点）が見えることがあります。
また、見る角度によっては、色むらや明るさのむらが見えることがあります。
これらは、液晶ディスプレイの特性によるものであり、故障ではありませんのであらかじめご了承ください。

※社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)のガイドラインに従い、ドット抜けの割合を「付録」の「仕様一覧」（212ページ）または『LaVie G シリーズをご購入いただいたお客様へ』の「仕様一覧」に記載しています。ガイドラインの詳細については、以下のホームページをご覧ください。

「パソコン用液晶ディスプレイのドット抜けに関する定量的表記ガイドライン」
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/0503dot/index.html

画面が表示されるまで数分かかることもある

電源スイッチを押してから、23ページの画面が表示されるまでに数分かかることがあります。その間、NECのロゴ（社名のマーク）やWindows（ウィンドウズ）のマークなどが表示されたり、画面が真っ暗になったりしますが、故障ではありません。あわてて電源を切ったりせずに、そのままお待ちください。

操作の途中では、絶対に電源を切らない!

セットアップ作業がすべて終わるまでに、約30分かかります。「ここで一段落」（39ページ）までの手順が完了する前には、絶対に電源を切らないでください。電源コードをいきなり抜いたりするのも、絶対ダメです。セットアップ作業が終わらないうちに電源を切ると、故障の原因になります。

停電などのときは

万一、停電などの理由で電源が切れてしまったときは、一度電源コードをコンセントから抜いて1分ほど待ち、再度コンセントに差しなおしてから、電源スイッチを押してください。セットアップの画面が表示されるときは、その画面からセットアップ作業を続けてください。セットアップの画面が表示されないときは、NEC 121 コンタクトセンターにお問い合わせください。

では、始めましょう

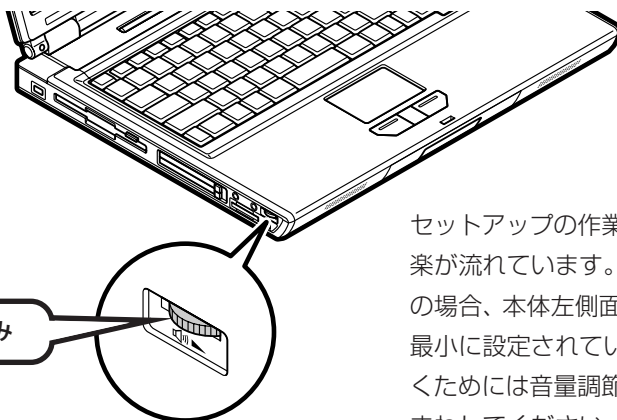
ポイント
- 画面の矢印を動かしてみる
- 「クリック」という操作を覚える

1 セットアップの最初の画面を確認する

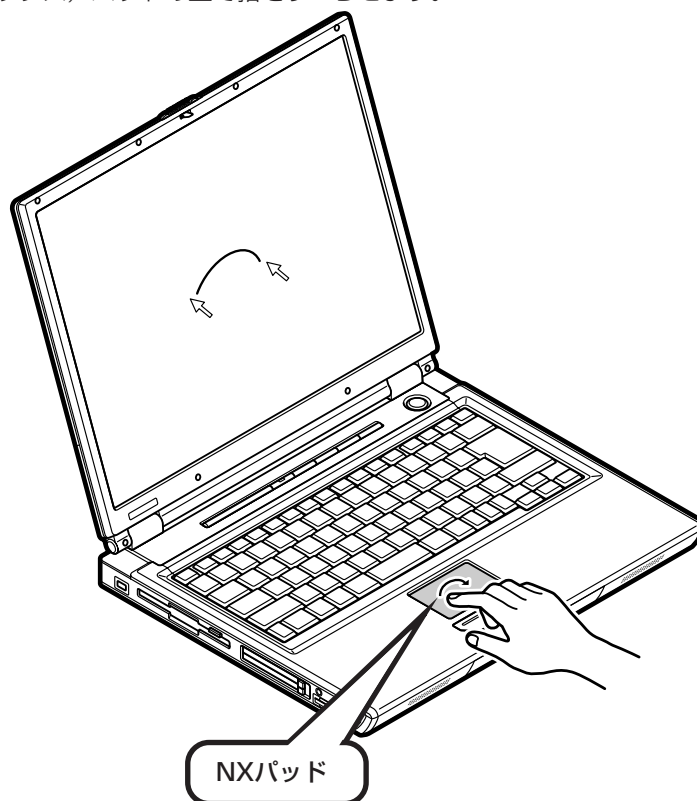
「Microsoft Windows へようこそ」という画面が表示されていますね。これがセットアップ作業の出発点です。

⌛は、「何もしないで待ってて」の合図

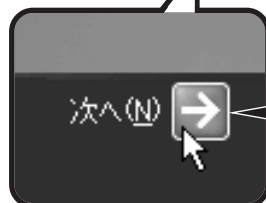
パソコンの内部で何かの処理が進んでいて、操作できないときには、画面に⌛のマークが出ることがあります。このマークが表示されているときや、「しばらくお待ちください」などと文字が表示されているときは、キーを押したり、ボタンを押したりせずに、待っていてください。

パソコン内部での処理の進み具合を示すグラフが表示されることもあります。その場合も、何も操作せずに待ってください。

セットアップの作業中はパソコンから音楽が流れています。アドバンストタイプの場合、本体左側面の音量調節つまみが最小に設定されていますので、音楽を聴くためには音量調節つまみを本体奥側へまわしてください。

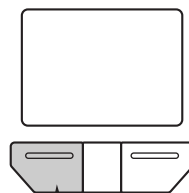
2 画面の矢印を動かす

NX（エヌエックス）パッドの上で指をすべらせます。

指を動かすと、その動きに合わせて画面の矢印が動きます。指がNXパッドの端で止まって、それ以上動かせなくなったときは、一度指を離してNXパッドの中央に戻して操作すると続けて矢印を動かすことができます。

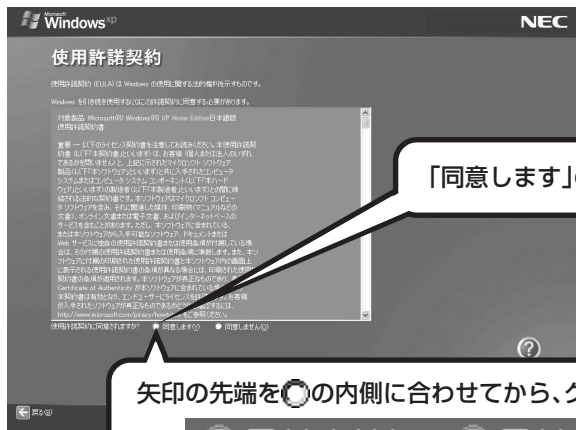
まだ、NX パッドのボタンを押さないでください。

3 画面内の右下を見る

「次へ」の に、画面の矢印 （マウスポインタ）を合わせて左のクリックボタンを押すと、画面の表示が切り換わって「使用許諾契約」と書かれた画面になります。

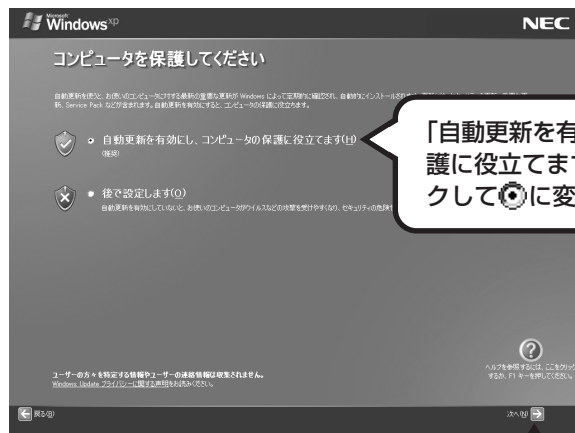
クリック

このような操作で、手順を次に進めたり、次ページを表示したりすることができます。
画面の絵や文字などに矢印を合わせて左ボタンを1回押す操作を「クリック」と呼びます。パソコンを使うときの一番基本的な操作なので、覚えてくださいね。

画面を見ながら手順を進める

ポイント
- 画面に書かれたことを読みながら
- 指示にしたがってクリック

1 使用許諾契約に同意する

これで、使用許諾契約に同意することになります。「同意します」の左が◯から◉に変わらないときは、矢印がうまく合っていなかったので、やりなおしてください。

「使用許諾契約」とは、このパソコンに入っているソフトを違法にコピーして他人に渡したりしないという約束をしていただくことです。この契約に同意していただけない場合は、パソコンを使うことができません。画面に表示されている契約文の続きを読むには、文書表示欄の右下にある をクリックします。

2 コンピュータを保護する設定をする

Windowsがいつも最新の状態になるように、インターネット経由で定期的に更新情報が確認され、自動的にインストールされるようになります。Windowsの更新について詳しくは、『活用ブック』の「しっかりセキュリティであんしんインターネット」をご覧ください。

3 次の画面に進む

このまま、をクリックする

・キーボードの操作に慣れていないかたは、名前を付けずにこのまま次に進んでかまいません。

・キーボードを使った文字入力に慣れている場合、半角英数文字でコンピュータの名前を自由に入力してください。名前を思いつかない場合は「LaVie」(ラヴィ)とするとよいでしょう。すでに何台かパソコンをお持ちの場合、「PC1」、「PC2」のように数字で区別してもかまいません。

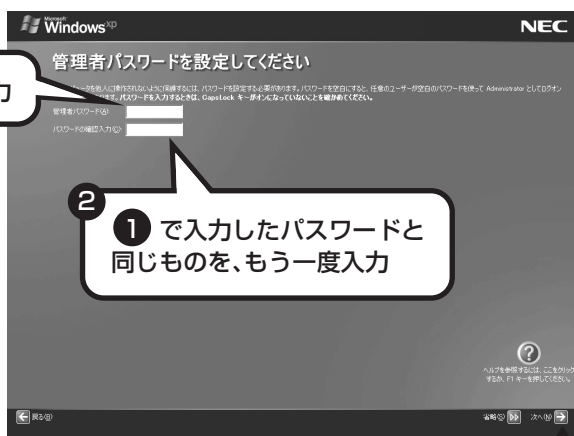
次の文字列は、パソコンのシステムですでに使われているため、入力しないでください。
CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM1 ～ COM9、LPT1 ～ LPT9

Windows XP Home Editionモデルの場合

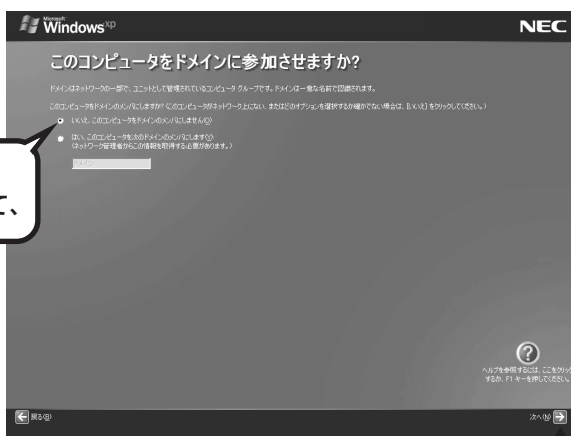
31 ページへ進んでセットアップ作業を進めてください。

Windows XP Professionalモデルの場合

次ページへ進んでセットアップ作業を進めてください。

4 管理者パスワードを設定する（Windows XP Professionalモデルのみ）

・入力したパスワードは「●●●」のように表示されます。これは、入力したパスワードが他人に見られてもわからないようにするためです。

・覚えやすく、忘れにくいパスワードを決めてください。大文字、小文字も入力したとおりに区別されます。

5 ドメインに参加させないようにして、次に進む(Windows XP Professionalモデルのみ)

・上の画面が表示されたときはコンピュータをドメインに参加させずにセットアップ作業を進めてください。

・上の画面が表示されずに次ページの画面が表示されることもあります。その場合、次ページの説明にしたがって進めてください。

・必要なら、セットアップ作業が終わってからドメインに参加するように設定することができます。「ドメイン」とは、企業や学校などがまとまってネットワークを管理するときのグループを意味しています。詳しくは、企業や学校などのネットワーク管理者におたずねください。

6 インターネットの接続方法を省略する

下の画面がどちらも表示されずに次ページの画面が表示された場合、次ページの説明にしたがって進めてください。

インターネットへの接続は、セットアップ作業が終わってから別に設定します。ここでは、そのまま「省略」をクリックしてください。

「インターネット接続が選択されませんでした」と表示されたときも、「省略」をクリックしてください。

7 ユーザー登録せずに次へ進む

「いいえ、今回はユーザー登録しません」の左にある◯をクリックして◉に変えてから、

- 「今すぐインターネットアクセスのセットアップを行いますか？」と表示されたときは、そのまま次ページの説明にしたがって進めてください。
- 「いいえ、…」を選択しないで手順を進めるとセットアップ作業が途中で止まってしまいます。必ず、「いいえ、…」の左にある◯をクリックして◉に変えてください。
- Microsoftへのユーザー登録は、セットアップ作業が終わってからおこないます。

8　インターネット接続せずに次へ進む

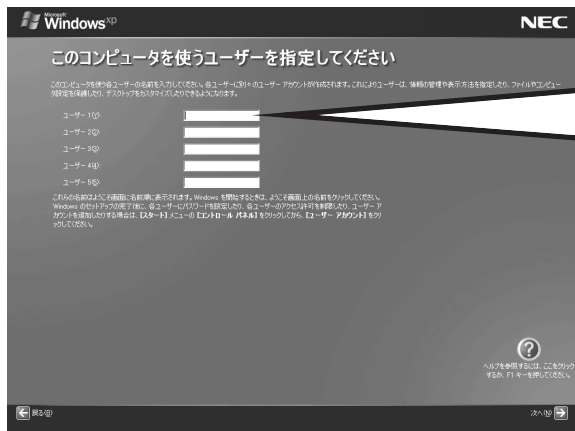
・「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたときは、そのまま次ページの説明にしたがって進めてください。

・「いいえ、…」を選択しないで手順を進めるとセットアップ作業が途中で止まってしまいます。必ず、「いいえ、…」の左にある◯をクリックして◉に変えてください。

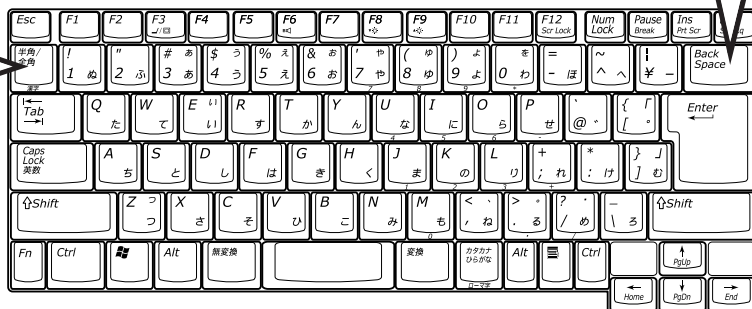
・インターネットへの接続は、セットアップ作業が終わってから別に設定します。

キーボードを使って自分の名前を入れる

● ローマ字(アルファベット)で名前を入れる

1 「ユーザー1」欄に自分の名前を入れる

ここに小さな縦棒(|)が点滅しているのを見てから、キーボードの【半角/全角】を一回押し、キーボードから自分の名前をローマ字で入力する

【例】「mita」と入力する場合なら

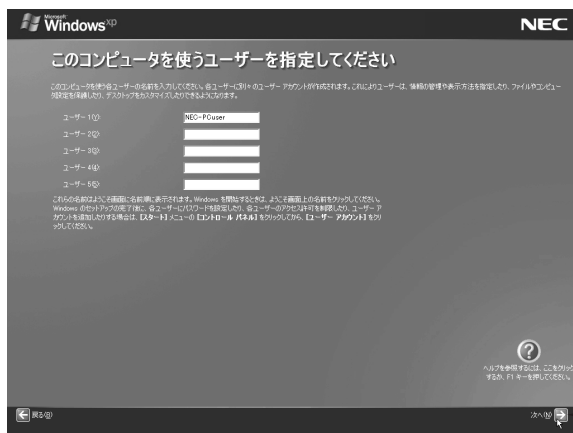
点滅していないときは、「ユーザー1」欄をクリックしてください。

・ここでは「ユーザー1」欄だけ入力してください。ユーザー名の追加や変更は、セットアップ作業が終わった後でできます。

・次の文字列は、パソコンのシステムですでに使われているため、入力しないでください。
CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM1 ~ COM9、LPT1 ~ LPT9

入力を間違えたら

キーボードの【BackSpace】(バックスペース)を押してください。

ひらがなが表示されるときは

キーボードの【BackSpace】を押して、表示された文字をすべて消してください。次に、キーボードの【半角/全角】を押すと、アルファベットが表示されるようになります。

入力した名前を控えておく

ユーザー名：

パソコンのトラブルを解決するために、後でセットアップ作業をやりなおす（再セットアップする）とき、この名前が必要です。上の欄に控えておいてください。

2 さらにセットアップ作業を進める

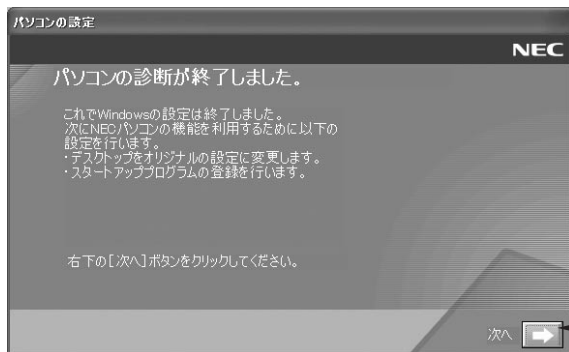
をクリックする

をクリックすると、しばらくしてからパソコンの電源が切れ、自動的に再度電源が入ります（これを「再起動」といいます）。
次ページの画面が表示されるまで何も操作せずに待っていてください。

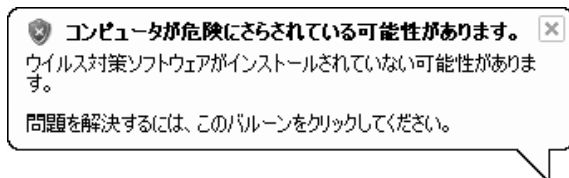
パソコンが再起動しても、
まだセットアップ作業が残っています。

続けて次ページ以降の作業を進めてください。

3 残りのセットアップ作業に進む

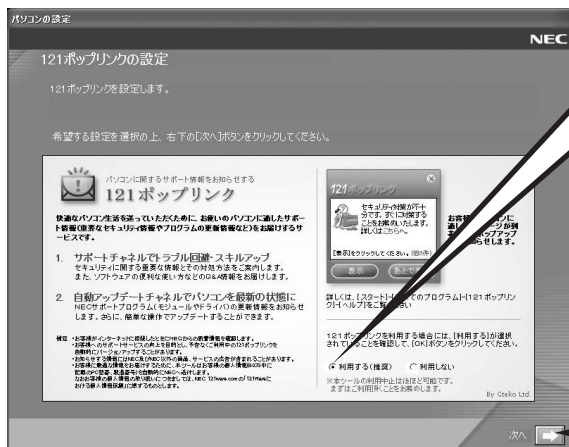
➡ をクリックする

画面に「パソコンの診断が終了しました。」と表示されます。これでWindowsの設定は終了しましたが、NECのパソコンの機能を利用するために、もう少しセットアップ作業を進める必要があります。

画面右下に次のようなメッセージが表示される場合があります。

コンピュータが危険にさらされている可能性があります。
ウイルス対策ソフトウェアがインストールされていない可能性があります。
問題を解決するには、このバルーンをクリックしてください。

ここでこのメッセージが表示されても問題はありません。今はこのメッセージをクリックせずに、セットアップ作業を進めてください。

121ポップリンクを設定する

● NEC から新しい情報が届くように、「利用する」を選ぶ

1 ➡ をクリックする

「利用する(推奨)」の左が◉になっていることを確認して、

➡ をクリックする

121（ワントゥワン）ポップリンクは、お使いのパソコンに適したサービスサポート情報（危険度の高いウイルスに対するセキュリティパッチ（修正プログラム）やアップデートプログラム）を、NECからインターネット経由でお知らせするサービスです。このパソコンでインターネット接続できるようになってから、新しい情報が発表されるたびに自動的に届くようになります。

121 ポップリンクの設定は、後から利用しないように変更することもできます。

パソコンの設定

設定が完了しました。

右下の[完了]ボタンをクリックしてください。

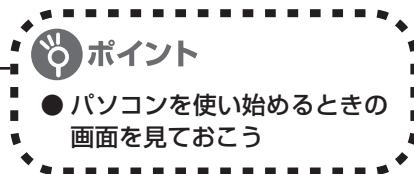
完了

この画面に変わったら、➡ をクリック

パソコンの電源が切れ、自動的に再度電源が入ります（再起動）。

次ページの画面が表示されるまで何も操作せずに待っていてください。

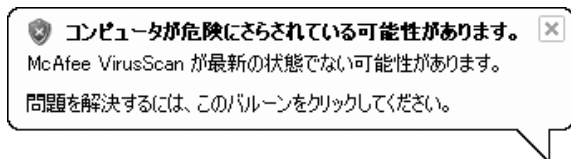
ここで一段落

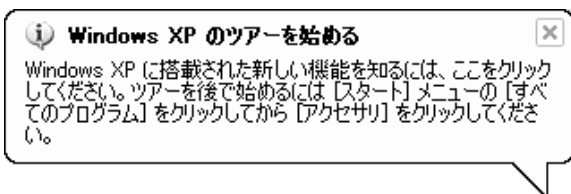
● パソコンを使い始めるときの画面を見ておこう

再起動後、「システムの復元ポイントの設定」の画面が表示されます。しばらくすると、もう一度再起動します。

ここまでの操作で、パソコンに自分の名前などを登録する、最初のセットアップ作業は一段落です。次回から、パソコンの電源を入れると、1～2分後には、いつもこの画面が表示されるようになります。

複数のユーザーを登録している場合、左の画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。

画面右下に次のようなメッセージが表示される場合があります。

> **コンピュータが危険にさらされている可能性があります。**
> McAfee VirusScan が最新の状態でない可能性があります。
> 問題を解決するには、このバルーンをクリックしてください。

これは、このパソコンに入っているウイルス対策ソフト「マカフィー・ウイルススキャン」が最新の状態ではない可能性があることをお知らせするものです。この後、パソコンをインターネットにつなぐとソフトを最新の状態にできます。インターネットにつなぐまでは、このメッセージが表示されても、何もしなくてかまいません。詳しくは、「パソコンを安全に使うための設定をおこなう」（113ページ）をご覧ください。

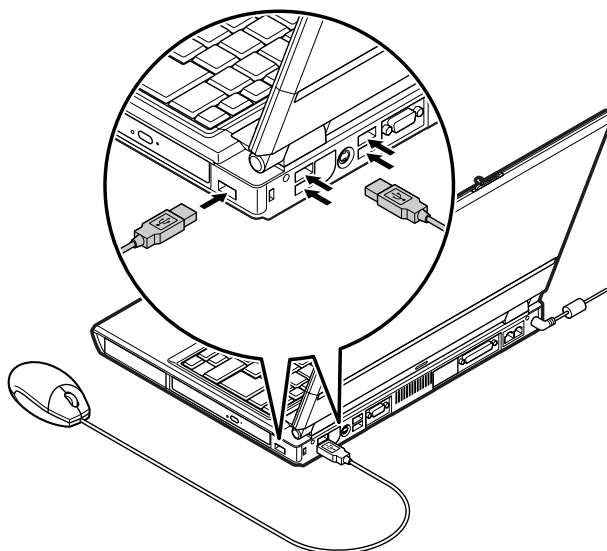
> **Windows XP のツアーを始める**
> Windows XP に搭載された新しい機能を知るには、ここをクリックしてください。ツアーを後で始めるには［スタート］メニューの［すべてのプログラム］をクリックしてから［アクセサリ］をクリックしてください。

これは、Windows XPの新機能を紹介するものですが、パソコンの操作に慣れてから見ることをおすすめします。なお、この表示はしばらくすると自動的に消えます。

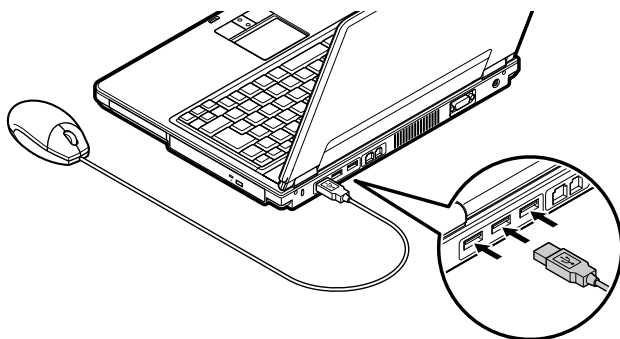
マウスを接続する

USB（ユーエスビー）マウスが添付されているモデルは、必要に応じてパソコンにUSBマウスを接続することができます。プラグの向きに注意して取り付けてください。

マウスのプラグをパソコンのUSBコネクタに差し込む

マウスのプラグの●⊂→が上を向くようにして、パソコンのUSBコネクタに差し込んでください。どのUSBコネクタに差し込んでもかまいません。

アドバンストタイプの場合

ベーシックタイプの場合

このマウスは、マウス底面から出ている赤い光をセンサーが検知して、動きを判断します。濃淡のはっきりした模様や柄のないところ、光沢や反射のないところで使うと、センサーが光を検知しやすく、快適に動きます。

マウスの底面から出ている光を直接見ないでください。

USBマウスを動かすと、画面の矢印が動きます。
うまく動かないときは、一度プラグを抜いて、もう一度差し込んでください。

マウスの設定については、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「マウス」をご覧ください。

お客様登録のお願い

お客様登録はこれからパソコンを安心・快適にお使いいただく上で非常に重要です。ＮＥＣ パーソナル商品総合情報サイト「121ware.com（ワントゥワンウェア・ドット・コム）」では、お客様登録されたかたに充実したサポート・サービスを提供しております。この機会に是非ご登録ください。
※ 法人のお客様としてご使用の場合も、ご登録をおすすめします。

登録料・会費無料

ご登録の特典

特典１　電話サポート

商品についての電話相談窓口「121 コンタクトセンター」をご利用いただけます。
詳しくは『121ware ガイドブック』をご覧ください。

特典２　メールサービス

ご利用製品のサポート情報やキャンペーンのご案内などをメールマガジンでお届けいたします。
詳しくは『121ware ガイドブック』をご覧ください。

特典３　インターネットサポート

121ware.com で「ログイン ID」を取得していただきますと、さまざまなサポート・サービスをご利用いただけます。詳しくは『121ware ガイドブック』をご覧ください。
ログインIDは、「121ware.com」（http://121ware.com/）およびNECショッピングサイト「NEC Direct」（http://www.necdirect.jp/）で共通にご利用いただける ID です。取得方法については『121ware ガイドブック』をご覧ください。

◆ 121ware.com でご利用いただけるサポート・サービス

ログインIDをご登録いただくと…	お客様とNECとのコンタクト履歴がわかる！	電話サポートがよりつながりやすく！	買い取りサービスの申し込みができます！	
ログインIDとE-mailアドレスをご登録いただくと…	121オリジナルメールマガジンをお届け！	「NEC Direct」※でお得にお買い物！	※日本電気(株)が運営するショッピングサイトです。	
ログインIDと保有商品をご登録いただくと…	保有商品の情報をすばやくGET！	保有商品に関するQ&A情報をすばやくGET！	保有商品に合うモジュールをすばやくGET！	パソコンを最新の状態に！「自動アップデート」
ほかにもいろいろなサービスが！	インターネットから電話サポート予約サービス！	お役立ち情報フォローアップメールサービス！		

最新情報・詳細につきましてはインターネットでご確認ください。

お客様登録の方法

お客様登録をして、電話の問い合わせのときに必要な「121wareお客様登録番号」と、インターネットサポート・サービスをご利用になる際に必要な「ログイン ID」を取得してください。
ご登録いただくことでお客様に合ったサポート・サービスをご提供させていただきます。

インターネットによる登録をおすすめします。
「121ware お客様登録番号」と「ログインID」を同時に取得でき、すぐにインターネットサポートが受けられます。
まだインターネットをお使いになれないお客様にはFAX登録をご用意しております。ただし、FAX 登録からでは「121ware お客様登録番号」のみの取得になり、インターネットでのさまざまなサービスがご利用いただけません。
インターネットが使えるようになり次第、「ログイン ID」の取得をおすすめします。

インターネット登録（推奨）

登録の前に、インターネット接続の設定が必要です。設定の方法については、第５章または第６章をご覧ください。

インターネットに接続して、NEC パーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」のマイアカウント（http://121ware.com/my/）から登録します。詳しくは、『121ware ガイドブック』をご覧ください。

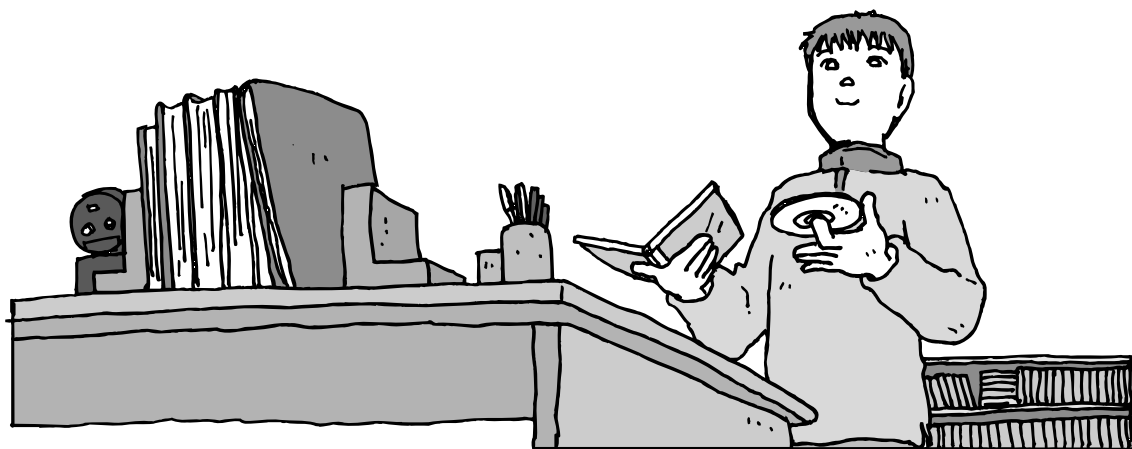
FAX 登録

FAX 用紙は NEC パソコン情報 FAX サービスから取り出してください。

お手持ちの FAX から「0120-977-121」（フリーコール）に電話します。ご希望の窓口案内のアナウンスが流れますので、FAX 情報サービス窓口番号である９番を押します。
FAX 情報サービスにつながりますので、アナウンスにしたがい、BOX 番号 3002 と＃を押し、お客様登録用紙を取り出してください。必要事項をご記入の上、FAX でお送りください。

※番号をよくお確かめになり、おかけください。

第4章

基本中の基本の操作

電源の入れ方／切り方、CD-ROMやDVDのディスクをセットする方法など、このパソコンを使うときの最も基本的な操作を説明します。インターネットの接続や設定に進む前に、この章に目をとおしておくとよいでしょう。

電源の切り方 **44**

電源の入れ方 **47**

スタンバイ機能について **48**

各部の名称と役割 **50**

音量を調節する **55**

CD-ROMやDVDの扱い方 **56**

フロッピーディスクの扱い方 **60**

パソコンがはじめてのかたへ **63**

パソコンの画面で解説、検索「サポートナビゲーター」について **67**

もしものときに備えて **69**

アンテナ線を接続する **71**

ワイヤレスLAN機能について **75**

電源の切り方

パソコンの電源を切るときは、NX パッドやマウスで操作します。本体のスイッチやボタンを押すのではありません。

1 画面を見ながら矢印を動かして、電源を切る

❶ スタート をクリックして、

❷「終了オプション」をクリック

この画面が表示されたら、

❸「電源を切る」をクリック

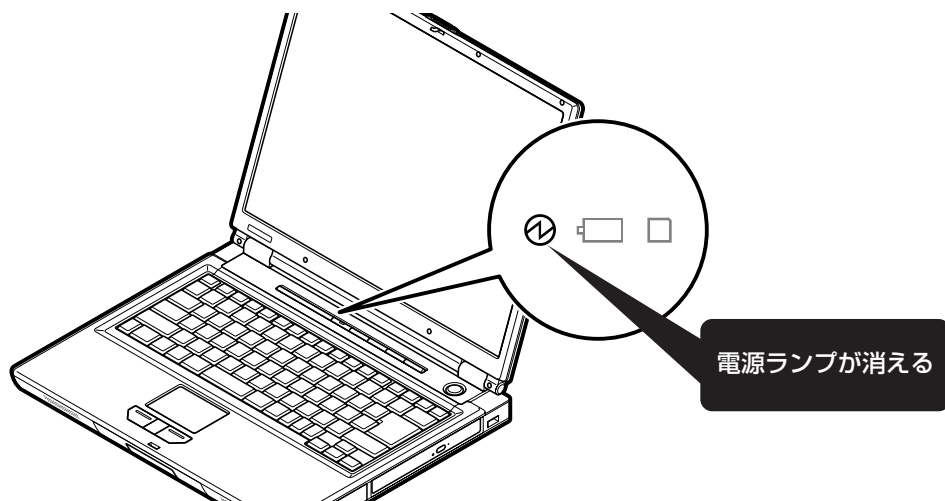
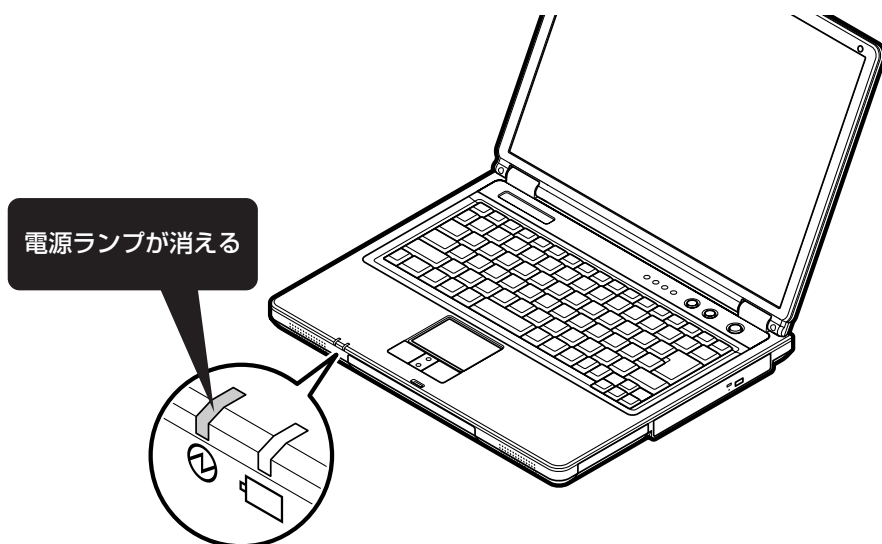
2　電源が切れたことを確認する

数秒後に、ディスプレイの画面が暗くなり、自動的に電源が切れます。

アドバンストタイプの場合

電源ランプが消える

ベーシックタイプの場合

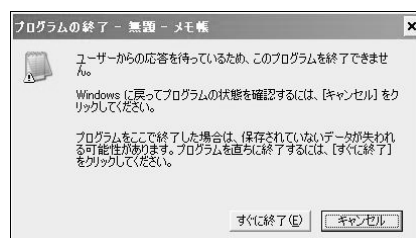
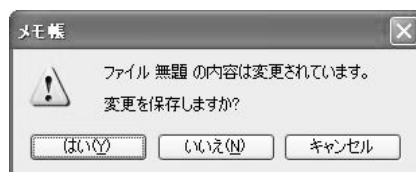
電源ランプが消える

電源が切れるまでに少し時間がかかることも

パソコンの状態によっては、「電源を切る」をクリックした後、電源が切れるまでに数秒以上の時間がかかることもあります。あわてずにお待ちください。

保存していない文書があるとき

ワープロなどのソフトを使っていて作成中の文書がある場合、文書を保存してから終了するか、画面にメッセージが表示されることがあります。

そのままにしていると、数秒後、さらにメッセージが表示されます。

「プログラムの終了」と左上に書かれた画面が表示されたら、「キャンセル」をクリックすることをおすすめします。使用中のソフトを終了させてから電源を切るようにしましょう。

画面の操作で電源が切れないとき

画面の表示が動かなくなったり、操作の途中でＮＸパッドやマウス、キーボードが反応しなくなったりして、パソコンの電源が切れなくなってしまうことがあります。その場合、パソコン本体の電源スイッチを４秒以上押し続けると、強制的に電源を切ることができます。強制的に電源を切ったときは、電源が切れてから５秒以上待ち、もう一度電源スイッチを押してパソコンの電源を入れなおしてください。パソコンの電源が入ったら、改めて画面の操作で電源を切ってください。

パソコン本体の電源スイッチを押し続けて強制的に電源を切ると、パソコンに負担がかかります。何度も繰り返すと、パソコンが起動しなくなってしまうこともあるため、この方法で電源を切ることは、できるだけ避けてください。

電源の入れ方

電源スイッチを１秒程度押して電源を入れます。

1 電源スイッチを押す

アドバンストタイプの場合　　**ベーシックタイプの場合**

プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、パソコン本体の電源を入れる前に周辺機器の電源を入れてください。

リモコンが添付されているモデルでは、リモコンの【電源】ボタンを押すと、省電力状態のときは省電力状態からもとに戻ります。電源が切れていたときは、インスタント機能が起動します。省電力状態についてはパソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「省電力機能」を、インスタント機能については『インスタント機能ガイド』をそれぞれご覧ください。

リモコンの【電源】ボタンを操作するときは、液晶ディスプレイを開いた状態で操作してください。液晶ディスプレイが閉じた状態ではリモコンの【電源】ボタンは動作しません。

１～２分後に、パソコンを使い始めるときの画面が出てきます。

モデルによって、表示される画面の絵柄が異なります。

- **電源を入れてから、左の画面が表示されて、CD/ハードディスクアクセスランプが点滅しなくなるまで、電源スイッチを押したりしないでください。無理に電源を切ると、故障の原因になります。**
- **複数のユーザーを登録している場合、左の画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。**

スタンバイ機能について

パソコンを使っているとき短時間だけ作業を中断したい場合、そのつど電源を切っていると、作業の再開に時間がかかってしまいます。「スタンバイ機能」を利用すると、パソコンの消費電力を抑えながら、すぐに作業を再開することができます。

20分以上使わないと自動的に画面が消える(ご購入時)

パソコンを操作していない時間が20分以上（バッテリのみの場合は5分以上）たつと、画面の表示が消えて暗くなり、電源ランプ⏻が点滅します。この状態を「スタンバイ状態」と呼びます。ご購入時には、自動的にスタンバイ状態になるように設定されています。
スタンバイ状態では、消費電力を抑えるため、パソコン本体に内蔵されているハードディスクの電源も自動的に切れます。

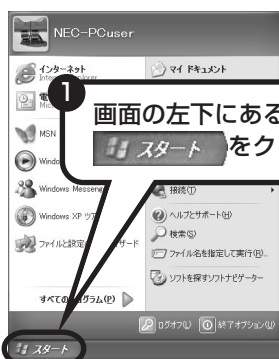
暗くなった画面をもとに戻すには

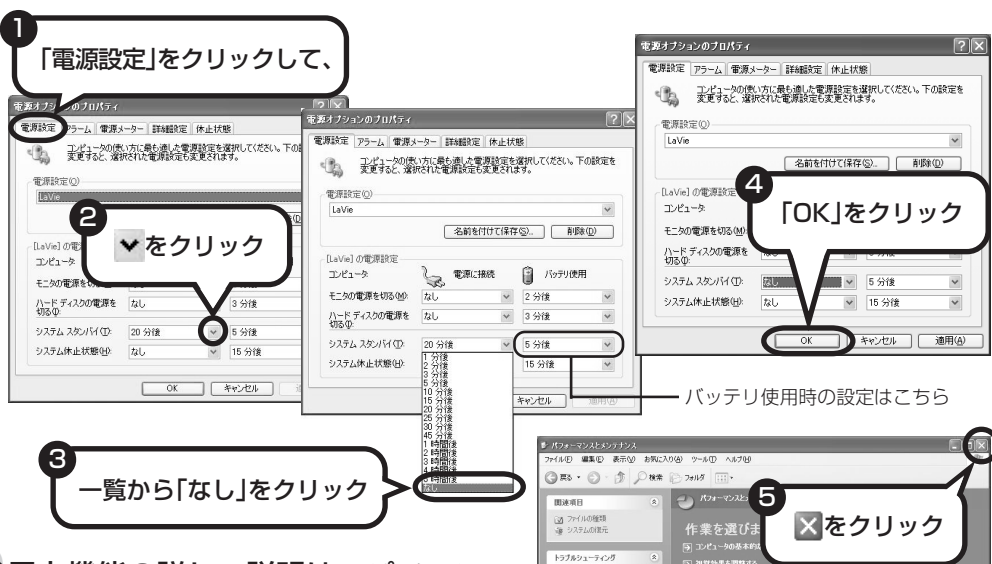
まず、キーボードのキー（【Shift】など）を押してください。キーボードのキーを押しても画面が暗いままのときは、電源スイッチを軽く1回押してください。

電源スイッチを押し続けないでください。4秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。

自動的にスタンバイ状態にならないようにするには

次の手順で、自動的にスタンバイ状態にならないように設定を変えることができます。

1 コントロールパネルの画面を表示する

2 「パフォーマンスとメンテナンス」､「電源オプション」の順にクリック

3 「電源設定」で「システムスタンバイ」を「なし」に変更

これで、設定の変更は終わりです。

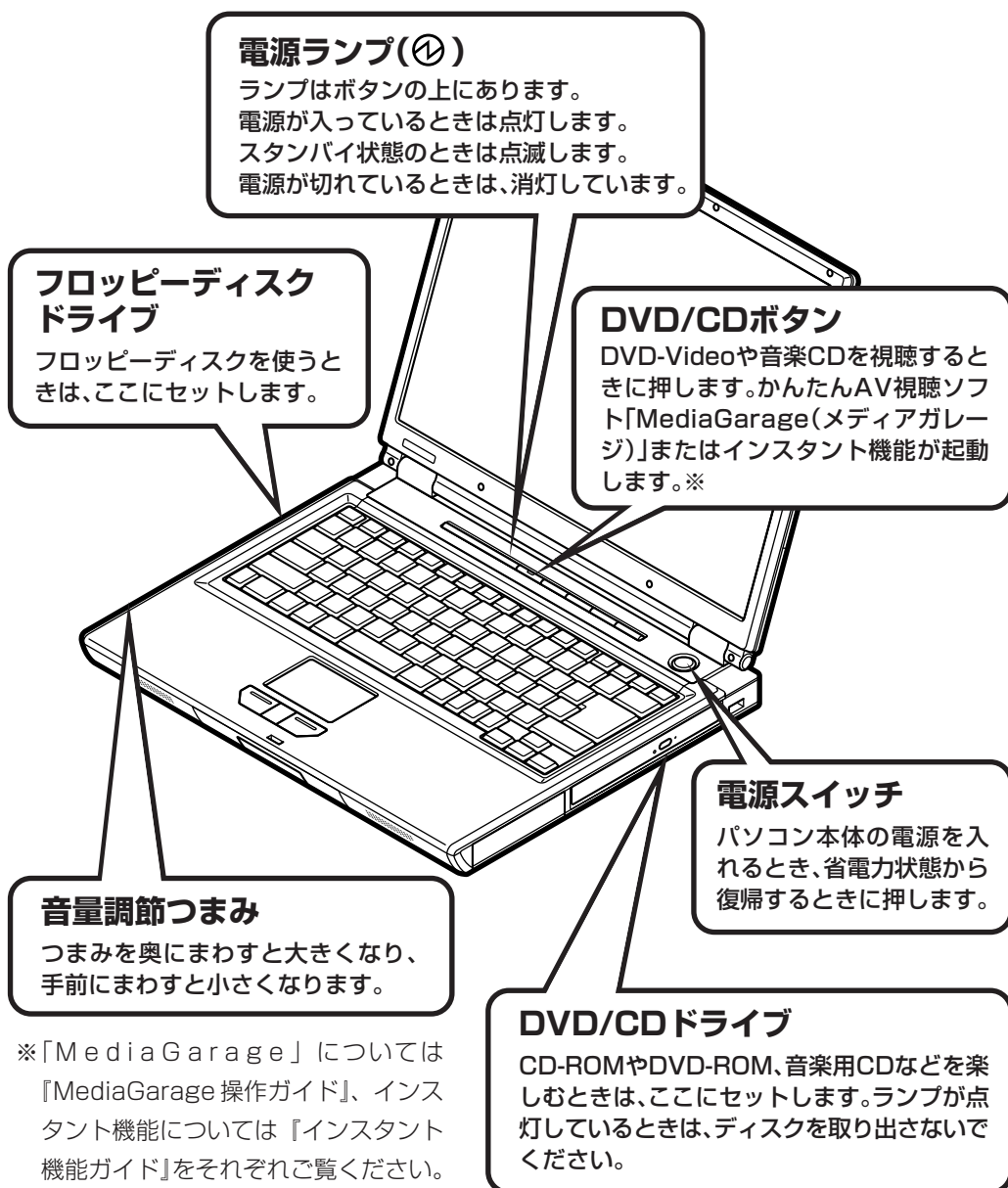
省電力機能の詳しい説明は、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」で

スタンバイ機能は、このパソコンが備えている「省電力機能」のひとつです。パソコンの使用状態や利用するソフト、周辺機器によっては、省電力機能を使わないほうがよいことがあります。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「省電力機能」に説明があります。

各部の名称と役割

ここでは、基本的なボタンなどにかぎって説明します。詳しい情報を知りたいときは、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

アドバンストタイプ（TVモデル除く）

※「MediaGarage」については『MediaGarage操作ガイド』、インスタント機能については『インスタント機能ガイド』をそれぞれご覧ください。

アドバンストタイプ(TVモデル)

電源ランプ(⏻)
ランプはボタンの上にあります。
電源が入っているときは点灯します。
スタンバイ状態のときは点滅します。
電源が切れているときは、消灯しています。

TVボタン
テレビを視聴するときに押します。
かんたんAV視聴ソフト「MediaGarage(メディアガレージ)」またはインスタント機能が起動します。※

DVD/CDボタン
DVD-Videoや音楽CDを視聴するときに押します。「MediaGarage」またはインスタント機能が起動します。※

電源スイッチ
パソコン本体の電源を入れるとき、省電力状態から復帰するときに押します。

音量調節つまみ
つまみを奥にまわすと大きくなり、手前にまわすと小さくなります。

DVD/CDドライブ
CD-ROMやDVD-ROM、音楽用CDなどを楽しむときは、ここにセットします。ランプが点灯しているときは、ディスクを取り出さないでください。

※「MediaGarage」については『MediaGarage操作ガイド』、インスタント機能については『インスタント機能ガイド』をそれぞれご覧ください。

ベーシックタイプ

ワンタッチスタートボタン
ボタンを押すと、あらかじめ割り当てられたインターネットまたはメールのソフトを起動します。
電源スイッチ
パソコン本体の電源を入れるとき、省電力状態から復帰するときに押します。
電源ランプ( )
電源が入っているときは点灯します。
スタンバイ状態のときは点滅します。
電源が切れているときは、消灯しています。
DVD/CDドライブ
CD-ROMやDVD-ROM、音楽用CDなどを楽しむときは、ここにセットします。ランプが点灯しているときは、ディスクを取り出さないでください。

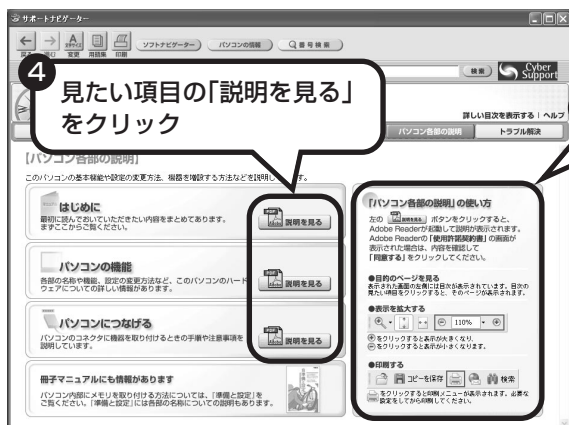
詳しい機能については「パソコン各部の説明」

このパソコンのいろいろな部分の機能や使い方を知ろう

ここで紹介しているボタンやドライブについて、もっと詳しく知りたいときには、「サポートナビゲーター」の中にある「パソコン各部の説明」を見てみましょう。また、ここでは紹介していない部分の機能や使い方も説明しています。たとえば、次のような機能や使い方について知ることができます。

・トリプルメモリースロット（トリプルメモリースロットを搭載しているモデルのみ）
　「SDメモリーカード」「メモリースティック」「xD-ピクチャーカード」などが使えます。デジタルカメラで撮影した画像を見たり、音楽CDの曲を保存するのに便利です。
・ワイヤレススイッチ（ワイヤレスLAN機能のあるモデルのみ）
　ワイヤレスLAN（無線LAN）が使えます。パソコンにケーブルをつなぐことなくインターネットへのアクセスができます。

ほかにも、「パソコン各部の説明」では、このパソコンの便利な設定の方法についても詳しく説明しています。

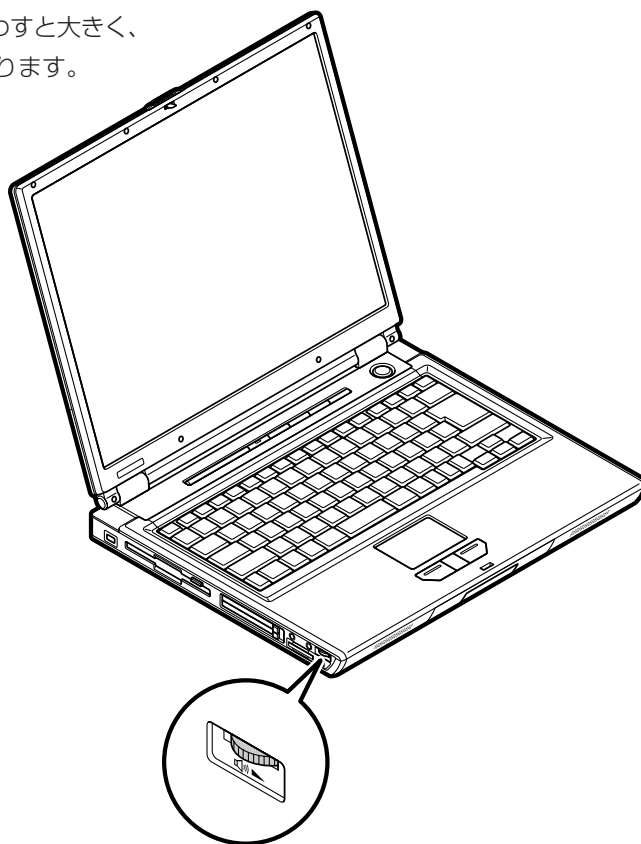
「パソコン各部の説明」を見るためには

「パソコン各部の説明」の画面が表示されます。画面左のしおりから見たい項目をクリックしてください。

音量を調節する

パソコンの音が大きすぎる、小さすぎると感じたときは、音量を調節できます。

音量を調節する方法

アドバンストタイプの場合

音量調節つまみを奥にまわすと大きく、
手前にまわすと小さくなります。

ベーシックタイプの場合

キーボードのキーを使って、内蔵スピーカの音量を調節します。

【Fn】を押しながら【F10】を押すと、音が小さくなります。
【Fn】を押しながら【F11】を押すと、音が大きくなります。

CD-ROMやDVDの扱い方

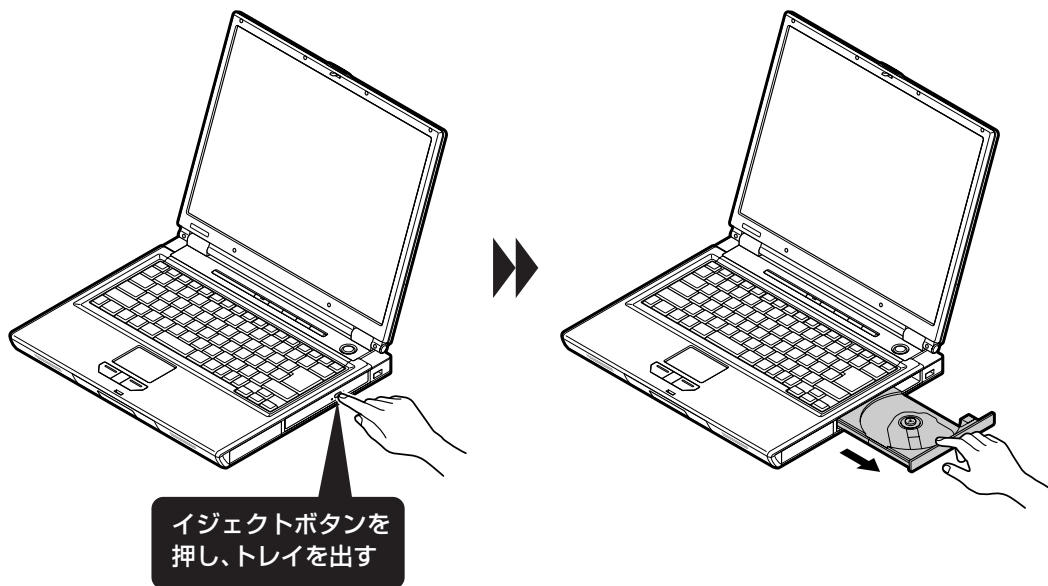
CD-ROMやDVDなどをパソコンで楽しむときの取り扱い上の注意、入れ方と出し方を説明します。

- DVD/CD ドライブ内のレンズには触れないでください。
- ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、使用時の振動や故障の原因になります。
- Windows 95/98/Me 対応の CD-ROM は、このパソコン（Windows XP）で使えないものがあるため、ご購入前に確認してください。
- Macintosh 専用と書かれている CD-ROM は使えません。
- 使用するディスクによっては、最高速度で書き込み、読み込みができない場合があります。
- このパソコンで使えるディスクについて、詳しくは、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「DVD/CD ドライブ」をご覧ください。

ディスクを取り扱うときの注意

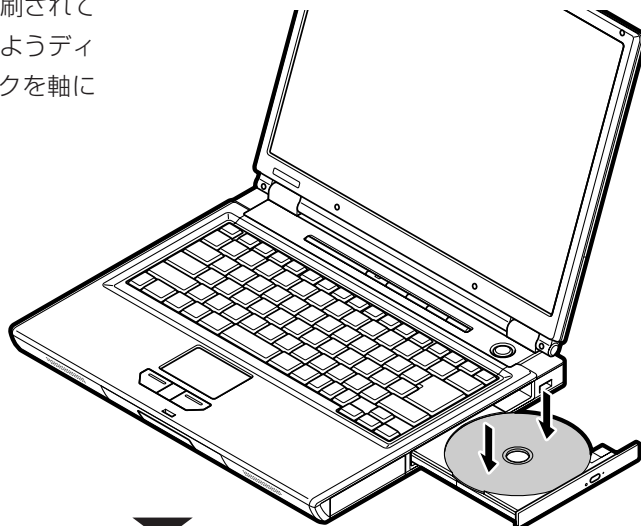
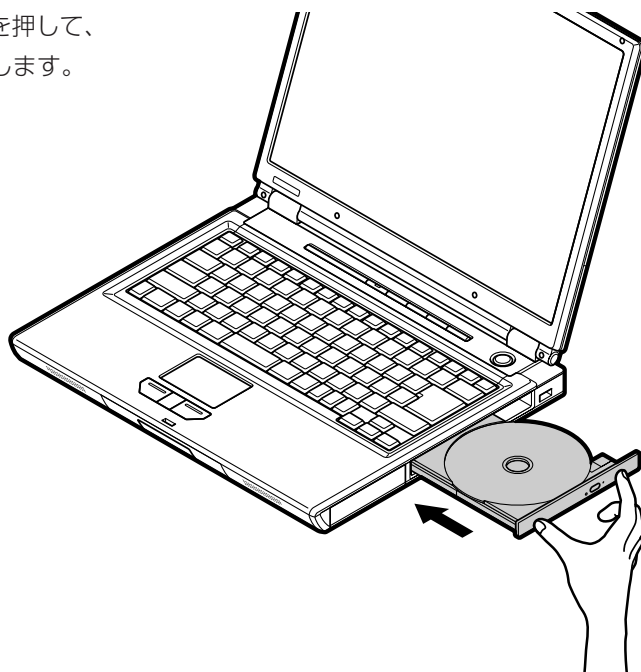
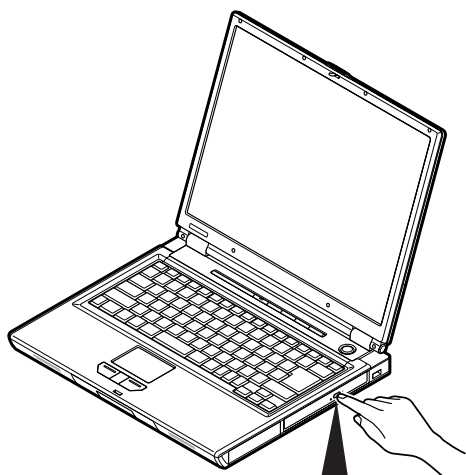
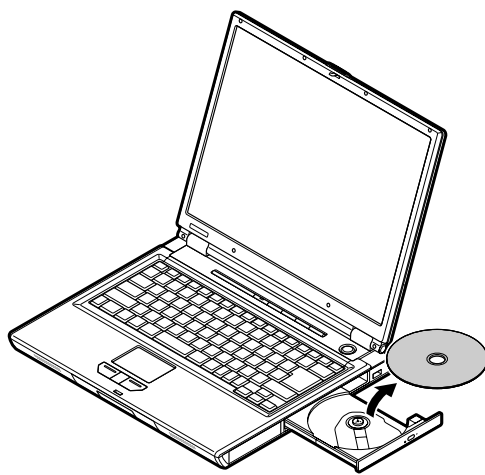
次の注意事項を守ってください。

- データ面（文字などが印刷されていない面）に手を触れない。
- ディスクにラベルを貼ったり、傷つけたりしない。
- ラベル面に文字を書くときは、フェルトペンなどペン先の柔らかいものを使う。
- ディスクの上に重い物を載せない。ディスクを曲げたり落としたりしない。
- 汚れたときは、柔らかい布で内側から外側に向けてふく。
- 汚れが落ちにくいときは、CD 専用のスプレーを使う。
- ベンジン、シンナーなどは使わない。
- ゴミやホコリの多い場所で使わない。
- 直射日光の当たる場所や湿度の高い場所に保管しない。

1 イジェクトボタンを押してトレイを出す

ディスクトレイが少し飛び出したら、手で静かに引き出します。

- **トレイは、パソコンの電源が入っているときのみ出すことができます。**
- **レンズ保護シートがあらかじめ取り付けられている場合は、使用する前に必ずレンズ保護シートを取り外してください。**

2 ディスクを入れる

ディスクのデータ面(文字などが印刷されていない面)を下にして、傷つけないようディスクトレイの中央に置き、ディスクを軸にしっかりはめ込みます。

DVD/CDドライブのイジェクトボタンに触れないようにディスクトレイ前面を押して、ディスクトレイをもとの位置に戻します。

3 ディスクを取り出す

ディスクを取り出したら、トレイを押して、収納してください。

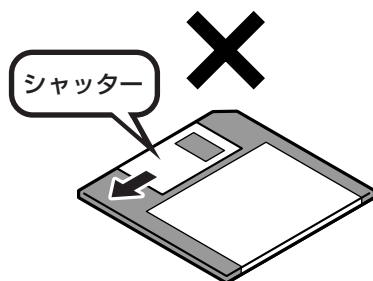
フロッピーディスクの扱い方

フロッピーディスクを使うときの取り扱い上の注意、入れ方と出し方を説明します。

- フロッピーディスクは、1.44M（メガ）バイトでフォーマットされたものを使ってください。
- アドバンストタイプ（TVモデル）とベーシックタイプでフロッピーディスクドライブが添付されていないモデルをお使いの場合、このパソコンでフロッピーディスクを使用するには、別売のフロッピーディスクドライブ（PC-VP-WU14）が必要になります。

フロッピーディスクを取り扱うときの注意

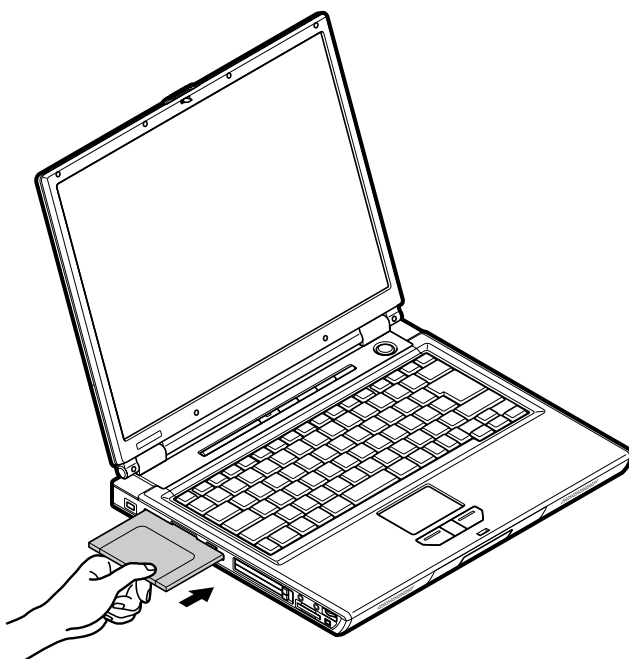
次の注意事項を守ってください。

- シャッターを開けて中のディスクに直接触れない。
- ラベルを貼ってから、鉛筆やペンで記入したり、消しゴムを使ったりしない。
- ラベルは正しい位置に貼る。ラベルを２枚以上重ねて貼らない。
- ゴミやホコリが多い場所で使わない。
- 外側が汚れたものは使わない。
- クリップなどではさんだり、投げたり、落としたりしない。
- 上に重い物を載せたり、曲げたりしない。
- 直射日光の当たる場所、暖房器具の近くなど温度が高くなる場所に保管しない。

磁石に注意

フロッピーディスクは磁力で情報を記憶しています。このため、磁石を近づけると内容が消えたりデータの一部が破損されたりします。磁石はテレビやスピーカにも使われているため、これらの上にフロッピーディスクを置かないでください。ホワイトボードや冷蔵庫に紙を留めておくための磁石も要注意です。

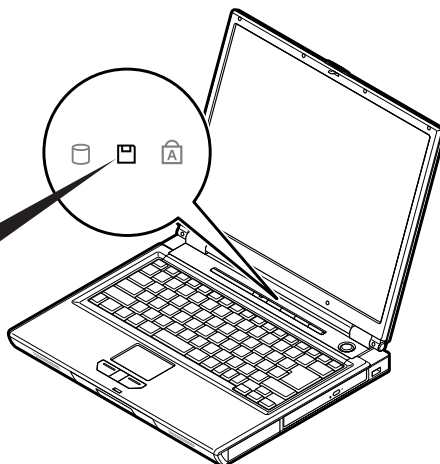
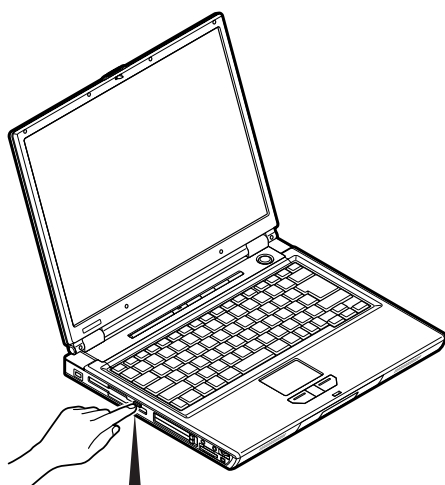
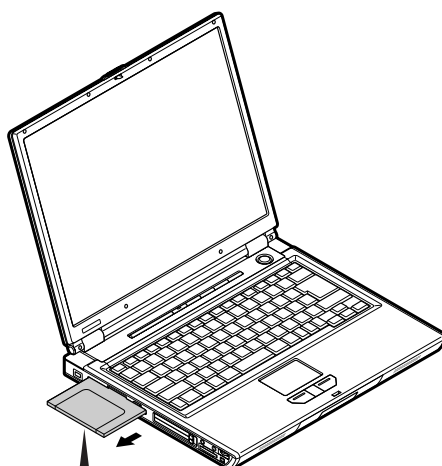
1　フロッピーディスクをセットする

フロッピーディスクを入れる場所をフロッピーディスクドライブといいます。

パソコンの電源を入れる前にフロッピーディスクをセットしないでください。

ラベルの面が上になるように一番奥まで差し込みます。カチャッと音がして、フロッピーディスクがセットされます。

ファイルを開く・ファイルを保存する

パソコンで作った文書などをフロッピーディスクに保存することができます。保存された文書のことを「ファイル」と呼びます。フロッピーディスクなどに保存されているファイルの内容をパソコンの画面で見ることを「ファイルを開く」といいます。

2 フロッピーディスクを取り出す

ランプが点灯しているときは、フロッピーディスクにファイルを保存したり、ファイルを開いたりしている途中であることを示します。ランプの点灯中は、フロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスクの内容が破損されることがあります。

フロッピーディスクを曲げないように、まっすぐ引き出してください。

パソコンがはじめてのかたへ

このパソコンに入っている「パソコンのいろはⅡ」を使って、基本操作を学んでみましょう。パソコンを使うのがはじめてというかたは、インターネットを始める前にキーボードで文字を入力する練習をしておくことをおすすめします。

「パソコンのいろはⅡ」で操作を学ぶ

このパソコンには、基本的なことからパソコンの操作が学べる「パソコンのいろはⅡ」が入っています。「パソコンのいろはⅡ」では、文字の入力、電子メールのやりとり、ホームページを見る方法などを学ぶことができます。パソコンの基本操作を覚えたいかたは、次の手順にしたがって「パソコンのいろはⅡ」で学習を始めてみましょう。

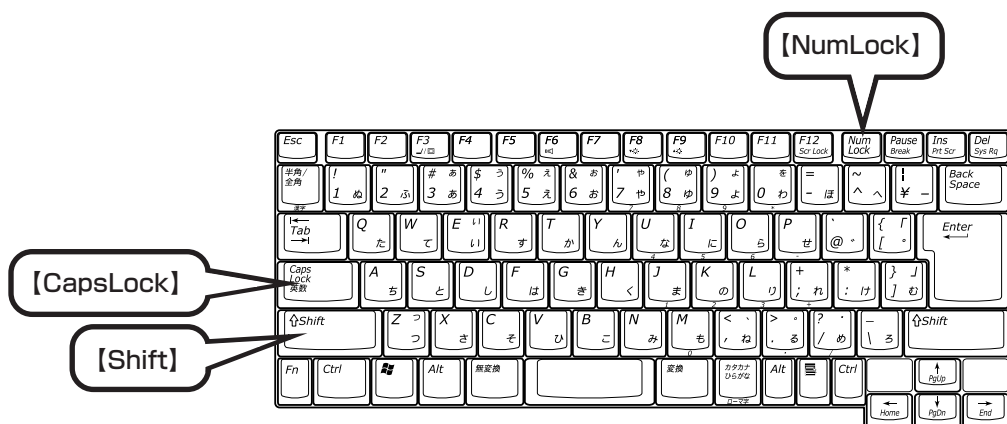
ほかのソフトが起動しているときは、「パソコンのいろはⅡ」を始める前にすべて終了させてください。

1 ランプを確認する

のランプが消えていること

【NumLock】（ニューメリックロック）を押すと、ランプの点灯／消灯が切り換わります。

のランプが消えていること

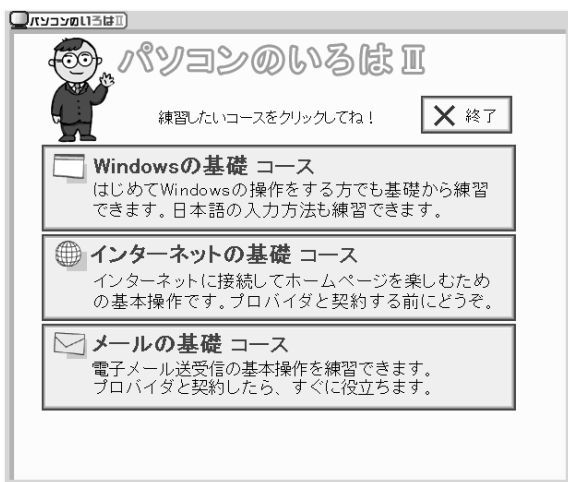
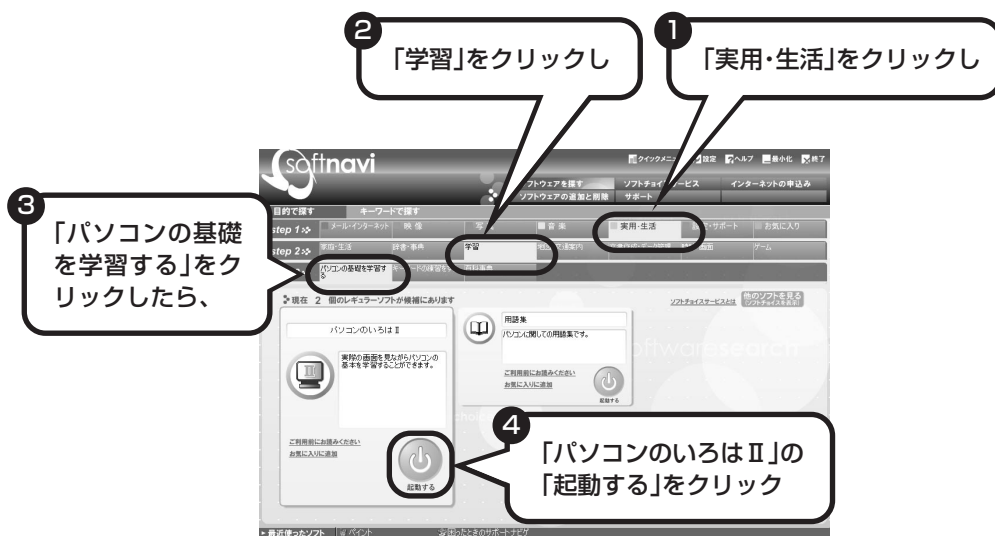
【Shift】（シフト）を押したまま【CapsLock】（キャップスロック）を押すと、ランプの点灯／消灯が切り換わります。
【Shift】はキーボードに2つありますが、どちらか1つを押すだけでかまいません。

2 ソフトナビゲーターを起動する

ソフトナビゲーターの最初の画面が表示されます。

画面右にある「おすすめメニューバー」の「ソフトを探す」をクリックすることでもソフトナビゲーターを起動できます。

ソフトナビゲーターとは

このパソコンに入っているソフトを見つけたり、使い始めるときに利用します。ソフトナビゲーターについて詳しくは、『活用ブック』の「パソコン初心者道場」-「基本編」をご覧ください。

3 「パソコンのいろはⅡ」を始める

「パソコンのいろはⅡ」の最初の画面が表示されます。

4 「Windowsの基礎コース」へ進む

パソコンを使うのがはじめてのかたは、「クリックの練習」から始めてください。1～2時間で文字の入力まで練習することができます。練習の途中で「パソコンのいろはⅡ」を終わることもできます。その場合、画面右上に表示されている「終了」をクリックしてください。画面中央に「パソコンのいろはⅡを終了します。」と表示されるので、「OK」をクリックします。

「終了」をクリックしても「パソコンのいろはⅡを終了します。」と表示されないときは、キーボードの【Esc】を押してから、再度「終了」をクリックしてください。

「メールの基礎コース」は、インターネット接続の設定が終わってから

「パソコンのいろはⅡ」には、次の３つのコースがあります。

・Windowsの基礎コース
・インターネットの基礎コース
・メールの基礎コース

パソコンがはじめてのかたは、「Windowsの基礎コース」から順番に進めることをおすすめします。
「メールの基礎コース」は、メールソフト「Outlook Express（アウトルックエクスプレス）」の設定が済んでいないと練習することができません。Outlook Expressを使うには、まずプロバイダに入会して、インターネット接続の設定をする必要があります。入会がまだのかたは、プロバイダに入会して、インターネット接続ができるようにしてください。
プロバイダへの入会、インターネット接続の設定については、第５章をご覧ください。
Outlook Expressの設定については、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフト一覧」-「Outlook Express」をご覧ください。

パソコンの画面で解説、検索「サポートナビゲーター」について

紙で見るマニュアルのほかに、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」があります。このパソコンのさらに詳しい使い方を知りたいとき、パソコンを使っていて困ったときに見てみましょう。

サポートナビゲーターを起動する

使い方の紹介ムービーの後、「サポートナビゲーター」の最初の画面が表示されます。

- 画面右にある「おすすめメニューバー」の「困ったときには」をクリックすることでも「サポートナビゲーター」を起動できます。
- 使い方の紹介ムービーは、[説明をスキップする]を押して省略することもできます。

目的に応じて5つの入り口があります。これから知りたいこと、やろうとしていることに合わせて、ボタンをクリックしてください。

つながった後のインターネット　ウイルス対策やセキュリティの設定などについて説明しています。

パソコン使いこなし術　Windowsの便利な使い方など、一歩進んだ使い方を説明しています。

ソフトの紹介と説明　このパソコンに入っているソフトの使い方などを説明しています。

パソコン各部の説明　このパソコンの各部の機能や設定について、詳しい情報を知りたいときに利用してください。

トラブル解決　うまくいかないときや、故障かな？と思ったときに利用してください。

パソコンの中を検索してみる

知りたい項目が見つからないときは、キーワードを入力して検索してみましょう。

選んだ検索範囲の中から、入力したキーワードが含まれる項目が検索されます。

はじめて検索するときは、CyberSupportの「使用許諾契約」が表示されます。内容をよく読み、「同意する」をクリックしてください。その後、パソコンが検索するための設定をおこないますので、結果が出るまで少しお待ちください。
次回からは、すぐに結果が出るようになります。

もしものときに備えて

- 大切なデータはこまめにバックアップ
- 再セットアップ用ＤＶＤ/CD-ROMの作成はお早めに
- 不正アクセスはパスワードで阻止

大切なデータはバックアップを取る

バックアップとは

パソコンに内蔵されているハードディスクには、大切なデータが保存されています。このハードディスクは、ちょっとした衝撃によって壊れたり、長期間使用するうちに突然動かなくなったりすることがあります。このような場合、ハードディスクを交換したり再セットアップすることでパソコンをご購入時の状態に戻すことはできますが、大切なデータが失われてしまいます。万一のアクシデントに備えて、データの控えを残しておきましょう。このデータの控えのことを「バックアップ」と呼びます。

DVD-RやCD-Rなどにもバックアップを取っておく

このパソコンに搭載されている「バックアップ－NX（エヌエックス）」というソフトを使って、バックアップを取ることができます。
ただし、ハードディスクのDドライブという場所にバックアップを取っておいても、ハードディスク自体が故障したときは、データをもとに戻すことができません。別売のDVD-RやCD-Rなどにもバックアップを取っておくことをおすすめします。

再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成しておく

トラブルがどうしても解決できないときにおこなう「再セットアップ」は、通常、ハードディスク内にある再セットアップ用データを使います。けれども、ハードディスクが故障した場合は、この方法で再セットアップすることができなくなります。そのような場合に備え、再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成しておき、そのディスクから再セットアップすることができるようにしておきましょう。再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成する方法については、「再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成する」（174ページ）をご覧ください。

再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成する場合は、「DigitalMedia」（再セットアップ用DVD/CD-ROMの作成に必要なソフト）のアップデート前に作成してください。ご購入時の製品構成以外では、作成できないことがあります。

Windows起動時のパスワードを設定する

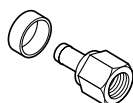
不正アクセス被害防止や情報の保護など、セキュリティ対策のため、Windows 起動時にパスワードを入力する設定をしておくことをおすすめします。
手順については、「サポートナビゲーター」-「パソコン使いこなし術」-「複数の人でパソコンを使う（マルチユーザー機能）」-「パスワードを設定する」をご覧ください。

アドバンストタイプ（TV モデル）の場合、TV 機能を使って予約録画をする際、Windows 起動時のパスワードによって動作が異なります。詳しくは『パソコンでテレビを楽しむ本』をご覧ください。

アンテナ線を接続する

テレビや地上アナログデータ放送を見る準備をします。アンテナに接続されているケーブルにF型コネクタプラグ（市販）を取り付けます。

用意するもの

いまお使いのアンテナ線の形状によって必要なものが異なります。
市販のF型コネクタプラグ、または市販のF型コネクタプラグ付きアンテナケーブルでパソコン本体と接続します。

F型コネクタプラグ

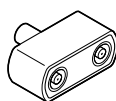
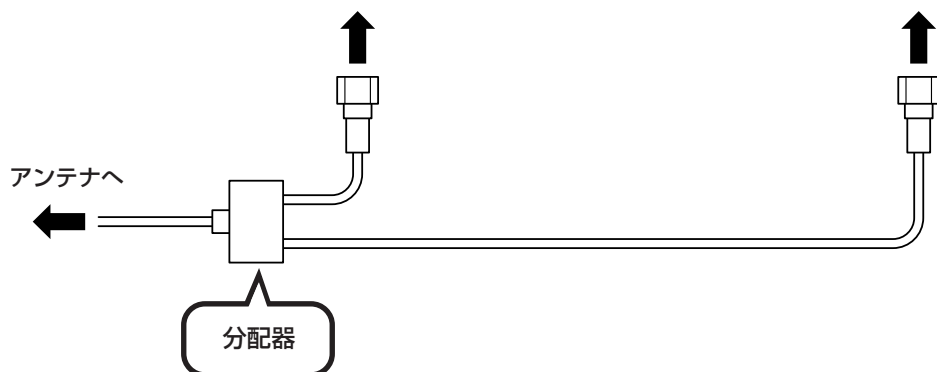
F型コネクタプラグ付きアンテナケーブル

このほか、アンテナ線の状態によっては、U/V混合器や分配器が必要になります。お使いのアンテナ線の状態に合わせて、適したものをお買い求めください。

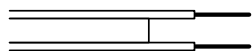
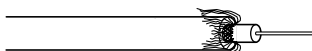
F型コネクタプラグやF型コネクタプラグ付きアンテナケーブルは、このパソコンには添付されていません。
アンテナケーブルとパソコン本体の接続には、ネジタイプを使ってください。

アンテナ線をパソコン本体とテレビ（またはビデオ）の両方に接続したい

市販の分配器を使えば、アンテナ線を2つにできます。分配した後で、市販のF型コネクタプラグの付いた同軸ケーブルで、パソコンと接続してください。

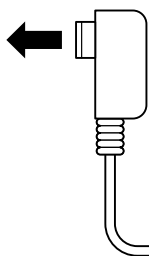
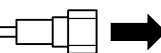
分配機

テレビをつなぐなどしてアンテナを分配すると、電波が弱くなります。このため、ディスプレイの画面がちらついたり、きれいに映らないことがあります。この場合は、市販のアンテナブースターを接続してください。詳しくは、お近くの電器店などにご相談ください。

アンテナ線に平行フィーダを使っている

アンテナ線が平行フィーダの場合は、市販の整合器を使用して、同軸ケーブルに変更してください。詳しくは、お近くの電器店などにご相談ください。

アンテナ線の状態を確認する

いまお使いのアンテナ線はどうなっていますか？

壁面などにアンテナ端子があるとき⇒F型コネクタプラグ付きアンテナケーブル

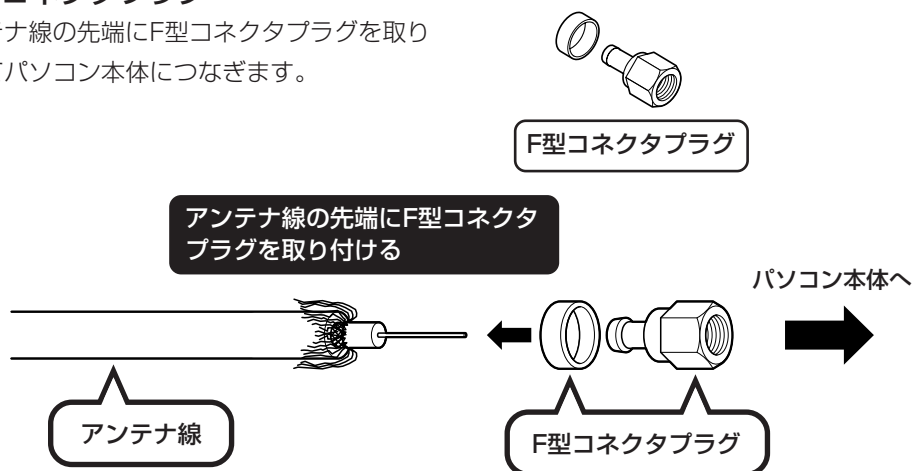
マンションなどで壁面にアンテナ端子だけがある場合は、市販のF型コネクタプラグの付いた同軸ケーブルをお買い求めください。

これ以外にも壁側の端子とそれに適合するプラグの形状にはいくつかのタイプがありますので、お近くの電器店などにご相談ください。

アンテナケーブルには上の図のように一方のプラグの形状が箱型になっているものもあります。その場合は、次のように接続してください。

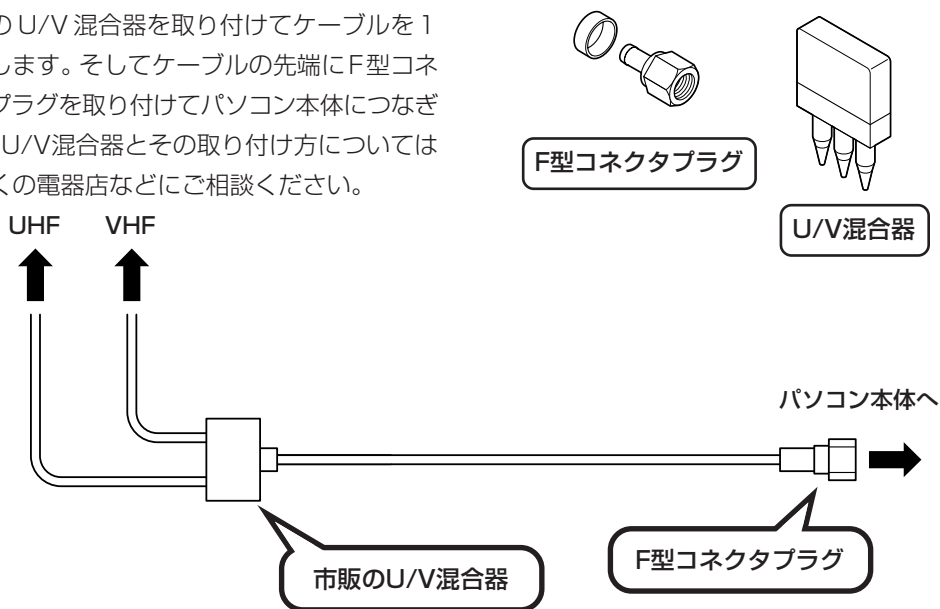
- **箱型→壁の端子**
- **ネジタイプ→パソコン本体**

箱型のプラグをパソコン側のコネクタに使用すると、ノイズの影響を受けやすくなり、データ放送を正常に受信できないことがあります。

アンテナ線が1本（UHFのみまたはVHFのみか、UHF/VHF混合）のとき⇒F型コネクタプラグ

アンテナ線の先端にF型コネクタプラグを取り付けてパソコン本体につなぎます。

ケーブルにF型コネクタプラグを取り付ける方法について、詳しくは「ケーブルにF型コネクタプラグを取り付ける」（205ページ）をご覧ください。

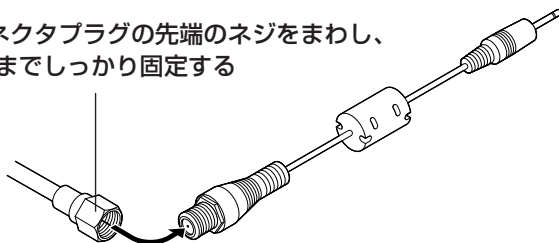
アンテナ線が2本（UHFとVHF）のとき⇒F型コネクタプラグ、U/V混合器

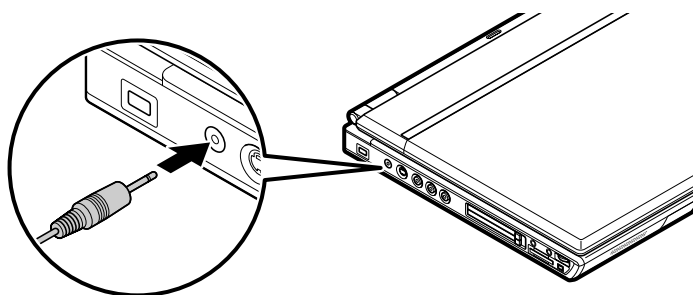
市販のU/V混合器を取り付けてケーブルを1本にします。そしてケーブルの先端にF型コネクタプラグを取り付けてパソコン本体につなぎます。U/V混合器とその取り付け方についてはお近くの電器店などにご相談ください。

アンテナ線を本体につなぐ

1 パソコンや周辺機器の電源を切る

アンテナ線を接続する前に、必ず添付の『安全にお使いいただくために』をご覧ください。

2 電源コードのプラグをコンセントから抜き、ACアダプタをパソコンから取り外す

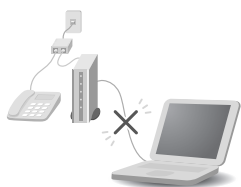
3 TVアンテナ変換ケーブルとTVアンテナケーブルを接続する

コネクタ中心部の小さな穴に、F型コネクタプラグの中心にある金属線を差し込んでください。金属線は折れやすいので、ていねいに扱ってください。

4 アンテナ入力端子(Y)にTVアンテナ変換ケーブルを差し込む

ワイヤレスLAN機能について

ワイヤレスLAN機能を搭載しているモデルは、無線でネットワークに接続することができます。

ワイヤレスLANでブロードバンドを楽しむ（ワイヤレスLAN機能のあるモデルのみ）

ワイヤレスLANとは、LANケーブルを無線（ワイヤレス）にしたものです。ワイヤレスLANを活用すれば、たくさんのケーブルが必要だったインターネット接続が変わります。

家の中で

ブロードバンドを利用するときは、パソコンとネットワーク機器をLANケーブルで接続します。ワイヤレスLANを使うと、この部分のケーブル接続が不要になります。
ワイヤレスLANの規格や使用環境にもよりますが、ワイヤレスLANの電波は、建物の壁などもある程度越えて届きます。ワイヤレスLANを導入すれば、パソコンの設置場所や持ち運びがもっと自由になり、使い方が広がります。

外出先で

最近は、「無線LANスポット」と呼ばれる公衆無線LANサービスも増えてきました。これは、ワイヤレスLANを用いたネットワークをホテルや飲食店などに設置し、利用客に無料または有料で、インターネット接続環境を提供するものです。
外出先でも自分のノートパソコンを使ってインターネットに接続できるため、頻繁にパソコンを持ち歩くかたに便利なサービスです。

ワイヤレスLANは便利ですが、セキュリティの対策をしっかりしないと、外部からネットワークに入られて無断で利用され、情報を読まれてしまう危険があります。そうならないように、ワイヤレスLANを使うときは暗号化など、セキュリティをしっかり設定してください。

ワイヤレスLANの種類はいろいろある

ワイヤレス LAN には現在、IEEE802.11b 、IEEE802.11g、IEEE802.11a の 3 種類があり、組み合わせによっては接続できない場合もあるので注意が必要です。

トリプルワイヤレス LAN（Super AG 対応）モデルでは、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11a に対応しています。

デュアルモードワイヤレスLAN（Super G対応）モデルでは、IEEE802.11b 、IEEE802.11g に対応しています。IEEE802.11a のみに対応したネットワーク機器は使用できません。

ワイヤレス LAN それぞれの種類には、次のような特徴があります。

	規格上の論理値（通信速度）※	周波数	特　徴
IEEE802.11b	11/5.5/2/1 Mbps モード	2.4GHz	対応機器が多く、互換性が高い規格
IEEE802.11g	54/48/36/24/18/12/6Mbps モード	2.4GHz	・IEEE802.11b よりも高速な通信が可能 ・IEEE802.11b 対応機器との通信も可能
IEEE802.11a		5GHz	・電波法により、屋内でのみ使用可能 ・電波干渉の問題が少ない

※ 各規格による理論的な通信速度をもとにした通信モード表記です。通信の実効速度はこの通信モードの50%以下になります。通信速度は、パソコンと相手の機器の間の電波の状態や距離によっても変化します。

ワイヤレスLAN機能や、設定方法について詳しくは、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「ワイヤレス LAN（無線 LAN)」をご覧ください。

ワイヤレスLAN接続に必要な機器

ワイヤレス LAN 機能を利用してインターネットなどのネットワークにアクセスするには、次のようなネットワーク機器が必要になります。

◆無線 LAN アクセスポイント（ブリッジタイプ）

ワイヤレスLAN 機能のないルータを使って、すでにインターネットに接続している場合に使います。

◆無線 LAN ルータ（ルータタイプの無線 LAN アクセスポイント）

ブロードバンドでルータ機能のないモデムを使用している場合に使います。

機器を購入するときは、このパソコンと通信できるかどうかを確認してください。

このパソコンでワイヤレスLANを使うには

このパソコンでワイヤレス LAN 機能を使うには、次の 2 つの操作が必要です。

1 ワイヤレススイッチをオンにする

このパソコンでワイヤレス LAN を使うには、まずワイヤレススイッチをオンにしてください。

アドバンストタイプの場合

ご購入時の状態では、ワイヤレススイッチはオフに設定されています。

・ワイヤレススイッチがオンのときにはワイヤレスランプが点灯します。
・もう一度ワイヤレススイッチを押すと、ワイヤレスLAN機能がオフになり、ワイヤレスランプが消灯します。

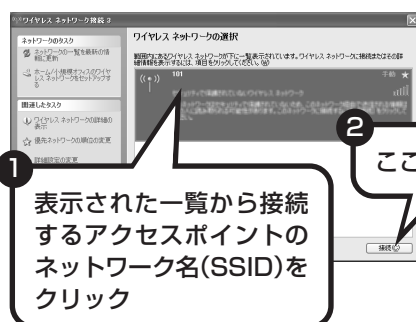
ベーシックタイプの場合

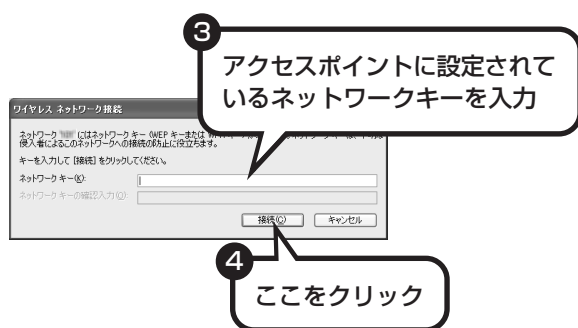
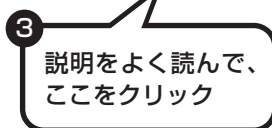
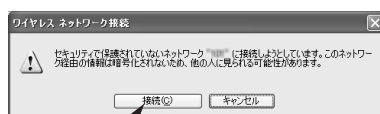
ご購入時の状態では、ワイヤレススイッチはオフに設定されています。

・ワイヤレススイッチがオンのときにはワイヤレスランプが点灯します。
・ワイヤレススイッチをオフにすると、ワイヤレスLAN機能がオフになり、ワイヤレスランプが消灯します。

2 Windows XPの標準ユーティリティを使って設定する

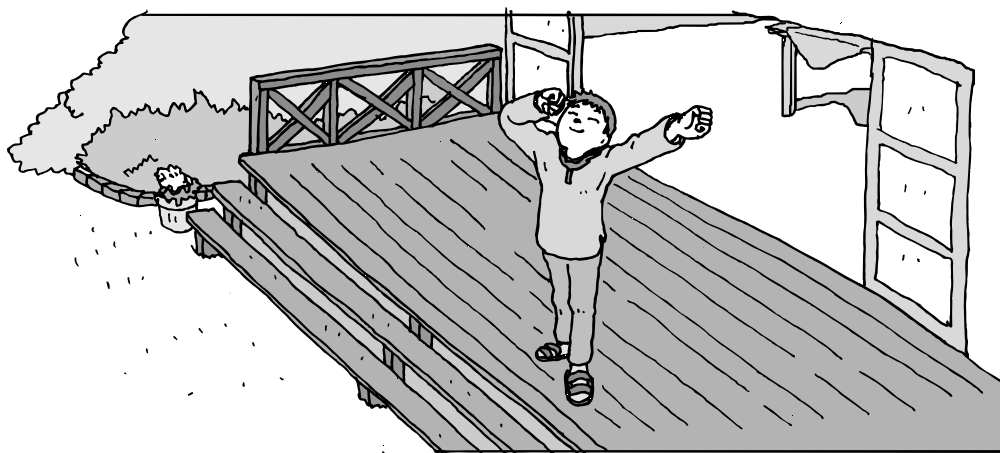
無線LANアクセスポイント（アクセスポイント）とワイヤレス接続するには、Windows XPの標準ユーティリティを使って、接続の設定をおこなう必要があります。接続しようとしているアクセスポイントの電源を入れてから、次の手順で設定してください。機器によって設定が異なる場合があるので、お使いのアクセスポイントのマニュアルもご覧ください。

1 「スタート」-「接続」-「ワイヤレスネットワーク接続」をクリック

- 接続するネットワーク名が表示されない場合は、「ネットワークの一覧を最新の状態に更新」をクリックしてください。
- アクセスポイントのキーインデックスを1以外に設定している場合、およびステルス機能（SSIDの隠蔽）を利用している場合は、この手順では、設定できません。詳しくは「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「ワイヤレスLAN（無線LAN）」をご覧ください。

ネットワークキーが要求された場合

警告が表示された場合

無事に設定が終わると、画面右下にが表示されます。

- 画面右下に、が表示されている場合、またはが表示され続ける場合は、ネットワークキーが正しいか確認してください。
- ルータ機能を持たない（無効にしている）アクセスポイントに接続していて、さらに他のルータにも接続していない場合は、接続しているアクセスポイントのマニュアルをご覧になり、「ワイヤレスネットワーク接続」に適切なIPアドレスを設定してください。
- 「ワイヤレスクライアントマネージャ」でワイヤレス接続をおこなうこともできます。詳しくは「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「ワイヤレスLAN（無線LAN）」をご覧ください。

第 5 章

これからインターネットを始めるかたへ

インターネットを利用してホームページを楽しんだり、メールをやりとりするためには、パソコンを通信回線に接続し、インターネット接続業者（プロバイダ）に入会する必要があります。ここでは、はじめて自分のパソコンでインターネットを始めるかたを対象に、接続や設定の手順を説明します。前に持っていたパソコンで、すでにインターネットを利用していたかたは、「第６章　パソコンを買い替えたかたへ」（119ページ）へ進んでください。

インターネットの魅力 80
いろいろある接続方法 81
ブロードバンドにもいろいろある 82
ブロードバンド接続の流れ 84
プロバイダに入会する 86
ブロードバンド接続の設定.............................. 91
ルータを利用したブロードバンド接続の設定 98
インターネットに接続する 103
ダイヤルアップ接続の設定........................... 104
メールソフトを設定する 107
パソコンを安全に使うための設定をおこなう 113

インターネットの魅力

インターネットは、わずかの間にものすごい勢いで普及が進んで、私たちの生活に身近なものになりました。

ホームページ

インターネットは情報の宝庫です。役所などの公共機関や大きな企業だけでなく、近所の商店や小さな工場まで、本当にいろいろな人たちが、自分のホームページを持つようになりました。電車の乗り継ぎや発車時刻をホームページで調べたり、バーゲンセールの目玉商品をホームページでチェックするなど、インターネットがあれば、生活のちょっとしたことが便利になります。

メール

インターネットを利用したメール(「電子メール」とか「Eメール」ともいいます)を使うと、家族や友人、仕事や趣味の仲間たちと手軽に連絡することができます。日本全国どこでも、世界中のどこにいる人とでも、料金を気にせず用件を伝えられること。デジタルカメラで撮った写真などをメールと一緒に送信できること。相手が都合のよいときにメールを見ればよいので、時間帯を気にしなくてよいこと。このような便利さのために、いまでは、たくさんの人たちにとって、メールが欠かせない通信手段になっています。

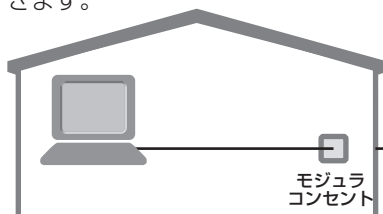
まだまだある、インターネットの魅力

インターネットの通信回線を使って、格安の料金で市外電話や国際電話を利用することができる「IP電話」というサービスを利用することもできます。ホームページを経由して、買い物をしたり(「オンラインショッピング」といいます)、ソフトやデータを自分のパソコンに取り入れたり(「ダウンロード」といいます)、使う人それぞれにインターネットは活用されています。

いろいろある接続方法

インターネットを利用するための接続方法には、いろいろなものがあります。はじめに、ダイヤルアップ接続か、ブロードバンド接続かを決めましょう。

ダイヤルアップ接続

家庭にある一般の電話回線にパソコンを接続して、インターネットを利用します。このパソコンには、モデム（データを電話回線経由でやりとりできるように変換する装置）が内蔵されているため、添付の電話回線ケーブル（モジュラケーブル）を使って、いますぐにインターネットを始めることができます。別に新しい機器をご購入する必要はありません。また、接続した時間分だけ料金を支払うことができるため、利用頻度や利用時間が少ない場合には、いちばん安い料金でインターネットを利用することができます。

ダイヤルアップ接続の短所も知っておこう

けれども、この後に説明する「ブロードバンド接続」と比べると、ダイヤルアップ接続には次のような短所もあります。このため、ホームページの利用頻度が少なく、メールを中心にインターネットを利用したいかたに向いています。

・通信速度が遅いため、ホームページがなかなか表示されないことや、動画などを再生できないことがある。

・パソコンでインターネットを利用しているときは、電話が使えない（電話をかけてきた相手には、話し中になります）。

ブロードバンド接続

大量のデータを高速に受け取ることができる通信方式を使って、快適にインターネットを利用できるようにする接続方法です。次ページで説明するように、ブロードバンド接続にもいろいろな種類がありますが、おおよそ次のような特徴があります。

・いくらインターネットを利用しても、月額料金が変わらない（定額料金）。

・パソコンでインターネットを利用しているときも、電話が使える。

・接続するには、別の機器（ADSL モデムなど）が必要になる。

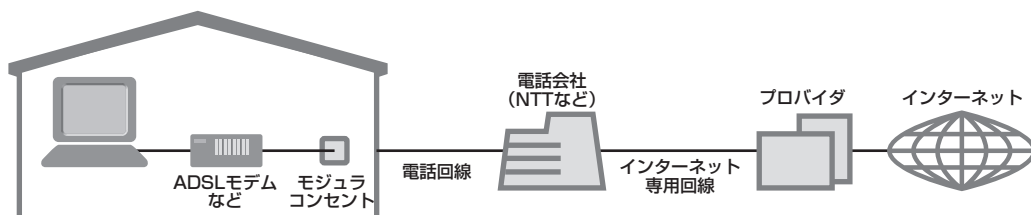
・回線の申し込みや工事が必要になることがある。

・住んでいる地域によっては、利用できないことがある。

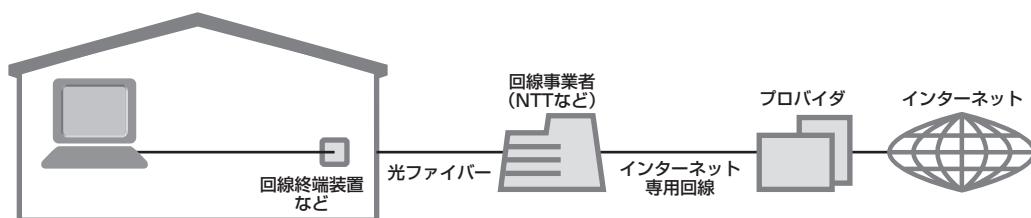
ブロードバンドにもいろいろある

インターネットを高速、快適に利用できるブロードバンド接続には、次のような種類があります。

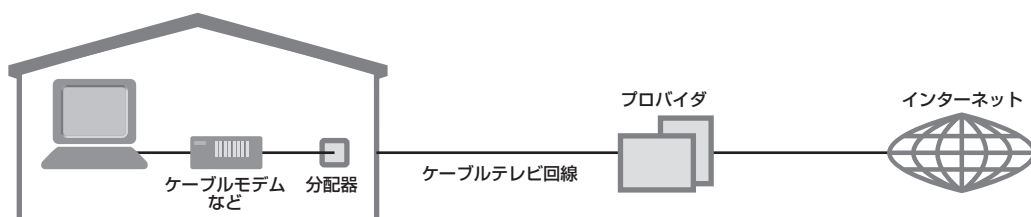
ADSL(エーディーエスエル)

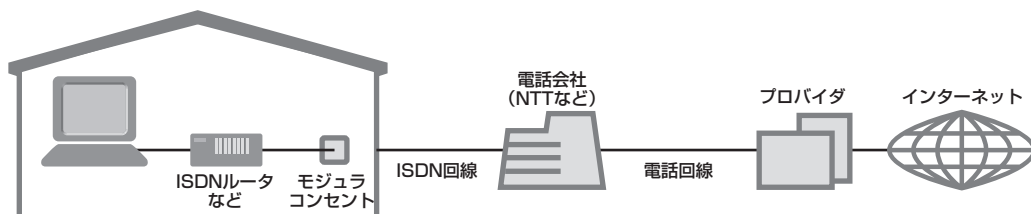
家庭にあるアナログ回線（一般の電話回線）とパソコンの間に「ADSL モデム」という接続機器を入れることによって、高速な通信ができます。

ADSL モデムには、おもに「ブリッジタイプ」と「ルータタイプ」の２種類があります。ブリッジタイプのADSLモデムは、１台のパソコンからインターネットに接続できます。ルータタイプの ADSL モデムは、複数のパソコンからインターネットに接続できます。
また、ブリッジタイプのADSLモデムでも、パソコンとADSLモデムの間に「ルータ」（ブロードバンドルータ）という通信機器を入れることで、ルータタイプのADSLモデムを使ったときと同様に、複数のパソコンからインターネットに接続できるようになります。

FTTH(エフティーティーエイチ)

光ファイバーを使った回線を利用するものです。ほかのブロードバンド方式よりも高速な通信をおこなうことができますが、利用料金はADSLなどに比べて高くなる場合もあります。FTTHを提供する回線事業者は増えており、サービスの提供地域も広がっています。
ADSLと異なり、受信だけでなく情報を送信する速度も大幅に上がるため、インターネットを利用したアルバムサービスなど、大きなデータをやりとりする場合にも短時間で処理できます。

家の中まで光ケーブルを直接引き込み、回線終端装置に接続するという工事をおこなう必要があります。回線終端装置とパソコンは、LANケーブルで接続します。複数のパソコンからインターネットに接続する場合は、回線終端装置とパソコンの間にルータを接続します。
FTTH では、集合住宅向けのサービスも提供されています。

CATV(ケーブルテレビ)

ケーブルテレビの回線を使ってインターネットに接続します。ケーブルテレビのサービスが提供されていない地域では利用できません。

ISDN回線でインターネットも利用できる

NTTのデジタル回線、ISDN（アイエスディーエヌ）に契約している場合、この回線を使ってインターネットを利用することもできます。通信速度は、アナログ回線を使ったダイヤルアップ接続より少し高速になる程度で、ブロードバンド接続ほどの速さを期待することはできませんが、電話とインターネットを同時に利用できます。また、料金も従量制（使った時間に応じて料金が変化）だけでなく、定額制（いくら使っても同じ金額）を選ぶこともできます。

ブロードバンド接続の流れ

ADSL の場合を例として、インターネットに接続するまでの流れを説明します。

1 プロバイダや申し込みたいコース(料金プラン)を決める

プロバイダとは、インターネット接続業者のことです。特に会社を決めていない場合、NECが提供するインターネットプロバイダ BIGLOBE に入会することをおすすめします。
詳しくは「プロバイダに入会する」(86 ページ)をご覧ください。

2 プロバイダに申し込む

このパソコンから直接申し込むことができます。パソコンをアナログ回線に接続して、操作を進めます。
詳しくは「プロバイダに入会する」(86 ページ)をご覧ください。

3 ADSL回線の開通を待つ

ADSL は、回線を NTT 東日本または NTT 西日本が提供するもの(フレッツ・ADSL)と、別の回線事業者(イー・アクセスやアッカなどという会社があります)が提供するものがあります。どこが回線を提供するかや、通信速度などによってコース(料金プラン)が分かれています。
ADSL を利用できるか適合チェックをおこなってから、必要に応じて ADSL 対応モデムの準備や電話回線の工事などをおこないます。申し込みから開通までは、通常、数週間かかります(BIGLOBEなどのプロバイダは、申し込んでからADSL回線が開通するまでの間、ダイヤルアップ接続でインターネットを利用できるようにしています)。
申し込みから回線の開通までについて詳しくは、各回線事業者にお問い合わせください。

4 回線装置を接続して、パソコンの設定を変更する

ADSL モデムなどの回線装置をパソコンに接続して、パソコンの設定を変更します。
回線や機器によって接続方法や設定が異なります。「入会手続きが完了したら」(90 ページ)をご覧ください。

申し込みたいコース（料金プラン）を決めるには

多くのプロバイダは、ブロードバンド方式、回線事業者、通信速度などの種類別に、たくさんのコース（料金プラン）を用意しています。あらかじめ、プロバイダのパンフレット（BIGLOBEの『インターネット活用ブック』など）を見て検討してください。また、お住まいの地域や建物の状況によって利用できないサービスがあります。申し込みたいコースが利用できるかどうか、プロバイダにお問い合わせください。また、集合住宅の場合は、オーナーや管理組合の承認が必要な場合があるので、こちらも確認してください。

ADSL以外の接続の場合

FTTH

お住まいの地域や建物で光ファイバーの利用が可能か、回線事業者の担当者がコンサルティングをおこないます。詳しくは、プロバイダにお問い合わせください。
申し込む回線事業者や必要な工事によっても異なりますが、申し込みから開通まで、一般に数週間〜2か月程度の時間がかかります。

CATV

ケーブルテレビ局への申し込みが必要です。申し込み手続きやインターネット接続用機器の設置などについては、ご利用地域のケーブルテレビ局にお問い合わせください。
開通までに必要な時間は、ケーブルテレビ局によって異なります。各ケーブルテレビ局にお問い合わせください。

ISDN

BIGLOBEの場合、ダイヤルアップコースの中にある「フレッツ・ISDN」が該当します。これまでアナログ回線で電話を利用していたかたは、ISDN回線への切り換え工事をおこない、TA（ターミナルアダプタ）などのISDN接続機器を設置する必要があります。

プロバイダに入会する

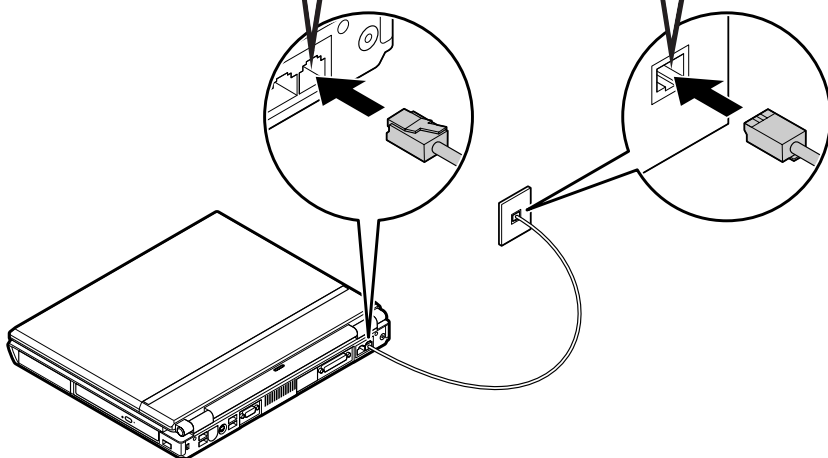
BIGLOBE（ビッグローブ）に入会する場合を例に、プロバイダ（インターネット接続業者）に入会する手順を説明します。このパソコンからプロバイダに入会を申し込む前に、パソコンと電話線を接続する必要があります。

1 アナログ回線に接続する

アドバンストタイプの場合

❶ 電話機を壁などの電話接続用コンセント（モジュラコンセント）から取り外す

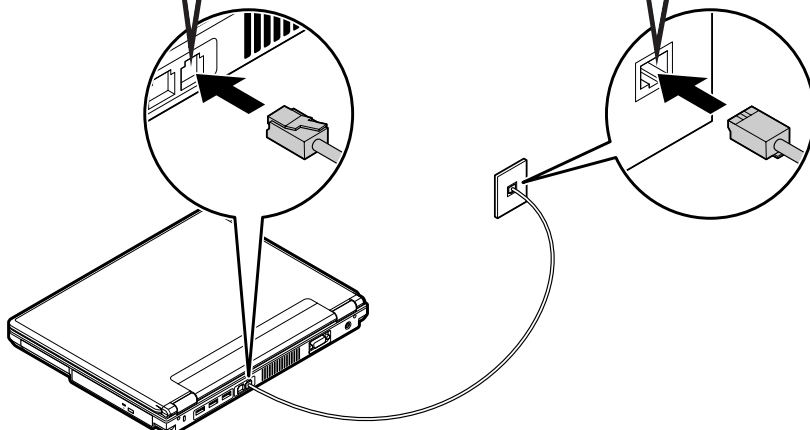
❷ 添付の電話回線ケーブルを接続する（パソコン側）

❸ 添付の電話回線ケーブルを接続する（壁側）

パソコンと電話回線をつなぐ電話回線ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

ベーシックタイプの場合

❶ 電話機を壁などの電話接続用コンセント(モジュラコンセント)から取り外す

❷ 添付の電話回線ケーブルを接続する(パソコン側)

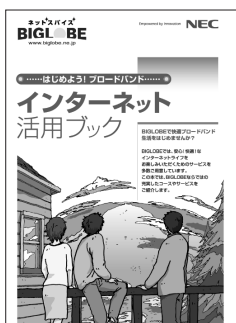
❸ 添付の電話回線ケーブルを接続する(壁側)

パソコンと電話回線をつなぐ電話回線ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

インターネット無料体験について

画面に表示されている(インターネット無料体験)をダブルクリックすると、専用ソフトが起動して14日間無料でインターネットを体験できます（電話料金は別途かかります)。プロバイダに入会を申し込む前に、インターネットのホームページを見ることができます。

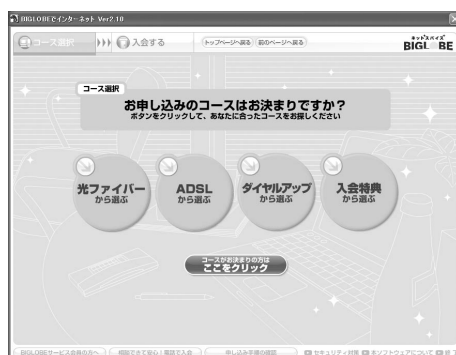
有効期限は 2007 年 3 月 31 日までです

・ここでは、このパソコンから直接入会する手順を説明します。キーボードから自分の名前や住所などを入力する必要があります。

・プロバイダの契約申込書に記入して、FAXや郵送で申し込むこともできます。BIGLOBEの契約申込書は、『インターネット活用ブック』に入っています。
「BIGLOBE電話で入会センター」でお電話での入会申し込みもできます。

プロバイダって何をするの？

プロバイダはインターネットに24時間つながっているコンピュータ（「サーバー」といいます）を管理しています。このサーバーが、メールを一時的に預かってくれたり、インターネットにつなげる中継役になってくれるのです。プロバイダは、「ISP（インターネット・サービス・プロバイダの略）」と呼ばれることもあります。

2 BIGLOBEへの入会手続きを始める

デスクトップ画面の（BIGLOBEでインターネット）をダブルクリックします。

この後の手順は、申し込もうとしているコースに合わせて、画面に表示される指示にしたがって進めてください。

その他のプロバイダに入会するには

デスクトップ画面の（インターネットを始めよう）をダブルクリックすると、さまざまなプロバイダに入会する手続きができます。

入会したいプロバイダの名前をクリックする

クリックしたプロバイダのサービス内容などが、同じ画面の右側に表示されます。その中から「入会する」などの表示をクリックすると、各プロバイダへの入会手続きが始まります。

この方法で入会できるのは、次のプロバイダです。

BIGLOBE、AOL、DION、OCN、ODN、So-net、WILLCOM、かるがるネット、Yahoo! BB

ケーブルテレビなど、上記以外のプロバイダに入会したい場合、各プロバイダまでお問い合わせください。

入会手続きが完了したら

ブロードバンド接続(ADSL、FTTH)でルータを利用しない場合

ブリッジタイプのADSLモデムやFTTHの回線終端装置とこのパソコンを直接接続してブロードバンド接続する場合は、「ブロードバンド接続の設定」(91ページ)をご覧になり、設定をおこなってください。

ブロードバンド接続(ADSL、FTTH)でルータを利用する場合

ルータやルータタイプのADSLモデムを利用してブロードバンド接続する場合は、「ルータを利用したブロードバンド接続の設定」(98ページ)をご覧になり、設定をおこなってください。ルータには、ブリッジタイプのADSLモデムやFTTHの回線終端装置を接続します。

ダイヤルアップ接続を利用する場合

「ダイヤルアップ接続の設定」(104ページ)をご覧になり、設定をおこなってください。FAXや郵送でプロバイダに入会申し込みをした場合は、まず「プロバイダに入会する」(86ページ)の手順でこのパソコンとアナログ回線を接続してから、設定をおこないます。

集合住宅型のブロードバンド接続やCATVのブロードバンド接続を利用される場合、このパソコンに接続する機器の種類や設定については、回線事業者やケーブルテレビ局へお問い合わせください。

ブロードバンド接続の設定

ブロードバンドの通信回線が開通したら、パソコンを通信回線に接続して、設定をおこないます。

ここで説明している設定や流れは、あくまでも一例です。お使いの機器やプロバイダにより設定は大きく異なります。プロバイダから入手した説明書や、プロバイダのホームページなどで設定を確認することをおすすめします。

必要なもの

回線事業者やプロバイダから入手した資料

プロバイダの会員証など、ユーザー名やパスワードがわかる資料を用意してください。また、プロバイダから入手した接続設定用マニュアルやCD-ROMなどがある場合、そのマニュアルやCD-ROMにしたがって設定をおこなってください。

LANケーブル

ADSLモデムなどに添付されていなければ、LAN（ラン）ケーブルをお買い求めください。LANケーブルには「ストレートケーブル」と「クロスケーブル」の2種類があります。パソコンとADSLモデムなどのインターネット接続機器をつなぐときは、ストレートケーブルを使用してください。

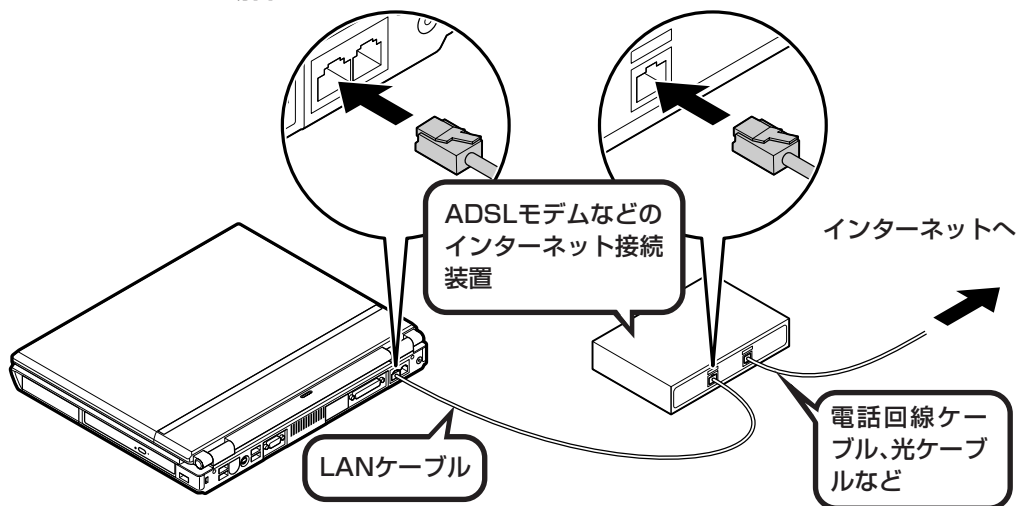
インターネット接続機器

ブロードバンド回線の種類によって次のような機器が必要です。詳しくは、入会申し込みの時点でプロバイダにご確認ください。

・ADSL：ADSLモデム

・CATV：ケーブルモデム（CATV開通工事で設置）

・FTTH：回線終端装置（回線工事で設置）

1 図のように接続する

アドバンストタイプの場合
ADSLモデムなどのインターネット接続装置
インターネットへ
電話回線ケーブル、光ケーブルなど
LANケーブル
ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。
ベーシックタイプの場合
ADSLモデムなどのインターネット接続装置
インターネットへ
LANケーブル
電話回線ケーブル、光ケーブルなど
ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

2 ウィザードを表示する

❶ スタート をクリックして、

❷「コントロールパネル」をクリック

❸「ネットワークとインターネット接続」をクリック

❹「ネットワーク接続」をクリック

❺「新しい接続を作成する」をクリック

3 ウィザードにしたがって操作する

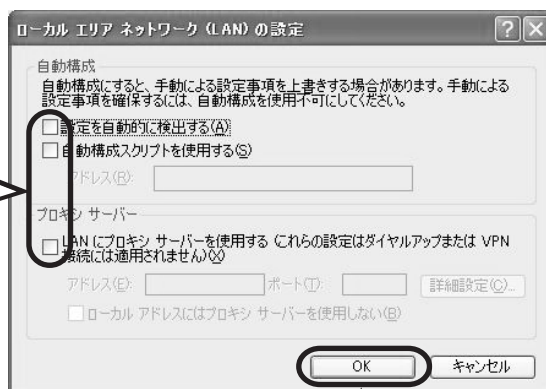
ユーザー名とは

プロバイダに接続するための識別番号で、BIGLOBEの場合は「ユーザID」と呼ばれます。プロバイダから送られた会員証などで確認してください。「ログインID」、「アカウント名」などと呼ばれることもあります。

パスワードとは

本人であることを証明するための暗証番号です。プロバイダから送られた会員証などで確認してください。「接続パスワード」などと呼ばれることもあります。

「完了」をクリックすると、新しい接続ウィザードの画面が閉じ、プロバイダに接続するための画面が開きます。

4 「インターネットのプロパティ」で「LANの設定」をする

❶ スタート をクリックして、

❷ 「コントロールパネル」をクリック

❸ 「ネットワークとインターネット接続」をクリック

❹ 「インターネット接続のセットアップや変更を行う」をクリック

❺ 「接続」をクリックして、

❻ 「通常の接続でダイヤルする」をクリック

❼ 「LANの設定」をクリック

☑ になっている項目があるときは、クリックして□に変更してください。

「OK」をクリックすると、「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」の画面が閉じます。続けて、「インターネットのプロパティ」の画面でも「OK」をクリックして閉じてください。

これで、ルータを利用しないブロードバンド接続の設定は完了です。「インターネットに接続する」（103 ページ）へ進んでインターネットへの接続を試してください。

ルータを利用した ブロードバンド接続の設定

ブロードバンドの通信回線が開通したら、パソコンを通信回線に接続して、設定をおこないます。

ここで説明している設定や流れは、あくまでも一例です。お使いの機器やプロバイダにより設定は大きく異なります。プロバイダから入手した説明書や、プロバイダのホームページなどで設定を確認することをおすすめします。

必要なもの

回線事業者やプロバイダから入手した資料

プロバイダの会員証など、ユーザー名やパスワードがわかる資料を用意してください。また、プロバイダから入手した接続設定用マニュアルやCD-ROMなどがある場合、そのマニュアルやCD-ROMにしたがって設定をおこなってください。

LANケーブル

ADSLモデムなどに添付されていなければ、LAN（ラン）ケーブルをお買い求めください。LANケーブルには「ストレートケーブル」と「クロスケーブル」の2種類があります。パソコンとADSLモデムなどのインターネット接続機器をつなぐときは、ストレートケーブルを使用してください。

インターネット接続機器

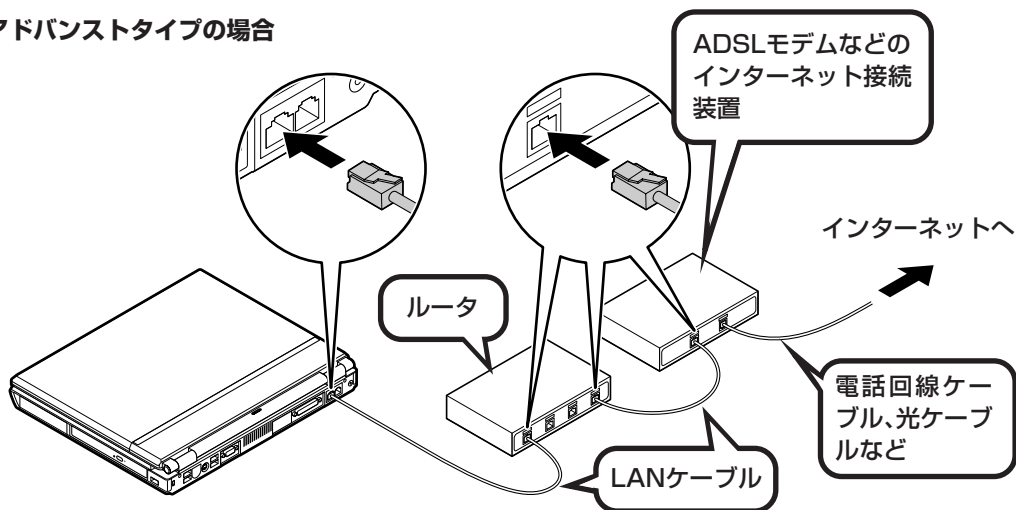
ブロードバンド回線の種類によって次のような機器が必要です。詳しくは、入会申し込みの時点でプロバイダにご確認ください。

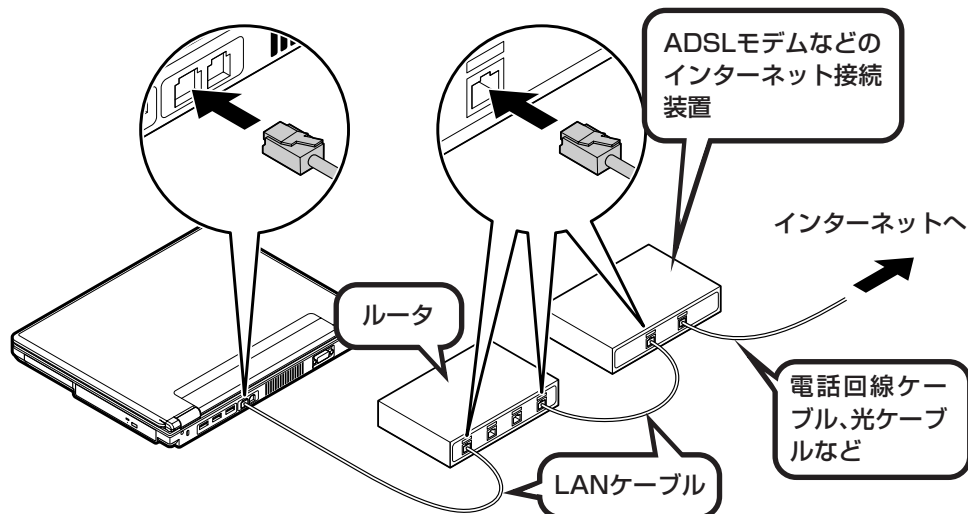
・ADSL：ADSLモデム

・CATV：ケーブルモデム（CATV開通工事で設置）

・FTTH：回線終端装置（回線工事で設置）

1 図のように接続する

アドバンストタイプの場合

・ルータタイプの ADSL モデムは、パソコンに直接接続します。
・ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

ベーシックタイプの場合

・ルータタイプの ADSL モデムは、パソコンに直接接続します。
・ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

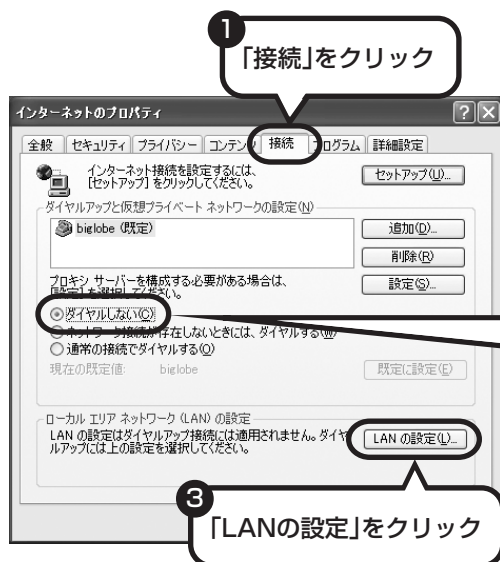
ルータとパソコンを接続したら

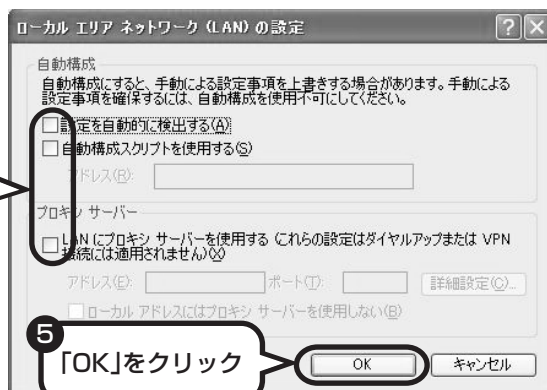
ユーザー名やパスワードなどの接続情報をルータに設定、登録してください。詳しくは、ルータのマニュアルやプロバイダから入手した説明書、資料をご覧ください。

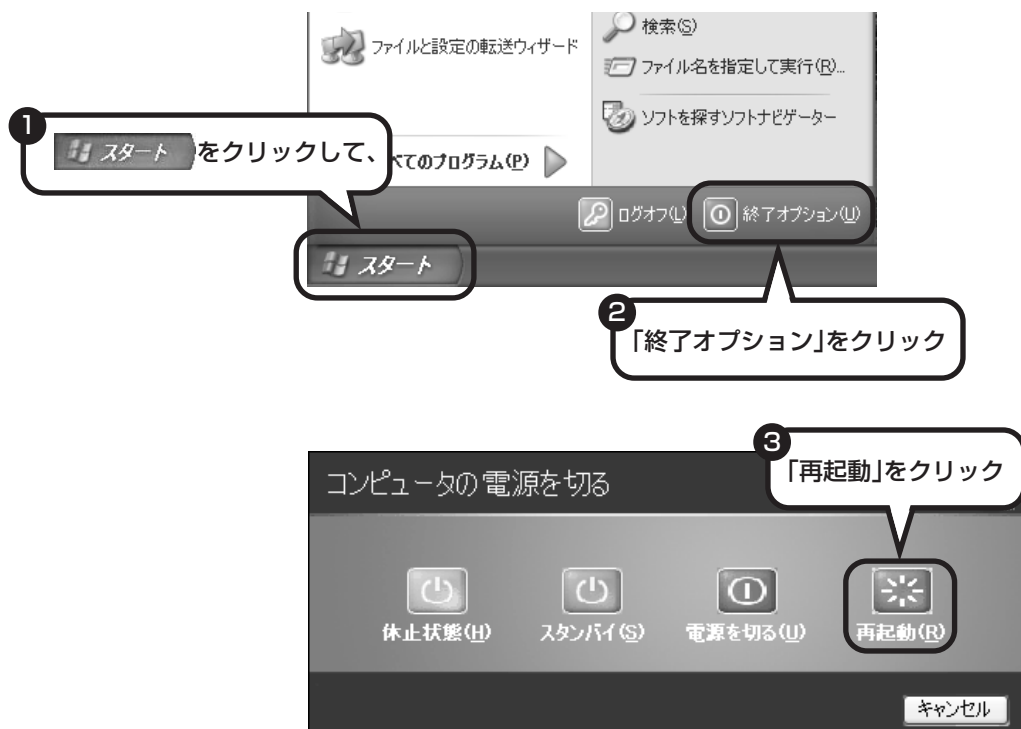
・接続情報を設定、登録しないと、このパソコンでの設定が終わってもインターネットに接続できません。

・ユーザー名、パスワードについては、95ページをご覧ください。

2 インターネットのプロパティを表示する

3 「ダイヤルしない」に設定する

「ダイヤルしない」をクリックできないときは、そのまま「LANの設定」をクリックして、次の手順に進んでください。

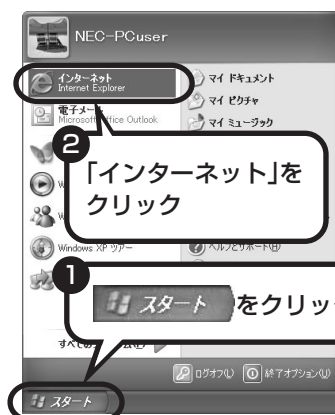
☑ になっている項目があるときは、クリックして □ に変更してください。

「OK」をクリックすると、「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」の画面が閉じます。続けて、「インターネットのプロパティ」の画面でも「OK」をクリックして閉じてください。

4 パソコンを再起動する

しばらくすると、パソコンの電源が切れ、自動的にもう一度電源が入ります（再起動）。

これで、ルータを利用したブロードバンド接続の設定は完了です。次ページへ進んでインターネットへの接続を試してください。

インターネットに接続する

インターネットに接続できるか確認しましょう。

1 Internet Explorerを起動する

ルータを利用しない場合

次の接続用画面が表示されます。

「接続」をクリックすると、Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）が起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます。

ルータやルータタイプのADSLモデムを利用している場合

ルータやルータタイプのADSLモデムを利用している場合、接続用の画面は表示されず、直ちにInternet Explorerが起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます。これは、パソコンの電源を入れると自動的にインターネットに接続されるためです。

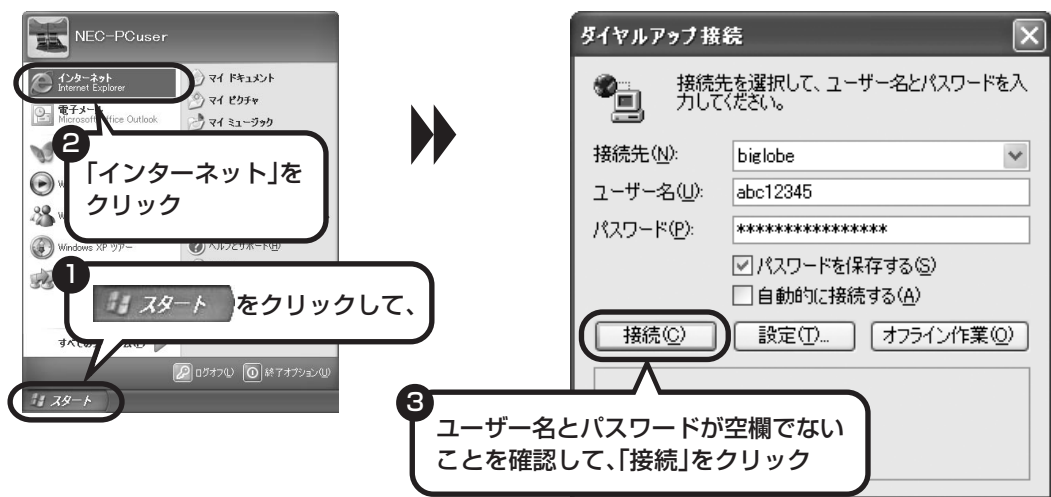
これで、インターネット接続の設定は終わりです。
続けて「メールソフトを設定する」（107ページ）へ進んでください。

ダイヤルアップ接続の設定

ダイヤルアップ接続を選んでプロバイダに入会したかたは、ここでパソコンの設定をおこなってください。ブロードバンド接続を選んだかたで、回線が開通するまでの間ダイヤルアップ接続をおこなうかたも、同じように設定してください。

回線事業者やプロバイダから入手した接続設定用CD-ROMがある場合は、そのCD-ROMで設定をおこなうこともできます。詳しくは、CD-ROMの説明書でご確認ください。

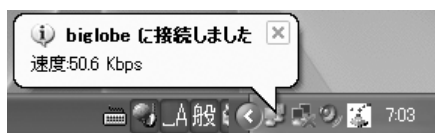
1 「インターネットのプロパティ」で設定する

2 インターネットに接続する

このパソコンから直接BIGLOBEなどのプロバイダに入会した場合、「ユーザー名」と「パスワード」の欄には入会時の情報が入力されています。これらの欄が空欄になっているときは、申し込んだプロバイダまで設定方法をお問い合わせください。

ユーザー名とは

プロバイダに接続するための識別番号で、入会時に決まるものです（一般には、メールアドレスと違って自分で好きなものを選ぶことはできません）。プロバイダによっては、「ユーザID」、「ログインID」、「アカウント名」などと呼ばれることがあります。

パスワードとは

本人であることを証明するための暗証番号です。他人に悪用されることがないよう「＊＊＊」で表示されます。プロバイダによっては「接続パスワード」などと呼ばれることもあります。

しばらくすると、インターネットに接続され、画面右下に「接続しました」と表示されます。このときに表示されるマークを、「接続アイコン」と呼びます。このマークが出ているときは、インターネットに接続中で、パソコンが電話回線を使用している（＝電話料金がかかっている）ことを表します。

正式なIDとパスワードが発行されたときは

プロバイダによっては、最初に入会申し込みを受け付けるときに仮のIDとパスワードを決め、後から郵送される会員証などで正式のIDとパスワードを知らせてくることがあります。その場合、会員証を受け取ったら、「ユーザー名」と「パスワード」の欄に、正式なものを入力しなおしてください。

3 インターネットへの接続を切る

インターネットへの接続を切る（電話を切る）ときは、画面右下に表示されている（接続アイコン）をクリックします。

インターネットへの接続が切れると、（接続アイコン）の表示が消えます。

これで、インターネット接続の設定は終わりです。続けて次ページのメールの設定に進んでください。

メールソフトを設定する

このパソコンには、メールを利用したり、スケジュールを管理したりするために、Outlook(アウトルック)というソフトが用意されています。

・ADSLやFTTHで接続する場合、使用する機器やプロバイダによっては、ここでの説明とは異なる設定が必要になることがあります。プロバイダの資料やホームページに設定例などが記載されている場合は、そちらも合わせてご覧になり、設定することをおすすめします。

・Outlookが入っていないモデルをお使いのかたは、「Outlook Express」というソフトでメールを利用できます。
Outlook Expressの設定については、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフト一覧」-「Outlook Express」をご覧ください。

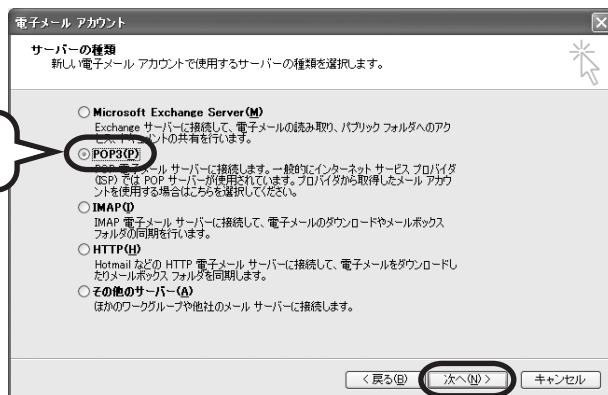
1 Outlookを起動する

❶ スタート をクリックして、

❷「電子メール」をクリック

❸「次へ」をクリック

❹「次へ」をクリック

2 サーバーの種類を選ぶ

ほとんどのプロバイダは「POP3」という種類のサーバーを使っています。プロバイダが「IMAP」という種類のサーバーを使っている場合は、「IMAP」を選びます。その場合、詳しくはプロバイダに確認してください。

3 名前などを入力する

■ この画面では、次の項目に入力してください。

項目	説明
名前	自分の名前を入力します。日本語、アルファベット、どちらで入力してもかまいません。
電子メールアドレス	ご利用の電子メールアドレスを入力します。
受信メールサーバー(POP3)	プロバイダの会員証などを見て、アドレスを入力します。プロバイダによっては、「メールサーバー」、「POPサーバー」、「メール受信サーバー」などと呼ばれることもあります。
送信メールサーバー(SMTP)	会員証などを見て、アドレスを入力します。プロバイダによっては、受信メールサーバーと送信メールサーバーのアドレスは同じことがあります。「メールサーバー」、「SMTPサーバー」、「メール送信サーバー」などと呼ばれることもあります。
アカウント名	会員証などを見て、アカウント名として記載されているものを入力します。「メールアカウント」、「メールサーバーログイン名」、「POPアカウント名」、「メールログイン名」などと呼ばれることもあります。
パスワード	会員証などを見て、メールパスワードとして記載されているものを入力します。「メールサーバーパスワード」などと呼ばれることもあります。

4 「詳細設定」で接続方法を設定する

この後の手順は、接続方法によって異なります。

ダイヤルアップの場合

「電話回線を使用する」をクリックして、◯を◉にします。次に「モデム」欄で、使用するダイヤルアップネットワーク接続の名前を選びます。設定内容を確認したら、「OK」をクリックしてください。
「電子メールアカウント」の画面に戻ったら、「次へ」をクリックします。

ルータを利用しない接続の場合

「電話回線を使用する」をクリックして、◯を◉にします。次に「モデム」欄で、使用するダイヤルアップネットワーク接続の名前を選びます。続けて、「送信サーバー」をクリックして、サーバーを設定してください。

ルータを利用した接続の場合

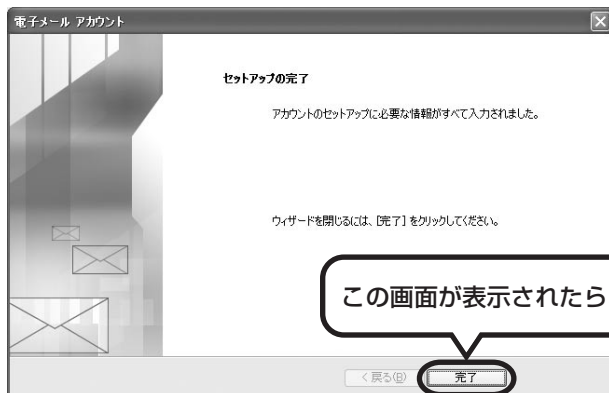
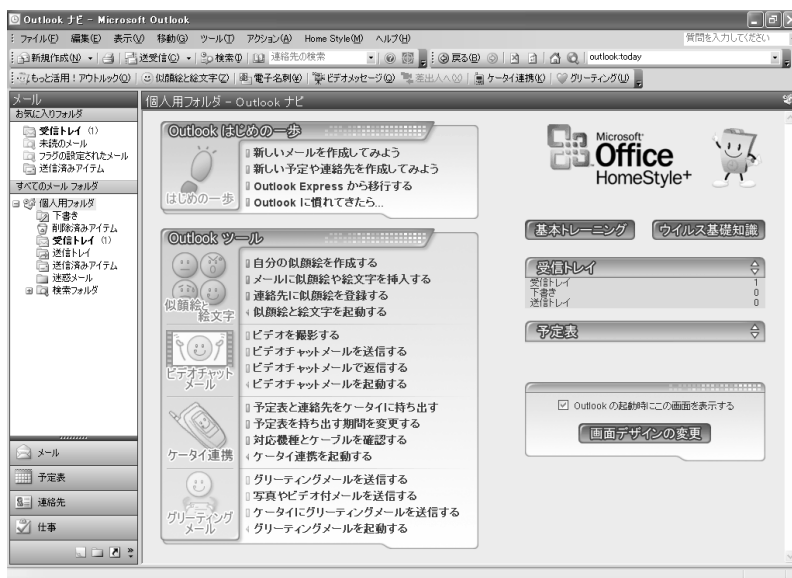
「ローカルエリアネットワーク（LAN）を使用する」をクリックして、◯を◉にします。続けて、「送信サーバー」をクリックして、サーバーを設定してください。ルータタイプのADSLモデムもこの設定をおこないます。

送信サーバーの設定：ブロードバンド接続共通

「送信サーバー（SMTP）は認証が必要」をクリックして☑にしてください。次に、「受信メールサーバーと同じ設定を使用する」が◉になっていることを確認します。ほとんどのプロバイダでは、「受信メールサーバーと同じ設定を使用する」ようになっています。

設定内容を確認したら、「OK」をクリックしてください。「電子メールアカウント」の画面に戻ったら、「次へ」をクリックします。

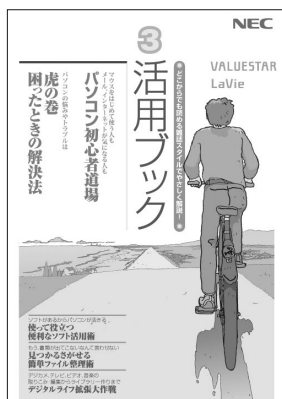
送信用メールサーバーのアカウント名やパスワードが違う場合だけ、「次のアカウントとパスワードでログオンする」をクリックして、アカウント名とパスワードを入力してください。

5 メールの設定を完了する

これで、メールが使えるようになりました。
メールを送ったり受け取ったりする方法については、
『活用ブック』の「パソコン初心者道場」-「メール編」をご覧ください。

パソコンを安全に使うための設定をおこなう

ポイント
- セキュリティ対策をしっかりと
- ウイルス対策ソフトを最新の状態に

パソコンやインターネットを安全に使うために

パソコンの誤動作や内部のデータ破壊を引き起こす、コンピュータウイルスなどの不正プログラムの被害が多くなっています。電子メールのやりとり、インターネット経由のソフト入手、他人から受け取ったディスクの使用などが原因になって、知らないうちに不正プログラムがパソコンに侵入することもあります。これらの被害を防ぐには、定期的な対策が必要です。
このほか、パソコンやインターネットを安心して使うために注意することを『活用ブック』の「しっかりセキュリティであんしんインターネット」で紹介しています。
このページと合わせてご覧になり、セキュリティ対策をしてください。

『活用ブック』で紹介していること

- Windows Update
  インターネットを通じて、Windows の問題点を修復する「Windows Update」について説明しています。
- ウイルス対策ソフト
  このパソコンに入っているウイルス対策ソフト「マカフィー・ウイルススキャン」について説明しています。この後の「パソコンをウイルスから守るために」と合わせてご覧ください。
- 個人情報を守るために
  クレジットカード番号などの大切な個人情報が流出するのを防ぐために、注意しなければいけないことを紹介しています。
- 無線 LAN を使うとき
  無線 LAN を使うときに、特に注意しなくてはいけないセキュリティの設定を説明しています。

パソコンをウイルスから守るために(1)

ウイルスとは、パソコンに誤動作やデータの破壊などのトラブルを引き起こす不正プログラムのことです。インターネットやメールからパソコンに入り込んだり、CDやDVD、各種メモリーカードなどのメディアから感染する場合もあります。
ウイルスによる被害は、自分のパソコンのデータが破壊されたり個人情報が流出したりするだけでなく、ほかの人へ大量の電子メールが自動的に送信されることもあります。自覚がないまま加害者になり得る可能性もあるのです。

「マカフィー・ウイルススキャン」を最新の状態に更新する

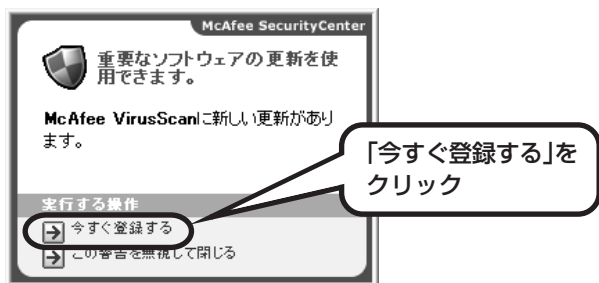
このパソコンには、ウイルス対策ソフト「マカフィー・ウイルススキャン」が入っていて、パソコンをウイルスから守ることができます。しかし、ウイルスは日々新しいものが出てくるので、新しいウイルスに対応するために、ソフトを常に最新の状態に更新(「アップデート」といいます)してウイルスチェックをしなければなりません。

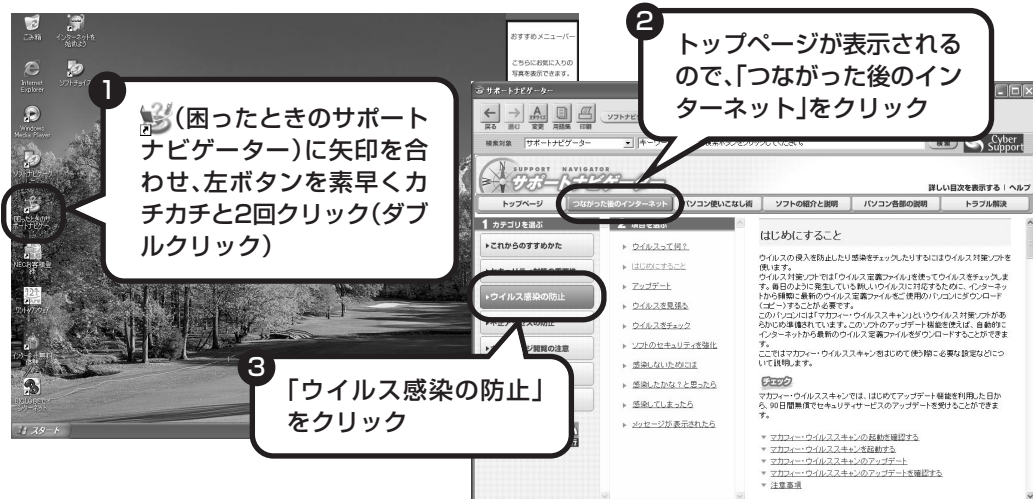
このパソコンの「マカフィー・ウイルススキャン」では、はじめてアップデートを利用した日から90日間、無料でアップデートをおこなうことができます。90日間の無料期間を過ぎると、それ以降のアップデートは有料の契約が必要になりますが、ウイルスチェックの機能は引き続き使うことができます(ただし、新しいウイルスに対応することができなくなるため、ぜひ有料のアップデートサービスを契約することをおすすめします)。
有料のサービスについて詳しくは、無料サービスの開始時に登録したメールアドレス宛に配信されるメールなどの案内をご確認ください。

アップデートするには、インターネット接続の設定が必要です。インターネット接続の設定方法について、これまでにパソコンを持っていなかったかたは第5章、パソコンを買い替えてインターネット接続をやりなおすかたは第6章をご覧ください。

アップデートのしかた

パソコンをご購入後、はじめてアップデートする場合は、まずインターネットに接続をして、90日間無償サポートを受けるための「登録」が必要です。

インターネット接続の設定が終わった後、画面右下に次のメッセージが表示されたら、「今すぐ登録する」をクリックしてください。

登録のしかたや、アップデートの方法などの詳しい手順については、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」に説明があります。

◆「サポートナビゲーター」で手順を確認

「はじめにすること」をご覧ください。

パソコンをウイルスから守るために(2)

ウイルスの侵入を常にチェックする

「マカフィー・ウイルススキャン」には、ウイルスの侵入を常に監視する機能があります。その機能を「ActiveShield（アクティブシールド）」といいます。「ActiveShield」を有効にしている間は、ウイルスの侵入が自動的に監視されます。
ご購入時の状態では、ウイルスの侵入を常に監視する（「ActiveShield」が有効）設定になっています。通常はこの状態でお使いください。

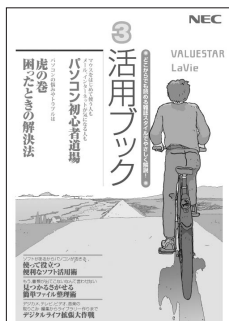
画面右下の M が赤いアイコンで表示されていたら、「ActiveShield」機能は「有効」

「ActiveShield」を有効にしている間は、ウイルスの検査が頻繁におこなわれるため、ほかのソフトの動作が遅くなることがあります。ウイルスに対して安全な状況であるとわかっている場合、「ActiveShield」を一時的に無効にすることができます。
また、パソコンや周辺機器の設定、インターネット接続の設定をするときなどに、ウイルスチェックを停止するよう指示が表示される場合があります。その場合も、「ActiveShield」を一時的に無効に設定してください。
「ActiveShield」の有効/無効設定について、詳しくは「サポートナビゲーター」-「つながった後のインターネット」-「ウイルス感染の防止」-「ウイルスを見張る」をご覧ください。

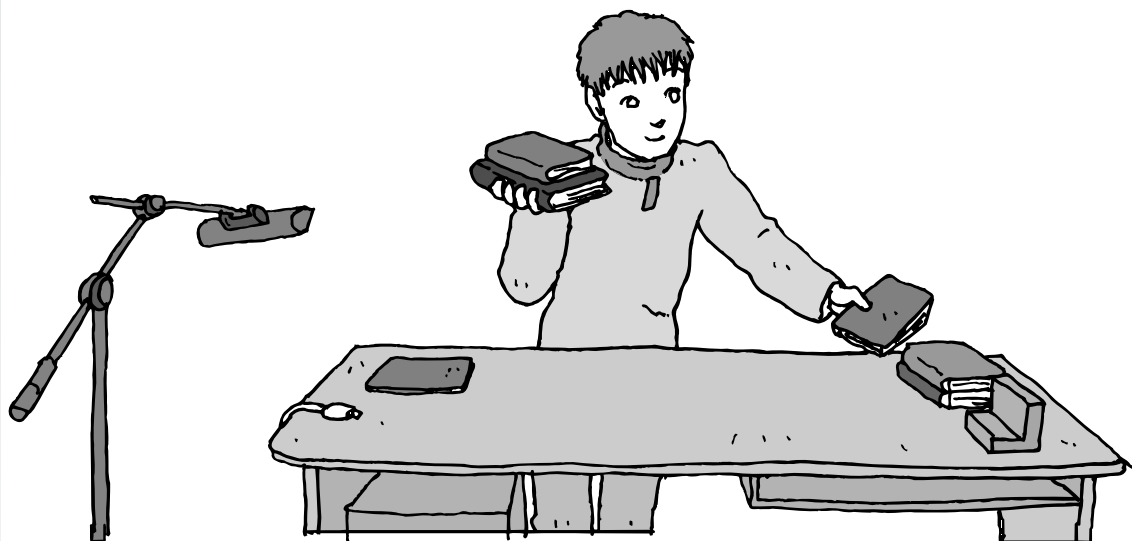
その他のウイルス対策ソフトを使う

「ソフトチョイスサービス」を利用すると「マカフィー・ウイルススキャン」以外のウイルス対策ソフトを使うことができます。

「マカフィー・ウイルススキャン」以外のウイルス対策ソフトを使用する場合は、必ず「マカフィー・ウイルススキャン」を削除（アンインストール）してください。削除方法については、「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「マカフィー・ウイルススキャン」の「追加方法と削除方法」をご覧ください。

インターネット・メールの楽しみ方を知るには

『活用ブック』では、セキュリティ対策のほかに、インターネットやメールでどんな楽しみ方ができるのか紹介しています。
お気軽に読み進めてください。

第6章

パソコンを買い替えたかたへ

すでにパソコンを使っていたかたが、このパソコンでインターネットを利用できるようにしたり、前のパソコンからデータを移したり、前のパソコンで使っていたデータや周辺機器を使えるようにする方法について説明します。

インターネットを使えるようにする
　ブロードバンド編 **120**

インターネットを使えるようにする
　ダイヤルアップ編 **123**

古いパソコンからデータを移す **132**

周辺機器を使えるようにする **140**

ソフトを移す **141**

インターネットを使えるようにする ブロードバンド編

これまでのパソコンで、ADSLなどのブロードバンド接続を利用していたかたは、次の手順でインターネットの接続と設定をおこなってください。

ダイヤルアップのかたは、123ページへ

前のパソコンを家庭の電話回線に直接接続して、ダイヤルアップ接続を利用していたかたは、「インターネットを使えるようにする ダイヤルアップ編」（123ページ）を参照してください。パソコンを買い替えたことを機会にダイヤルアップ接続からブロードバンド接続に切り換えたいかたも、まず、ダイヤルアップ接続をおこない、その後でプロバイダのホームページからコース変更を申し込んでください。

CATVのかたは、ケーブルテレビ局に確認を

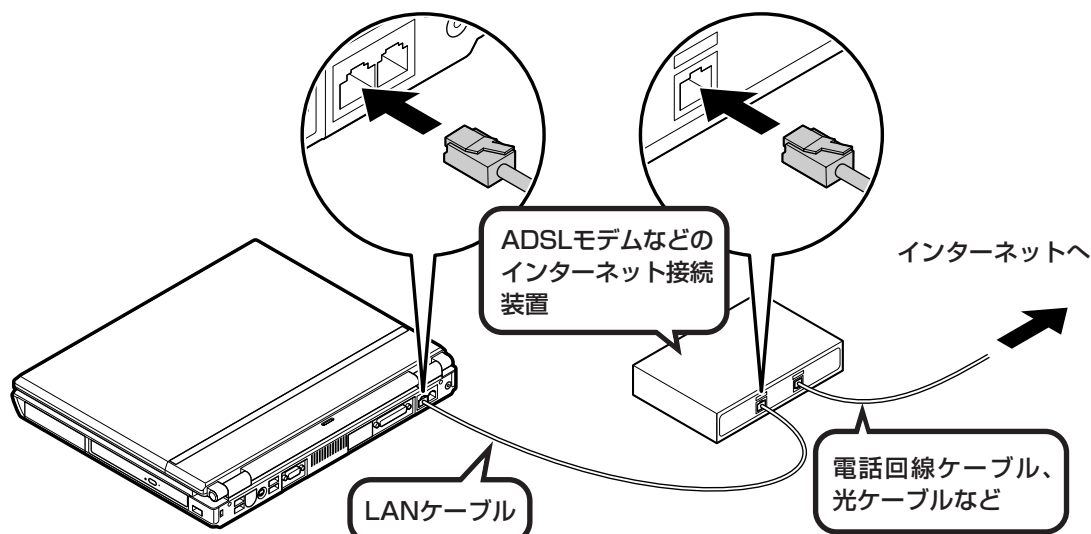
前のパソコンでCATV接続を利用されていたかたは、ご契約のケーブルテレビ局にパソコンを買い替えたときの設定方法についてお問い合わせください。

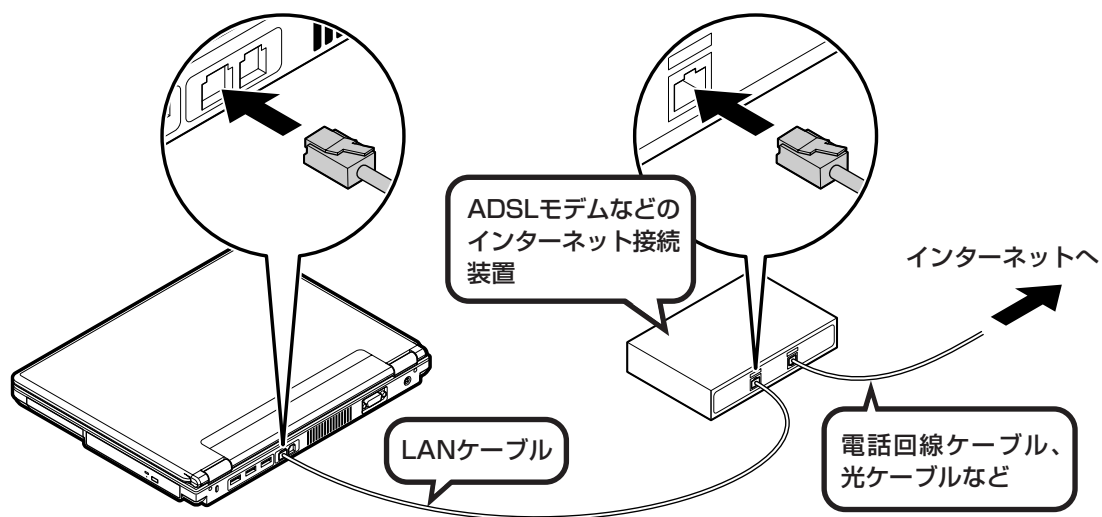
ワイヤレスLANで接続するかたは、「パソコン各部の説明」

ワイヤレスLANを利用してインターネットに接続するかたは、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「ワイヤレスLAN（無線LAN）」をご覧ください。

1 パソコンを通信回線に接続する

前のパソコンと同じように接続してください。

アドバンストタイプの場合

ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

ベーシックタイプの場合

ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

この後の設定について

ブロードバンド接続でインターネットを使えるようにするには、接続の設定とメールソフトの設定が必要です。ご利用の機器に合わせて、第5章の該当するページをご覧ください。

ルータを利用しない場合の接続設定をおこなう

「ブロードバンド接続の設定」(91ページ)をご覧ください。

ルータを利用する場合の接続設定をおこなう

「ルータを利用したブロードバンド接続の設定」(98ページ)をご覧ください。
ルータタイプのADSLモデムを利用している場合も同じです。

インターネットに接続する

「インターネットに接続する」(103ページ)をご覧ください。
設定が終わったら、インターネットへの接続を試してください。

メールソフトを設定する

「メールソフトを設定する」(107ページ)をご覧ください。
インターネットに接続してホームページを見ることができたら、必ず、メールソフトの設定をおこなってください。

上記の設定を済ませてから、「古いパソコンからデータを移す」(132ページ)へ進み、データや周辺機器、ソフトの移行作業をおこなってください。

インターネットを使えるようにする ダイヤルアップ編

これまでのパソコンでダイヤルアップ接続を利用していたかたは、次の手順でインターネットの接続と設定をおこなってください。

ブロードバンドのかたは、120ページへ

ADSLなど、前のパソコンでブロードバンド接続を利用していたかたは、「インターネットを使えるようにする ブロードバンド編」（120ページ）へ進んでください。パソコンを買い替えたことを機会にダイヤルアップ接続からブロードバンド接続に切り換えたいかたは、まず、次の説明を読んでダイヤルアップ接続をおこない、その後でプロバイダのホームページからコース変更を申し込んでください。

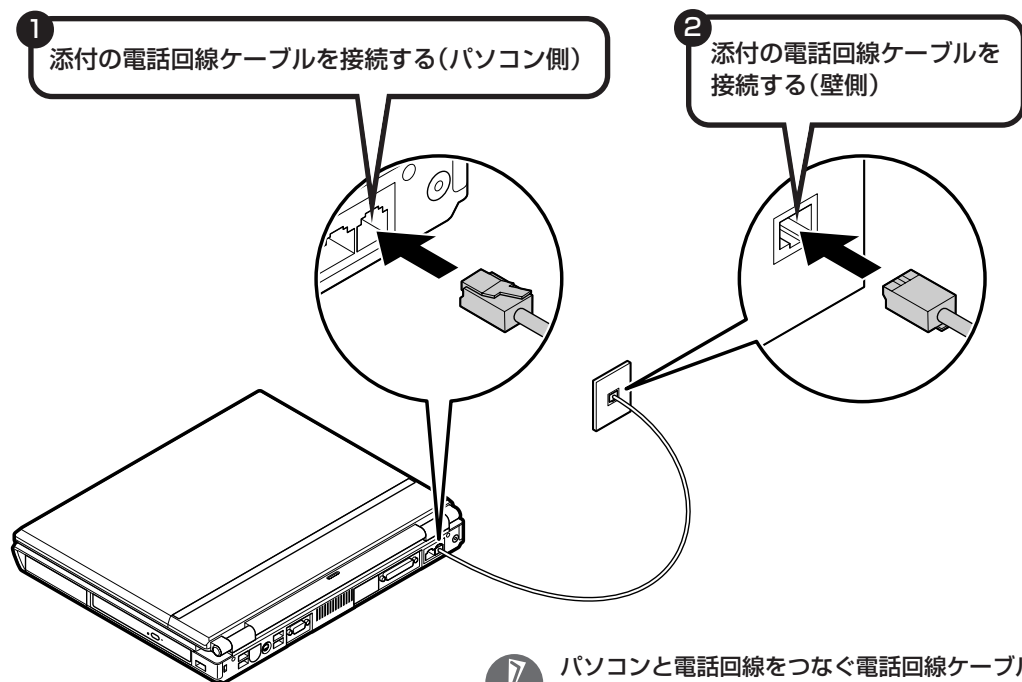
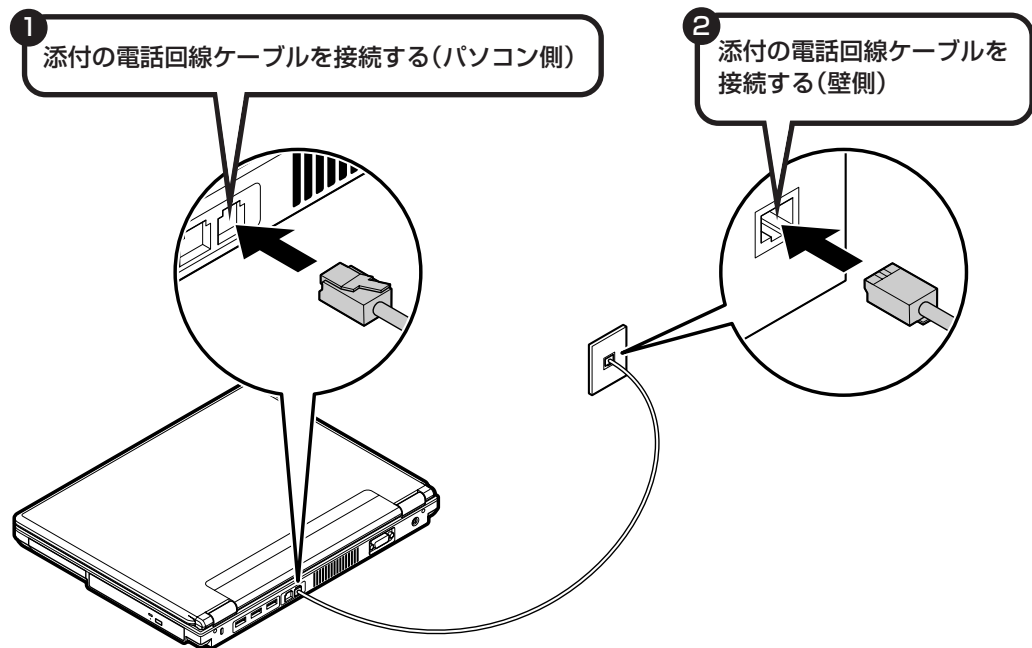
ダイヤルアップとは

インターネットを利用するたびに、パソコンから電話をかける接続方法です。前のパソコンにモデムが内蔵されている場合は、パソコンと電話回線を電話回線ケーブルで接続していたはずです。前のパソコンを電話回線から取り外し、代わりにこのパソコンを接続してください。

前のパソコンにモデムが内蔵されていない場合、外付けのモデムを利用していたと考えられます。このパソコンにはモデムが内蔵されているため、従来お使いの外付けモデムを利用する必要はありません。

1 パソコンを電話回線に接続する

アドバンストタイプの場合

パソコンと電話回線をつなぐ電話回線ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

ベーシックタイプの場合

パソコンと電話回線をつなぐ電話回線ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

パソコンの設定をおこなう

操作を始める前に、これまでのパソコンで利用していたアクセスポイントの電話番号を調べておいてください。アクセスポイントとは、プロバイダに接続するための電話番号です。わからないときは、プロバイダにお問い合わせください。

1 「電話とモデムのオプション」を表示する

❶ スタート をクリックして、

❷「コントロールパネル」をクリック

❸「プリンタとその他のハードウェア」をクリック

❹「電話とモデムのオプション」をクリック

❺「ダイヤル情報」をクリックして、

❻「新規」をクリック

7 「所在地」を入力し、

8 0(ゼロ)を除いた市外局番を入力し、

9 電話回線の種類を選んでから

10 「OK」をクリック

所在地	この説明では、例として「東京」と入力していますが、自宅の所在地（市外局番が該当する都市名など）を入力してください。
市外局番	先頭の「0（ゼロ）」は入れないでください。
ダイヤル方法	ご利用の電話回線が「トーン」（プッシュ回線契約）か「パルス」かを選びます。回線の種類がわからない場合は、NTTの「116」番に問い合わせてください。

11 入力した所在地、市外局番が追加されていることを確認して、

12 「OK」をクリック

2 「新しい接続ウィザード」を表示する

1 [スタート]をクリックして、

2 「コントロールパネル」をクリック

3 「ネットワークとインターネット接続」をクリック

4 「ネットワーク接続」をクリック

5 「新しい接続を作成する」をクリック

3 ウィザードにしたがって操作する

❶「次へ」をクリック

❷「インターネットに接続する」をクリックして、

❸「次へ」をクリック

❹「接続を手動でセットアップする」をクリックして、

❺「次へ」をクリック

❻「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」をクリックして、

❼「次へ」をクリック

「完了」をクリックすると、新しい接続ウィザードの画面が閉じ、インターネットに接続するための画面が開きます。

ユーザー名とは

プロバイダに接続するための識別番号です。「ログインID」、「アカウント名」などと呼ばれることもあります。

パスワードとは

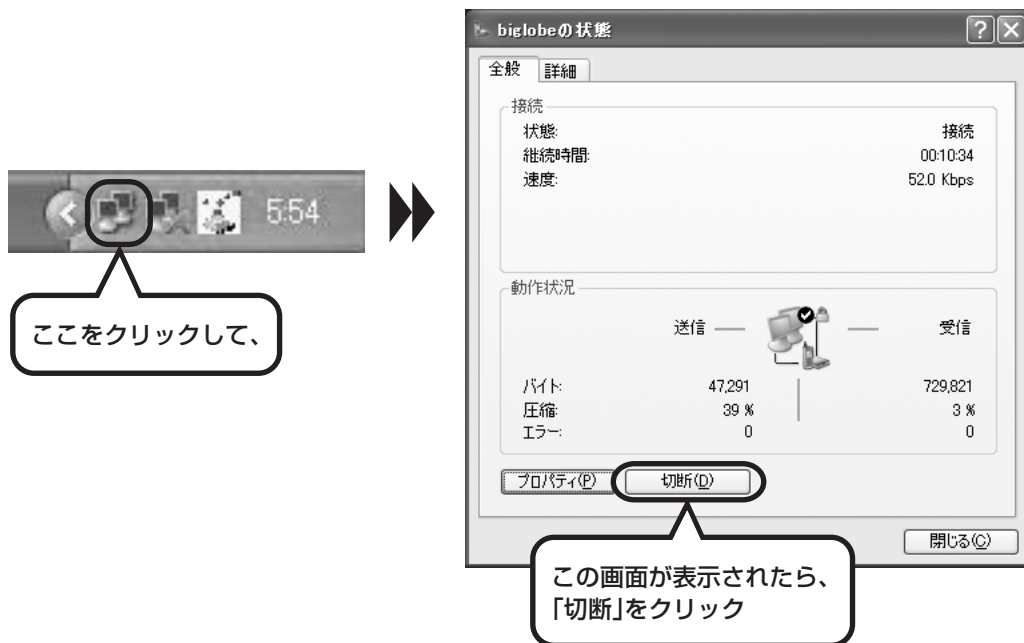
本人であることを証明するための暗証番号です。「接続パスワード」などと呼ばれることもあります。

4 インターネットに接続する

しばらくすると、インターネットに接続され、画面右下に「接続しました」と表示されます。このときに表示されるマーク を、「接続アイコン」と呼びます。
このマークが出ているときは、インターネットに接続中で、パソコンが電話回線を使用している（＝電話料金がかかっている）ことを表します。

この状態で、「スタート」をクリックし、続けて「インターネット」をクリックすると、ホームページを見ることができます。

5 インターネットへの接続を切る

インターネットへの接続を切る（電話を切る）ときは、画面右下に表示されている（接続アイコン）をクリックします。

インターネットへの接続が切れると、（接続アイコン）の表示が消えます。

2 回目以降のインターネットへの接続方法については、「ダイヤルアップ接続の設定」（104 ページ）をご覧ください。

続けて、「メールソフトを設定する」（107 ページ）をご覧ください。メールソフトの設定が終わったら、次ページへ進み、データや周辺機器、ソフトの移行作業をおこなってください。

古いパソコンから データを移す

データ引越ツール「データトラベリング」を利用すると、これまでお使いのパソコンからデータを移行することができます。

データトラベリングで移行できるデータ

次のようなデータを移行することができます。

・Internet Explorerの「お気に入り」
・Outlookの予定表や連絡先、メールのアカウントや受信データなど
・Outlook Expressのアカウント、アドレス帳や送受信データ
・年賀状作成ソフト「筆王」の住所録
・マイドキュメントに保存されているデータ
・デスクトップに置かれているデータ
・指定のフォルダに入っているデータ
・ダイヤルアップ接続の設定

移行される内容について詳しくは、データトラベリングを起動後、最初に表示される画面で「機能紹介と移行内容」をクリックしてご確認ください。

古いパソコンが次の条件にあてはまること

使用していたOS（オーエス）が次のいずれかであること

・Windows 98 Second Edition
・Windows Me(Millennium Edition)
・Windows 2000 Professional
・Windows XP Home Edition
・Windows XP Professional

これまでにお使いのパソコンのOSが上記以外の場合、データトラベリングは利用できません。マイドキュメントのウィンドウで、「ヘルプ」-「バージョン情報」をクリックすると、Windowsのバージョンを調べることができます（マイコンピュータ、コントロールパネルなどのウィンドウでも同様です）。

LANコネクタがあること

データトラベリングを利用するには、古いパソコンとこのパソコンをLANケーブルで接続する必要があります。これまでお使いのパソコンにLANコネクタがない場合、利用できません。

1 データトラベリングを使う準備をする

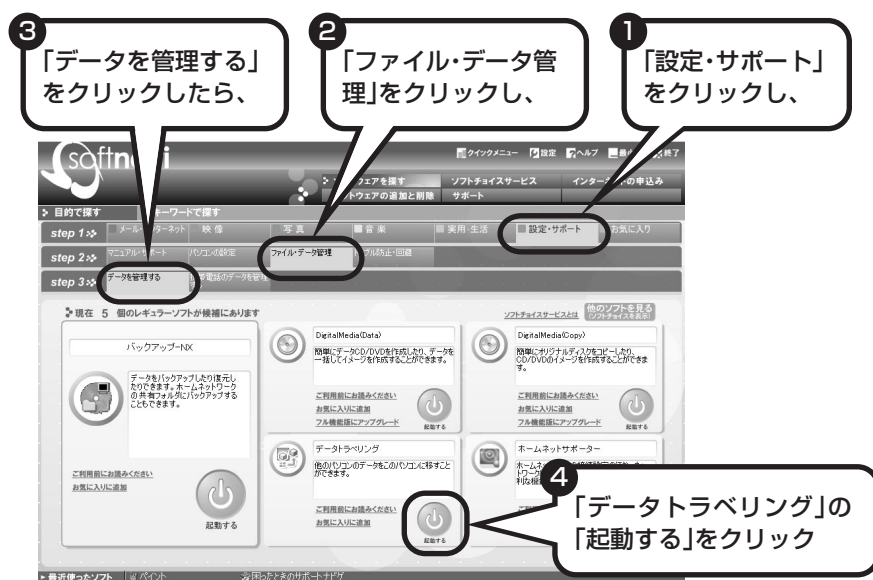
未使用のCD-RまたはCD-RWを1枚用意します。

DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW、DVD-RAM、DVD-R（2層）、DVD+R（2層）は使用できません。

古いパソコンと、このパソコンをLANケーブルで接続してください。詳しくは、データトラベリングを起動後、最初に表示される画面で、「はじめる前の準備」の「ヘルプ」をクリックして説明をご覧ください。

- **HUB（ハブ）を使って接続するときは、2台のパソコンをそれぞれストレートケーブルでハブに接続してください（こちらの接続方法をおすすめします）。**
- **2台のパソコンを直接接続するときは、クロスケーブルをお使いください。**
- **複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、管理者権限のあるユーザーでログオンしてください。ほかのユーザーはログオフしてください。**

2 データトラベリングを起動する

デスクトップ画面の（ソフトナビゲーター）をダブルクリックします。

3 ネットワーク設定をする

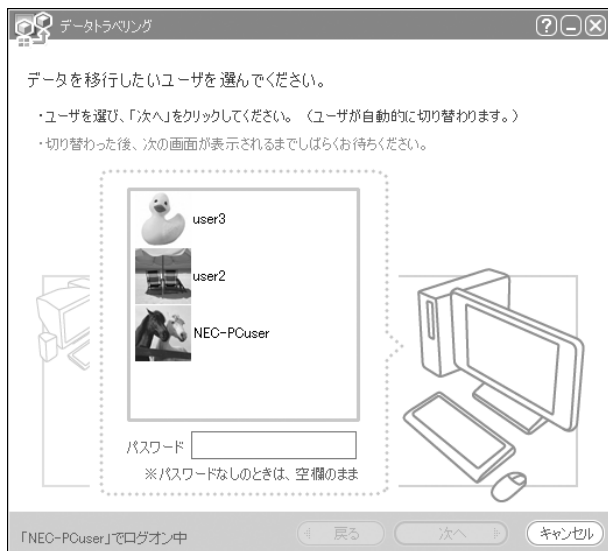
通常は「おまかせで設定。（おすすめ）」を選択して、「次へ」をクリックします。ネットワーク設定を自分でおこないたい場合は「手動で設定。」を選択してください。詳しくは「ヘルプ」をクリックして確認してください。

「おまかせで設定。（おすすめ）」を選ぶと、コンピュータの設定が変更される場合があります。詳しくは「ヘルプ」をクリックして確認してください。

「ヘルプ」をクリックしてファイアウォールと共有フォルダの設定をおこないます。設定が終わったら「次へ」をクリックします。

データの移行に必要な設定ですので、必ずおこなってください。

4 このパソコンで「ツールCD」を作成する

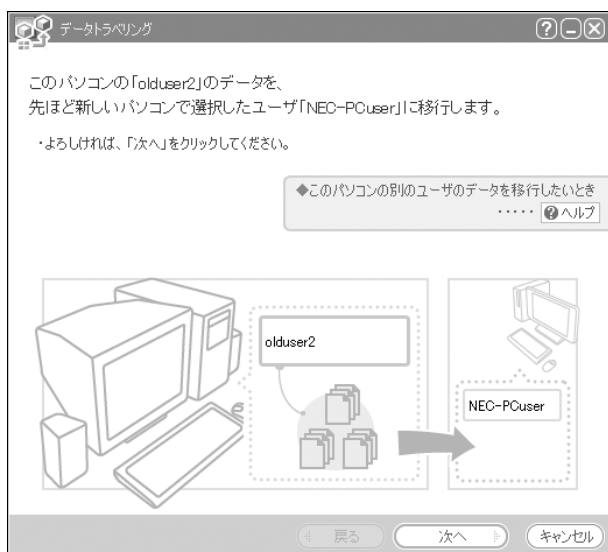
この画面が表示されたら、未使用のCD-RまたはCD-RWをセットします。自動的に「ツールCD」の作成が始まります。

複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、移行するユーザーを選択して「次へ」をクリックしてください。
選択したユーザーにパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してから「次へ」をクリックしてください。

「ツール CD」の作成が完了したら、ディスクを取り出してください。

5　古いパソコンで、移行するデータを指定する

これまでお使いのパソコンに「ツールCD」をセットします。しばらくすると、次の画面が表示されます。

「次へ」をクリックしてください。

途中でパソコンを再起動することがありますので、使用中のほかのソフトは終了させてください。

複数のユーザーでパソコンを使用している場合はこの画面が表示されます。表示されている内容を確認して「次へ」をクリックしてください。

移行するデータを選択して「次へ」をクリックしてください。

選択したデータによっては、さらに詳細な移行内容を設定する必要があります。その場合、画面に指示が表示されますので、それにしたがって操作してください。

この画面が表示されたら、「完了」をクリックして、「ツールCD」を取り出してください。

6 このパソコンで、残りの移行作業をおこなう

古いパソコンで「完了」をクリックすると、この画面が新しいパソコンに表示されます。自動的に残りの移行処理がおこなわれるため、しばらくお待ちください。

この画面が表示されたら、データの移行は完了です。

移行したデータによっては、この後で詳細な設定作業が必要になることがあります。その場合、画面に指示が表示されますので、それにしたがって操作してください。

周辺機器を使えるようにする

古いパソコンに接続して利用していたプリンタなどの周辺機器は、そのままこのパソコンに接続できるとはかぎりません。

周辺機器を移行する前に確認が必要

まずは、周辺機器のマニュアルでチェック

周辺機器に添付のマニュアルで、その機器がWindows XPに対応しているか確認してください。対応している場合、このパソコンとの接続方法や設定の手順についての説明をご覧ください。

メーカーのホームページもチェック

周辺機器のマニュアルだけでなく、メーカーのホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確認してください。マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。Windows XPに対応した最新のドライバ（周辺機器を利用できるようにするためのソフト）がダウンロードできるときは、最新のドライバをお使いください。

周辺機器の一般的な移行手順

古いパソコンから周辺機器を取り外す

取り外しの手順については、周辺機器に添付のマニュアルや、古いパソコンに添付のマニュアルをご覧ください。

このパソコンに周辺機器を取り付け・接続する

USB接続する周辺機器などの場合、このパソコンに取り付け・接続する前に、ドライバなどをインストールしておく必要があることもあります。マニュアルなどで確認してください。

このパソコンで使用できるように設定する

周辺機器によっては、取り付け・接続するだけで使えるようになるものもあります。パソコンでの設定方法についても、マニュアルなどで確認してください。

周辺機器の動作確認をおこなう

周辺機器を移行したら、うまく動作するか確認してください。うまく動作しないときは、ドライバや添付ソフトなどを確認して、周辺機器のメーカーにお問い合わせください。

ソフトを移す

古いパソコンで利用していたソフトを、このパソコンで利用するときに注意することを説明します。

ソフトを移行する前に

このパソコンに最新版が入っていないかチェック

このパソコンには、主要なソフトが入っています。これまで利用していたソフトの最新版や、同じ用途のソフトが見つかるかもしれません。

ソフトのマニュアルをチェック

ソフトに添付のマニュアルで、Windows XPに対応しているか確認してください。対応していない場合、このパソコンでは利用できません。

開発元のホームページもチェック

ソフトの開発元のホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確認してください。Windows XPに対応するための方法など、マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。

ソフトの一般的な移行手順

必要な情報を確認する

マニュアルなどで、インストールに必要な情報を確認します。ユーザー名やライセンス番号などが必要な場合は、それらの情報をメモしておきましょう。ソフトによっては設定を移行する機能を持つものがあります。その場合、マニュアルやホームページなどで移行方法を調べてください。

ライセンスとは

ソフトのメーカーが購入者に対して許諾する、使用権を「ライセンス」と呼びます。ライセンスの条件にしたがわずにソフトを使用した場合は不正使用になり、著作権を侵害してしまうこともあります。ライセンスの内容を確認して、不正使用にならないようにアンインストールやインストールをおこなってください。

古いパソコンからソフトをアンインストールする

アンインストールの方法については、ソフトに添付のマニュアルをご覧ください。

このパソコンにインストールする・必要な設定をおこなう

マニュアルなどをご覧になり、このパソコンにインストールしてください。必要に応じて、インストール後の設定作業をおこなってください。

第7章

前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ

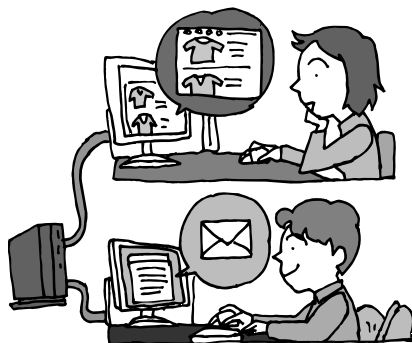
このパソコンには、パソコンを接続してホームネットワークを作るためのソフト「ホームネットワークアシスタント」が入っています。
家庭でネットワークを作ることの利点や、「ホームネットワークアシスタント」の使い方を紹介します。

ホームネットワークでできること **144**
複数のパソコンをホームネットワークでつなぐ **146**

ホームネットワークでできること

複数のパソコンをつなぐことで、もっと便利にパソコンライフが広がります。

複数のパソコンから同時にインターネットを利用できる

ADSLなどでブロードバンド接続を利用している場合、複数のパソコンから同時にインターネットを楽しむことができるようになります。複数のパソコンでインターネットを利用しても、電話機はこれまでどおり使えます。

プリンタを共有して、複数のパソコンから印刷する

ホームネットワークがあれば、どのパソコンからも1台のプリンタで印刷できるようになります。そのたびにプリンタをつなぎ替えたり、プリンタが接続されたパソコンに移動したりする必要がありません。

パソコン同士で簡単にデータを受け渡しできる

デジタルカメラの画像やパソコンで作成した文書などを、家庭内のパソコン同士で受け渡せるようになります。フロッピーディスクやメモリーカードなどを使う必要はありません。ファイルサイズの大きなデータでも、手軽にやりとりできます。

ほかのパソコンの共有フォルダにデータをバックアップ

ホームネットワークがあれば、「バックアップ－ＮＸ」というソフトを使ってこのパソコンのデータをネットワーク上にあるほかのパソコンの共有フォルダにバックアップを取ることができます。大切なデータを間違って削除してしまったときなどに、ほかのパソコンにバックアップを取っておいたデータを使ってもとに戻すことができます。
１日１回、週に１回などバックアップを取るスケジュールを設定できるので、定期的にバックアップを取ることができます。

ホームネットワークも、LANのひとつ

会社や学校で、複数のパソコンをつないでいる環境があるかたは、「LAN（ラン）」という言葉を耳にしたことがあるかもしれません。「LAN」とは「ローカル・エリア・ネットワーク」の略で、同じ建物に置かれたパソコンやプリンタなどの周辺機器をつないで情報をやりとりできるようにしたものです。ホームネットワークも、LANのひとつです。

複数のパソコンをホームネットワークでつなぐ

「ホームネットワークアシスタント」が利用できる条件や、設定の進め方について説明します。

「ホームネットワークアシスタント」の利用条件

「ホームネットワークアシスタント」を使用するには、次の条件を満たしている必要があります。

接続したいパソコンのOSが次のいずれかに該当すること

- Windows 98 Second Edition
- Windows Me(Millennium Edition)
- Windows 2000 Professional
- Windows XP Home Edition
- Windows XP Professional
- Windows XP Media Center Edition

接続したいパソコンのOSが上記以外の場合、「ホームネットワークアシスタント」は利用できません。

ご利用の回線が次のいずれかに該当すること

- ADSLの場合：アッカ・ネットワークス、イー・アクセス、NTT東日本、NTT西日本、Yahoo! BB
- FTTHの場合：BIGLOBE　Bフレッツ、@nifty Bフレッツ

ISDN、CATVなど、上記以外をご利用の場合、またBIGLOBE　Bフレッツや@nifty Bフレッツ以外のFTTH回線をご利用の場合、「ホームネットワークアシスタント」は利用できません。

ご利用のプロバイダが次のいずれかであること

- @nifty
- BIGLOBE
- OCN
- So-net
- Yahoo! BB

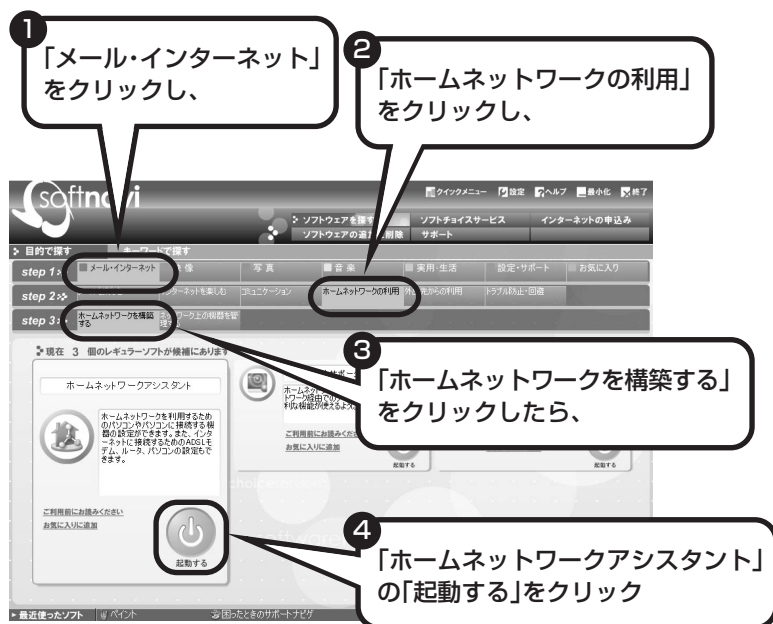
上記以外のプロバイダをご利用の場合、「ホームネットワークアシスタント」は利用できません。

@niftyでイー・アクセスの回線をご利用の場合は、「ホームネットワークアシスタント」でルータを自動設定することができません（手動設定になります）。

「ホームネットワークアシスタント」が利用できないとき

パソコンのOSや通信回線、プロバイダなどが上記の条件に該当しないときは、手動でネットワークの設定をおこなう必要があります。詳しくは、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「LAN」をご覧ください。

「ホームネットワークアシスタント」を開始する

デスクトップ画面の（ソフトナビゲーター）をダブルクリックします。

使用許諾契約画面が表示されたら、
内容を確認後「同意する」をクリック

「ホームネットワークアシスタント」のメインメニューが表示されます。

「ホームネットワークアシスタント」の利用方法

全体の流れをつかむには

「ホームネットワークのはなし」をクリックして、ホームネットワークの特徴や、作成例、主な疑問への回答（Q&A）などをご覧ください。

設定をおこなうには

「設定スタート！」をクリックして、画面の説明を読みながら、設定を進めてください。

トラブルが起きたら

「トラブルシューティング」をクリックして、ホームネットワークの診断をおこなってください。

ワイヤレスLANでネットワークを作る場合

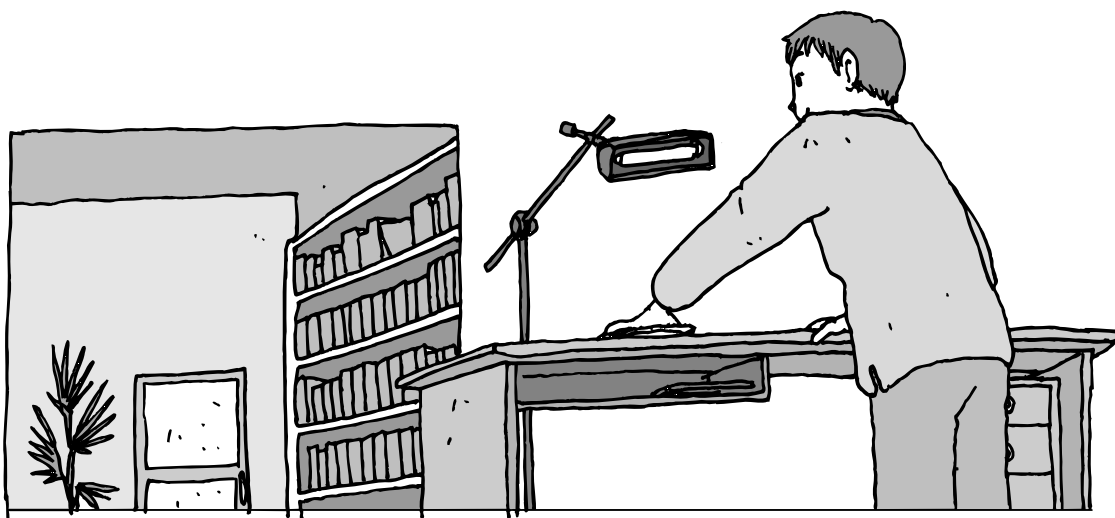
ワイヤレスLAN（無線LAN）でネットワークを作る場合、手順を進めていく途中で、セキュリティの設定をする画面が出てきます。その画面で設定した「WEPキー」を次の欄に控えてください。

WEPキーがわからなくなると、ほかの機器との接続ができなくなりますのでご注意ください。

WEPキー：

WEPキー

ワイヤレスLANで、ホームネットワーク内の通信内容を暗号化するときの暗号鍵（パスワード）のことです。WEPキーを設定しないと、電波が届く範囲であれば、たとえば屋外や隣の家などから無断でホームネットワークやインターネットに接続されてしまう危険があります。

第8章

再セットアップする

パソコンを起動できなくなったときなどの「最後の手段」が再セットアップです。再セットアップをおこなうと、パソコンに保存されている大切なデータや設定の内容などが失われてしまうことがあります。作業を始める前に、この章の説明をよくお読みください。

再セットアップを始める前に **150**

再セットアップする（Cドライブのみ） **158**

Cドライブの領域を変更して再セットアップする **171**

再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成する **174**

再セットアップ用DVD/CD-ROMを使って再セットアップする **182**

Office Professional 2003モデルの場合は、再セットアップの際に準備するものや、再セットアップ手順が一部異なります。『LaVie Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』も合わせてご覧ください。

再セットアップを始める前に

再セットアップの意味を理解して、いくつかのトラブル解決手段を試してみましょう。

パソコンをご購入時の状態に戻す、再セットアップ

再セットアップとは、パソコンを買ってきた直後におこなうセットアップ（準備作業）をもう一度おこなって、パソコンの中をご購入時の状態に戻すことです。エラーメッセージが何度も表示されたり、フリーズ（画面の表示が動かなくなること）が多くなったりしたときは、意識しないうちにパソコンのシステムが壊れたり、設定が変更されてしまった可能性があります。再セットアップすると、パソコンをご購入時の状態に戻すことができます。
しかし、再セットアップをおこなうと、自分で作って保存しておいた文書や電子メールの内容、アドレス帳などがすべて消えてしまいます。どうしてもトラブルを解決できないときの最後の手段として再セットアップをおこなってください。この後の説明を読み、再セットアップの前にデータのバックアップ（データの控えを残しておくこと）を取ってください。

再セットアップの前に試すこと

再セットアップを始める前に、次のチェックを試してみてください。問題が解決することがあります。

ウイルスチェックをおこなう（151ページ）

▼

セーフモードでパソコンを起動してみる（152ページ）

▼

データのバックアップを取る（154ページ）

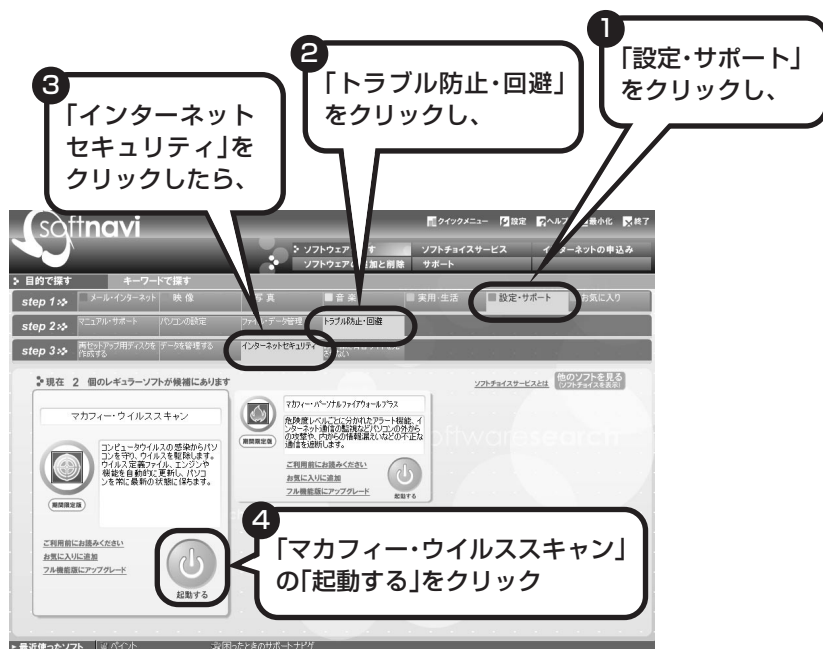
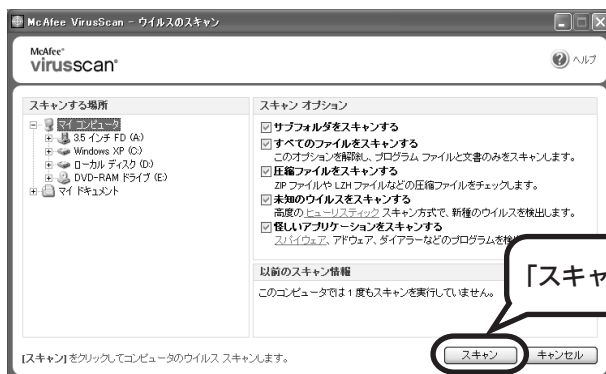
▼

システムの修復を試みる（156ページ）

ウイルスチェックをおこなう

ウイルスとは、パソコンに誤動作やデータの破壊などのトラブルを引き起こす不正プログラムです。インターネットやメールを経由してパソコンに入り込んだり、ウイルスに感染したディスクからパソコンに感染してしまうこともあります。
知らないうちに保存したデータが消えていたり、意味不明な文字や絵が突然画面に表示されたりしたときは、次のようにしてウイルスをチェックしてください。
ウイルスが駆除されればパソコンが正常に使えるようになることがあります。

「マカフィー・ウイルススキャン」でチェックする

1 デスクトップ画面の（ソフトナビゲーター）をダブルクリック

2 **この画面が表示されたら、「スキャン」をクリック**

ウイルスのチェックが完了するまでにしばらく時間がかかります。ウイルスが見つかったときは、画面に表示される指示にしたがって操作してください。

ウイルスチェックは、常に最新のウイルス情報をもとにおこなう必要があります。「マカフィー・ウイルススキャン」は、はじめてアップデート機能を利用した日から90日間、無料で最新のウイルススキャンやウイルス定義ファイルのアップデートをおこなうことができます。詳しくは、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフト一覧」-「マカフィー・ウイルススキャン」をご覧ください。

セーフモードでパソコンを起動してみる

電源を入れてもパソコンが正常に起動しないときなどは、次のようにしてパソコンをセーフモードで起動してください。

セーフモードは、Windowsの機能を限定して、必要最小限のシステム環境でパソコンを起動する、Windowsの起動モードのひとつです。通常の操作ではパソコンが起動しない場合でも、セーフモードなら起動できることがあります。

セーフモードでは、Windows の最小限の機能しか使えません。

1 **パソコン本体の電源を切る**

通常の操作で電源を切ることができないときは、電源スイッチを4秒以上押したままにして電源を切ってください。

2 **パソコン本体の電源を入れる**

3 **「NEC」のロゴマークが表示されたら、【F8】を何度か押す**

4 **「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されたら、【↑】、【↓】を使って「セーフモード」を選び、【Enter】を押す**

「Windows拡張オプションメニュー」が表示されず、パソコンが通常のように起動してしまったときは、いったん電源を切り、手順2からやりなおしてください。

5 **「オペレーティングシステムの選択」と表示されたときは、「Microsoft Windows XP Home Edition」または「Microsoft Windows XP Professional」を選び、【Enter】を押す**

6 **ユーザー選択の画面が表示されたときは、自分のユーザー名をクリック**

7 **「Windows はセーフモードで実行されています。…」と表示されたら、「はい」をクリック**

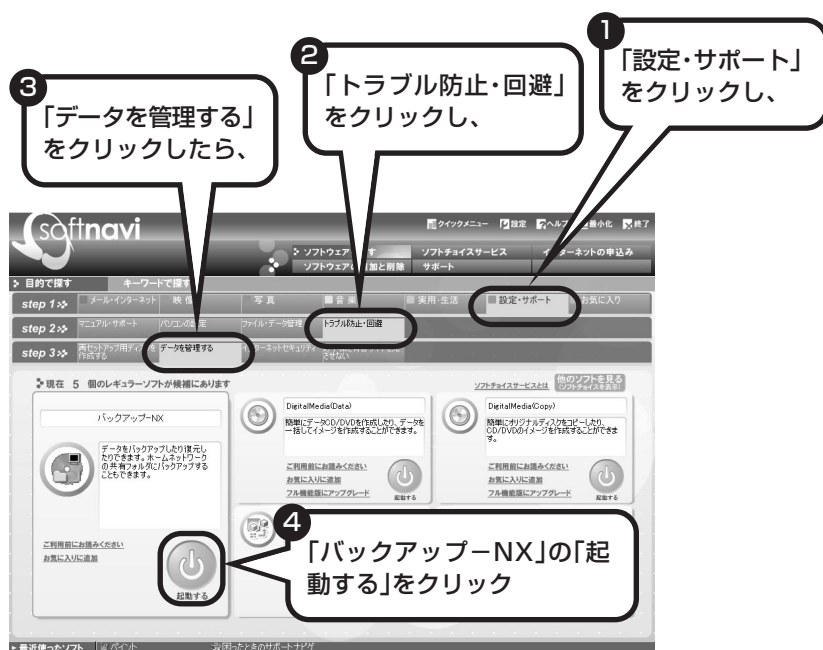
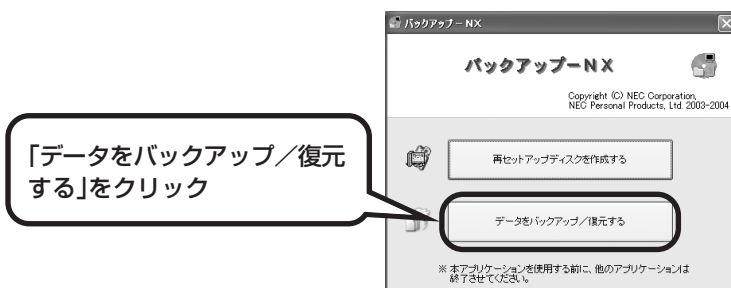
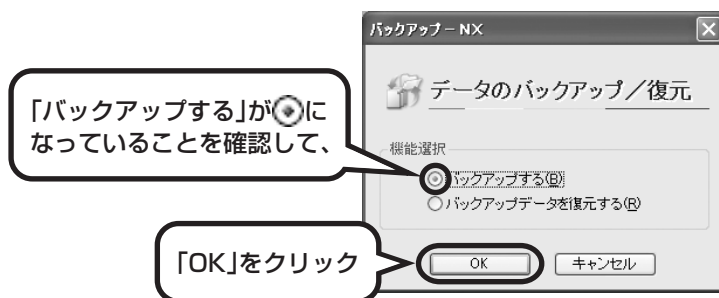
これで、パソコンをセーフモードで起動することができました。

この後、「スタート」-「終了オプション」-「再起動」をクリックし、再起動して問題がなければ、正常な状態に戻ります。

セーフモードについて詳しくは、「スタート」-「ヘルプとサポート」-「問題を解決する」-「問題のトラブルシューティング」-「Windows をセーフモードで起動する」をご覧ください。

データのバックアップを取る

システムの修復や再セットアップをおこなう前に、必ずデータのバックアップを取ってください。

1 デスクトップ画面の（ソフトナビゲーター）をダブルクリック

2 「バックアップ－NX」の画面が表示されたら、「データをバックアップ／復元する」をクリック

3 この画面が表示されたら、「OK」をクリック

4 「バックアップするアプリケーション」、「バックアップするインターネット設定」のいずれも「すべて選択」にが付いていることを確認して、「開始」をクリック

ここでは、パソコンのハードディスク内にあるDドライブという場所にデータの控えが作成されます。再セットアップの際にCドライブの領域を変更する場合は、Dドライブのデータも消えてしまいます。Cドライブの領域を変更するときは、「バックアップの実行」の画面で「CD-R/RW、DVD-R/RW」のをクリックしてにして、CD-R/RWディスクなどへデータのバックアップを取るようにしてください。

5 「バックアップの実行」の画面が表示されたら、「実行」をクリック

バックアップが始まります。完了までにしばらく時間がかかります。

6 「バックアップは正常に終了しました。」と表示されたら、「閉じる」をクリックし、画面右上のをクリック

・Dドライブにバックアップをした場合は、バックアップが成功すると「D:¥BackupNX¥（ユーザー名）」フォルダに「BackupNX.bnx」というファイルが作られます。（ユーザー名）には、バックアップをしたユーザーの名前が入ります。
・家族など、複数のユーザーでこのパソコンを共有している場合、ユーザーの人数分だけバックアップが必要です。「スタート」-「ログオフ」-「ユーザーの切り替え」の順にクリックして、ユーザーごとにバックアップの手順を繰り返してください。

- 「バックアップ－NX」でバックアップを取ったデータは、パソコンを再セットアップしたら、すぐに復元してください。復元が遅れると、再セットアップ以降に作成されたデータが失われることがあります。
- 「バックアップ－NX」について詳しくは、「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフト一覧」-「バックアップ－NX」をご覧ください。

システムの修復を試みる

システムの修復によって、トラブルが発生する前の「復元ポイント」を指定して、Windowsを構成する基本的なファイルや設定だけをもとに戻すことができます。この方法を使うと、「マイドキュメント」などに保存しておいたデータの多くをそのまま残しておくことができます。

- システムの修復をおこなう前にデータのバックアップを取ってください。システムを修復することで大切なデータが失われることがあります。
- システムの修復をおこなうときは、前もって起動中のソフトを終了させておいてください。
- Windowsが正常に起動しない場合は、「セーフモードでパソコンを起動してみる」で説明した手順1～7にしたがって、パソコンをセーフモードで起動してください。その後、次の手順で操作します。

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「システムツール」-「システムの復元」の順にクリック

2 「システムの復元」の画面が表示されたら、「コンピュータを以前の状態に復元する」がになっていることを確認し、「次へ」をクリック

3 カレンダーから復元したい日付をクリック

太字で表示された日付から、トラブルが起きるようになる前の日付を選んでください。

4 選択した日付の「復元ポイント」が複数表示されているときは、どれかをクリックして選択し、「次へ」をクリック

5 「復元ポイントの選択の確認」が表示されたら、内容を確認して「次へ」をクリック

選択した「復元ポイント」の時点にさかのぼって、パソコンのシステムが復元されます。しばらくすると、自動的にパソコンが再起動します。

6 「復元は完了しました」と表示されたら、「OK」をクリック

これで、システムの修復は完了です。

「前回正常起動時の構成」でシステムを修復する

セーフモードでもパソコンを起動できず、「システムの復元」も実行できない場合、次の手順を試してください。

1 パソコン本体の電源を入れる

2 「NEC」のロゴマークが表示されたら、【F8】を何度か押す

3 「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されたら、【↑】、【↓】を使って「前回正常起動時の構成」を選び、【Enter】を押す

「Windows拡張オプションメニュー」が表示されず、パソコンが通常のように起動してしまったときは、いったん電源を切り、手順1からやりなおしてください。

4 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたときは、「Microsoft Windows XP Home Edition」または「Microsoft Windows XP Professional」を選び、【Enter】を押す

これで、前回正常起動時の構成を使用してパソコンが起動します。

再セットアップする(Cドライブのみ)

このパソコンのハードディスクにあるCドライブの内容をご購入時の状態に戻します。

パソコンに慣れていないかたは、この方法で再セットアップ

このパソコンのハードディスクには、あらかじめCドライブとDドライブという2つの領域が作られています。アドバンストタイプの場合、ハードディスクにはCドライブとDドライブのほかに、インスタント機能用のデータが入っている領域があります。

Cドライブには、Windowsやアプリケーションソフト、マイドキュメントなどに保存したファイルなどが入っています。Dドライブには、ソフトチョイス対応アプリケーションのセットアップ用データが入っています。アプリケーションソフトで作成したデータやバックアップデータの保存先にDドライブを指定した場合は、それらのファイルも入っています。

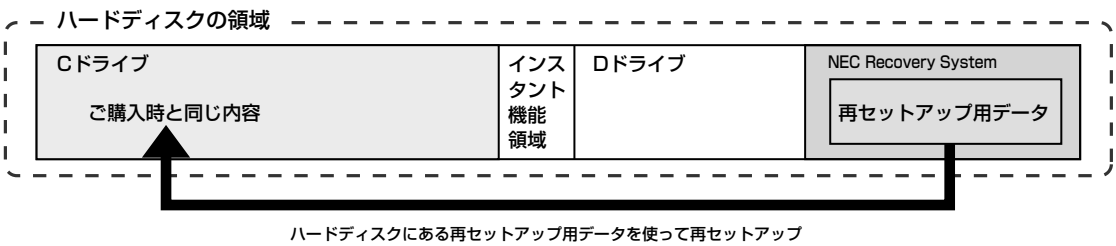
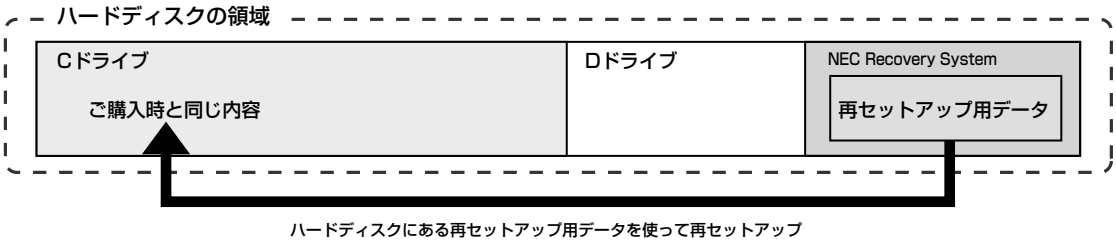
「再セットアップする(Cドライブのみ)」で説明する手順では、Dドライブの内容を残したまま、Cドライブだけをご購入時の状態に戻します。パソコンの操作に慣れていないかたやハードディスクをフォーマットした経験のないかたは、この方法で再セットアップをおこなってください。

Cドライブの領域を変更して再セットアップする場合は、171ページ

Cドライブの領域を変更して再セットアップする場合は、「Cドライブの領域を変更して再セットアップする」(171ページ)へ進んでください。その場合、Dドライブのデータも失われるため、ソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMの作成も必要になります。パソコンやハードディスクの知識を十分にお持ちのかたのみCドライブの領域を変更してください。

※アドバンストタイプで、インスタント機能のみ再セットアップする場合は、173ページをご覧ください。

ハードディスクに格納されている再セットアップ領域のデータ（NEC Recovery System）を、Cドライブに書き込んで再セットアップします。ハードディスクの領域の変更はしません。

・アドバンストタイプ

・ベーシックタイプ

再セットアップの流れ

再セットアップは次の13項目の作業を連続しておこないます。項目によっては（　）内におよその作業時間を示していますが、実際にかかる時間はモデルやパソコンの使用状況で異なります。
Office Professional 2003モデルの場合は、準備するものやOfficeの再セットアップ手順が異なります。『LaVie Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

1 必要なものを準備する
2 バックアップを取ったデータを確認する
3 インターネットやLANの設定を控える
4 ユーザー名を控える
5 BIOS（バイオス）の設定を初期値に戻す：初期値を変更している場合のみ
6 別売の周辺機器（メモリ、プリンタ、スキャナなど）を取り外す
7 システムを再セットアップする（約1時間）
8 Windowsの設定をする（約30分）
9 Office Personal 2003を再セットアップする（約10分）
　：Office Personal 2003モデルのみ
10 別売の周辺機器（メモリ、プリンタ、スキャナなど）を取り付けて設定しなおす
11 インターネット接続の設定などをやりなおす
12 別売のソフトをインストールしなおす
13 バックアップを取ったデータを復元する

バックアップは終わっていますね？

再セットアップをおこなうと、Cドライブに保存したデータはすべて失われます。バックアップが終わっていない場合、154ページをご覧ください。

再セットアップを始めたら、途中でやめない!

再セットアップは、すべての作業項目を最後まで続けて作業することが必要です。途中でやめてしまうと、再セットアップが終わってもデータがもとどおりに復元されなかったり、一部のデータが失われたりすることがあります。

1 必要なものを準備する

Office Professional 2003 モデルの場合は、『LaVie G シリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧になり、必要なものを準備してください。

このパソコンの添付品から、次のものを準備してください。

- 「Microsoft® Office Personal Edition 2003」CD-ROM（Office Personal 2003 モデルのみ）
- 「Microsoft® Office Home Style＋」CD-ROM（Office Personal 2003 モデルのみ）
- 『準備と設定』（このマニュアル）

その他、このパソコンをご購入後に自分でインストールしたソフトがある場合、そのマニュアルをご覧になり、インストールに必要なCD-ROMなどを準備してください。

2 バックアップを取ったデータを確認する

154ページの「データのバックアップを取る」でバックアップを取ったデータを、もう一度確認してください。まだバックアップを取っていなかったり、バックアップに失敗していたときは、バックアップを取りなおしてください。

3 インターネットやLANの設定を控える

再セットアップをおこなっても、インターネット接続の設定は自動的には復元されません。インターネットを利用している場合、プロバイダの会員証を用意してください。会員証がない場合は、次の項目をメモしてください。

- ユーザー ID
- パスワード
- 電子メールアドレス
- メールパスワード
- プライマリ DNS
- セカンダリ DNS
- メールサーバー
- ニュースサーバー
- アクセスポイントの電話番号（ダイヤルアップ接続の場合）

4 ユーザー名を控える

このパソコンをご購入後、はじめて電源を入れておこなったセットアップ作業で設定したユーザー名を確認し、次の「ユーザー1」の欄に控えておきます。「キーボードを使って自分の名前を入れる」(34ページ)をご覧ください。「8.Windowsの設定をする」の作業をおこなうときに、このユーザー名が一致しないとデータが復元できなくなってしまいます。

	ユーザー名
ユーザー1(1人目)	
ユーザー2(2人目)	
ユーザー3(3人目)	
ユーザー4(4人目)	

・家族など、このパソコンを複数のユーザーで共有している場合、それらのユーザー名も一緒に控えておくことをおすすめします。

・ユーザー名を控えるときは、「大文字と小文字の区別」、「半角と全角の区別」に注意してください。

5 BIOSの設定を初期値に戻す:初期値を変更している場合のみ

BIOSの設定を変更している場合は、BIOSセットアップユーティリティを起動して、変更した内容をメモしてから、設定を初期値に戻してください。この作業は、BIOSの設定を変更していない場合は必要ありません。手順について詳しくは、『活用ブック』の「困ったときの解決法」-「画面が表示されないとき」-「パソコンの使用環境を変更したら、Windowsが起動しない」をご覧ください。

6 別売の周辺機器(メモリ、プリンタ、スキャナなど)を取り外す

別売の周辺機器をすべて取り外してください。また、インターネットの通信回線との接続に使っている電話回線ケーブルやLANケーブルも取り外してください。

外付けのハードディスクドライブなどを接続したまま再セットアップをおこなうと、ハードディスク内のデータが削除される場合があります。

7 システムを再セットアップする

次の手順で操作してください。

次の手順を始める前に、必ずACアダプタを接続しておいてください。バッテリだけでは再セットアップできません。

1 パソコン本体の電源を切る

通常の操作で電源を切ることができないときは、電源スイッチを4秒以上押したままにして電源を切ってください。

2 パソコン本体の電源を入れる

3 「NEC」のロゴマークが表示されたら、【F11】を何度か押す

4 「再セットアップツール」の画面が表示されたら、「開始」をクリック

「再セットアップツール」の画面が表示されず、パソコンが通常のように起動してしまったときは、いったん電源を切り、手順2からやりなおしてください。

5 「再セットアップとは」の画面が表示されたら、「次へ」をクリック

6 「準備するもの」の画面が表示されたら、必要なものがそろっているか確認し、「次へ」をクリック

7 「再セットアップを始める前に」の画面が表示されたら、「次へ」をクリック

8 「再セットアップの種類を選択する」の画面が表示されたら、「C ドライブのみ再セットアップ」を選び、「次へ」をクリック

9 「C ドライブのみ再セットアップ」の画面が表示されたら、「実行」をクリック

「Cドライブの領域を自由に作成して再セットアップ」の画面が表示されたときは、「戻る」をクリックし、手順8からやりなおしてください。

再セットアップが始まります。再セットアップが始まったら、画面に指示が表示されるまで、キーボードやパソコン本体の電源スイッチに触れないでください。

10 「パソコンを再起動します」の画面が表示されたら、「再起動」をクリック

「パソコンを再起動します」の画面が表示されなかったときは再セットアップが正常におこなわれていません。「7.システムを再セットアップする」の最初に戻り、操作をやりなおしてください。

「再起動」をクリックして、パソコンが再起動したら、次の「8.Windowsの設定をする」へ進んでください。

8 Windowsの設定をする

次の手順で操作してください。

1 「Microsoft Windows へようこそ」の画面が表示されていることを確認する

2 「次へ」をクリック

3 「使用許諾契約」が表示されたら、「同意します」をクリックして◯を◉にして、「次へ」をクリック

4 「コンピュータを保護してください」が表示されたら、「自動更新を有効にし、コンピュータの保護に役立てます」をクリックして◯を◉にして、「次へ」をクリック

5 「コンピュータに名前を付けてください」が表示されたら、そのまま、「次へ」をクリック

「LaVie」など好みの名前を入力してもかまいません。また、再セットアップする前に付けていた名前と異なるものを入力してもかまいません。

6 「管理者パスワードを設定してください」が表示された場合は、管理者パスワードを自由に入力する

「インターネットに接続する方法を指定してください」または「インターネット接続が選択されませんでした」と表示されたときは、手順6～8を省略して、手順9へ進んでください。

7 「パスワードの確認入力」の欄に、手順6で入力したパスワードと同じものを入力して、「次へ」をクリック

8 「このコンピュータをドメインに参加させますか？」と表示された場合は、「いいえ」をクリックして◯を◉にして、「次へ」をクリック

「このコンピュータをドメインに参加させますか？」と表示されずに、「インターネットに接続する方法を指定してください」または「インターネット接続が選択されませんでした」と表示されたときは、この手順を省略して手順9へ進んでください。

9 「インターネットに接続する方法を指定してください」または、「インターネット接続が選択されませんでした」と表示されたら、そのまま「省略」をクリック

10 「Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか？」と表示されたら、「いいえ」をクリックして◯を◉にして、「次へ」をクリック

11 「今すぐインターネットアクセスのセットアップを行いますか？」と表示された場合は、「いいえ」をクリックして◯を◉にして、「次へ」をクリック

12 **「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、あらかじめ控えておいたユーザー名を正確に入力して、「次へ」をクリック**

13 **「設定が完了しました」と表示されたら、「完了」をクリック**

しばらくすると、「パソコンの診断が終了しました」と表示されます。

14 **をクリック**

15 **「121ポップリンクの設定」が表示されたら、「利用する」が◉になっていることを確認し、をクリック**

121ポップリンクは、お使いの機種に適した最新情報をNECからインターネット経由でお届けするサービスです。

16 **「設定が完了しました」と表示されたら、をクリック**

パソコンが再起動します。再起動後、「システムの復元ポイントの設定」の画面が表示されます。しばらくすると、もう一度再起動します。これでWindowsの設定は終了です。

Office Personal 2003モデルの場合は、続けて「9.Office Personal 2003を再セットアップする」に進んでください。
Office Professional 2003モデルの場合は、『LaVie Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧になり、Office Professional 2003を再セットアップしてください。
その他のモデルの場合は、「10.別売の周辺機器(メモリ、プリンタ、スキャナなど)を取り付けて設定しなおす」(169ページ)へ進んでください。

9 Office Personal 2003を再セットアップする (Office Personal 2003モデルのみ)

Office Professional 2003モデルの場合は、『LaVie Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧になり、Office Professional 2003を再セットアップしてください。

このパソコンに入っている「Office Personal 2003」は、機能を厳選してインストールされています。ここでは、ご購入時と同じ状態でセットアップをおこなう手順を説明します。
必要のない機能を削除する方法や、後から機能を追加する方法については、添付の「Office Personal 2003」のマニュアルをご覧ください。

1 「Microsoft® Office Personal Edition 2003」CD-ROMをセットする

2 「Microsoft Office 2003セットアップ」の画面が表示されたら、プロダクトキーを入力して、「次へ」をクリック

「プロダクトキー」は、CD-ROMケースの裏面に貼ってあるシールに記載されています。

3 「ユーザー情報」が表示されたら、ユーザー名などを入力して「次へ」をクリック

ユーザー名などの欄には、何も入力しなくてもかまいません。

4 「インストールの種類」と表示されたら、「カスタムインストール」をクリックして○を◉にして、「次へ」をクリック

5 「カスタムセットアップ」と表示されたら、「アプリケーションごとにオプションを指定してインストール」をクリックして□を☑にして、「次へ」をクリック

6 「詳細なカスタマイズ」と表示されたら、「Microsoft Office」の左側にあるをクリックして、「マイコンピュータからすべて実行」をクリック

このとき表示される一覧の中に、灰色で表示されているフォルダがないことを確認してください。あったときは、もう一度この手順をやりなおしてください。

7 「Microsoft Office Excel」の左側にある+をクリックし、「読み上げ」の左側にあるをクリックして、「インストールしない」をクリック

「読み上げ」の左にあるアイコンがに変わります。

8 同じようにして「Office共有機能」の+ -「入力システムの拡張」の+をクリックし、「音声」の左側にあるをクリックして、「インストールしない」をクリック

9 「Microsoft Office Excel」の「読み上げ」、「Office共有機能」の「音声」、どちらもに変わったことを確認し、「次へ」をクリック

10 「ファイルの概要」と表示されたら、「完了」をクリック

インストールが始まります。

11 再起動するようにメッセージが表示されたら、「はい」をクリック

・「Microsoft Office 2003のセットアップが正常に完了しました。」と表示されることもあります。その場合、「完了」をクリックしてください。

・「Webサイトで更新および追加ダウンロードをチェックする」の□を☑にしないでください。

12 「Microsoft® Office Personal Edition 2003」CD-ROMを取り出す

続けて「Home Style+」をインストールします。

13 「Microsoft® Office Home Style+」CD-ROMをセットする

14 「Microsoft Office Home Style+セットアップへようこそ」の画面が表示されたら、「次へ」をクリック

15 「使用許諾契約書」が表示されたら、内容を確認し、「同意します」をクリックして○を◉にして、「次へ」をクリック

16 「セットアップ先のフォルダ」と表示されたら、「次へ」をクリック

17 「インストールタイプの選択」と表示されたら、「標準」が◉になっていることを確認し、「次へ」をクリック

18 「インストールの開始」と表示されたら、「次へ」をクリック

インストールが始まります。

19 「セットアップは正常に終了しました。」と表示されたら、「OK」をクリック

「Microsoft .NET Framework 1.1パッケージをインストールしますか?」と表示された場合は、「いいえ」をクリックしてください。

20 「Microsoft® Office Home Style+」CD-ROMを取り出す

続けて「Office 2003 SP1」をインストールします。

21 「スタート」-「マイコンピュータ」をクリックして、「Windows XP(C:)」をダブルクリック

「ファイルは表示されていません。」と表示された場合は、「このフォルダの内容を表示する」をクリックしてください。

22 「APSETUP」フォルダをダブルクリック

23 「O11SP1」フォルダをダブルクリック

24 「O11Sp1PI」をダブルクリック

25 「Office 2003 Service Pack 1（プレインストール用）」の画面が表示されたら、「はい」をクリック

26 使用許諾契約の画面が表示されたら、内容に同意して、「はい」をクリック

インストールが始まります。「インストールを継続するには、次のアプリケーションを閉じる必要があります」と表示された場合は、「無視」をクリックしてください。

27 再起動するようにメッセージが表示されたら、「はい」をクリック

これでOffice Personal 2003を使う準備ができました。

再セットアップ後、Office Personal 2003を最初に使用するとき

Outlook 2003やWord 2003、Excel 2003など、Office Personal 2003のソフトを最初に使用するときは、「Microsoft Office 2003ライセンス認証ウィザード」が表示されます。添付の『Microsoft® Office Personal Edition 2003スタートガイド』をご覧になり、ライセンス認証をおこなってください。このライセンス認証手続きは、必ず、再セットアップの作業がすべて完了してからおこなってください。

10 別売の周辺機器(メモリ、プリンタ、スキャナなど)を取り付けて設定しなおす

ご利用の周辺機器に添付のマニュアルを準備してから作業してください。

1 パソコンの電源を切る

2 取り外した周辺機器を取り付け、それぞれのセットアップや設定をおこなう

セットアップや設定の手順、パソコンの電源を入れるタイミングなどについては、各周辺機器に添付のマニュアルにしたがってください。

11 インターネット接続の設定などをやりなおす

再セットアップをおこなうと、インターネット接続の設定や、テレビのチャンネル設定（TVモデルのみ）もやりなおす必要があります。プロバイダに接続するためのユーザー名やパスワードなどは、入会時に決まったものがそのまま使用できます。サインアップ（入会申し込み）をやりなおす必要はありません。

「バックアップーNX」を使ってインターネット接続の設定をバックアップした場合は、簡単に復元することができます。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフト一覧」-「バックアップーNX」をご覧ください。

「バックアップーNX」でインターネット接続の設定のバックアップを取っていない場合、「第6章　パソコンを買い替えたかたへ」を参考にインターネット接続の設定をおこなってください。

テレビのチャンネル設定については、『パソコンでテレビを楽しむ本』をご覧ください。

12 別売のソフトをインストールしなおす

パソコンに別売のソフトをインストールしていた場合は、それぞれに添付のマニュアルにしたがってインストールをおこなってください。

13 バックアップを取ったデータを復元する

「バックアップーNX」でバックアップを取っておいたデータを復元してください。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフト一覧」-「バックアップーNX」をご覧ください。

これで再セットアップの作業は完了です。

Cドライブの領域を変更して再セットアップする

このパソコンのハードディスクにあるCドライブとDドライブの領域を変更してから、Cドライブをご購入時の状態に戻します。

パソコンに慣れていないかたは、158ページへ

ここで説明する方法で、パソコンのハードディスクにあるCドライブとDドライブの領域を変更して再セットアップするには、ハードディスクの知識が必要です。初心者のかたやパソコンの操作に慣れていないかたは、「再セットアップする（Cドライブのみ）」（158ページ）をご覧になり再セットアップをおこなうことを強くおすすめします。

Cドライブの領域サイズを20Gバイトから1Gバイト単位で変更できます。アドバンストタイプの場合、Cドライブの最大の領域サイズは、ハードディスク全体のサイズから「再セットアップ用データ＋インスタント機能領域」を除いたサイズになります。ベーシックタイプの場合、Cドライブの最大の領域サイズは、ハードディスク全体のサイズから再セットアップ用データを除いたサイズになります。Dドライブを含め、それまでにハードディスクに保存されていたデータはすべて失われます。

- **この方法で再セットアップをおこなうと、Cドライブだけでなく、Dドライブにあるデータも失われます。操作を始める前に、CD-R/RWディスクなどに大切なデータのバックアップを取ってください。**
- **Dドライブにあるソフトチョイス対応アプリケーションのセットアップファイルも失われます。操作に入る前に「再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成する」（174ページ）の説明を読み、ソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMを作成してください。**
- **Cドライブの領域を最大に設定して再セットアップをおこなうと、Dドライブのない構成になります。**

・アドバンストタイプ

ご購入時の状態

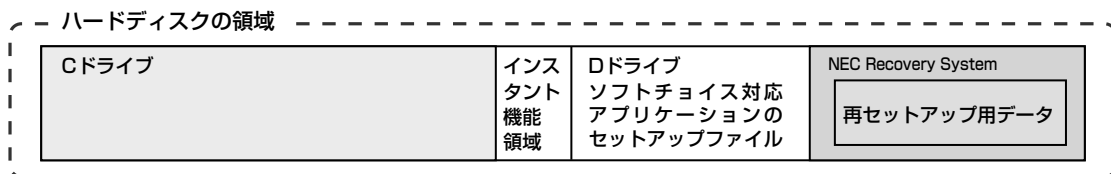
ハードディスクの領域

Cドライブ

インスタント機能領域

Dドライブ
ソフトチョイス対応
アプリケーションの
セットアップファイル

NEC Recovery System

再セットアップ用データ

Cドライブのサイズを変更できる

再セットアップ後の状態

ハードディスクの領域

Cドライブ

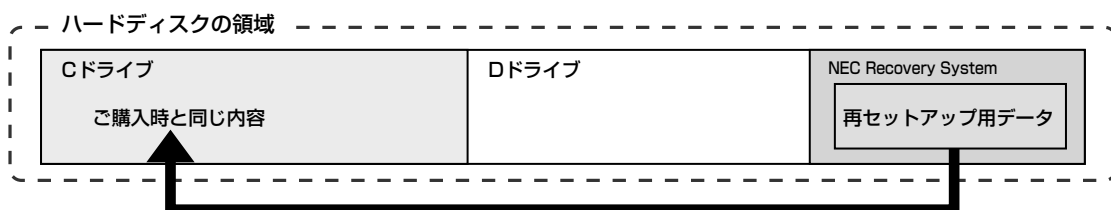
ご購入時と同じ内容

インスタント機能領域

Dドライブ

NEC Recovery System

再セットアップ用データ

・ベーシックタイプ

1 161ページの「1.必要なものを準備する」から「7.システムを再セットアップする」の手順1～7までの操作をおこなう

2 「再セットアップの種類を選択する」の画面が表示されたら、「Cドライブの領域を自由に作成して再セットアップ」を選び、「次へ」をクリック

3 「Cドライブの領域を指定します」の画面が表示されたら、Cドライブの領域の大きさを指定して「次へ」をクリック

以降の操作は、画面の表示内容をよく読みながら進めてください。

再セットアップ終了後の、Windowsの設定、周辺機器の再設定、インターネット接続の再設定などについては、164ページの「8.Windowsの設定をする」以降の説明を参考にしてください。

アドバンストタイプでインスタント機能のみ再セットアップする場合は、163ページの「7.システムを再セットアップする」の手順1～7までをおこない、「再セットアップの種類を選択する」の画面が表示されたら「インスタントの再セットアップ」を選んで「次へ」をクリックしてください。
以降の操作は、画面の表示内容をよく読みながら進めてください。

再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成する

ここでは、再セットアップ用DVD/CD-ROM、インスタント用DVD/CD-ROMおよびソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMの作成手順を説明します。

再セットアップ用DVD/CD-ROMとは

このパソコンは、次のように、ハードディスク内の「再セットアップ領域」(NEC Recovery System)に保存されている再セットアップ用データを使って、再セットアップをおこなうしくみになっています。
通常は、「再セットアップする(Cドライブのみ)」(158ページ)をご覧になり、この方法で再セットアップしてください。

ハードディスクの領域

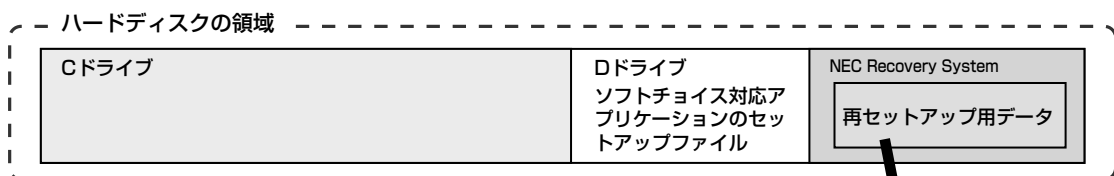
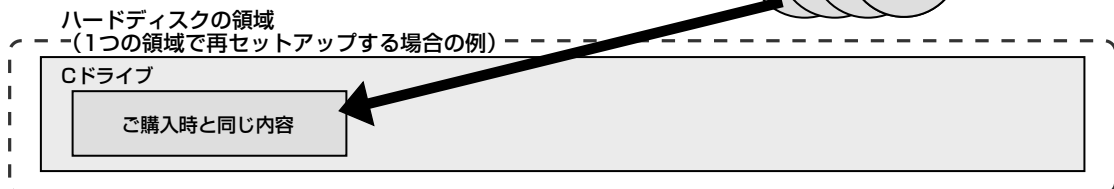
Cドライブ ご購入時と同じ内容	インスタント機能領域※	Dドライブ	NEC Recovery System 再セットアップ用データ

ハードディスクにある再セットアップ用データを使って再セットアップ

※ベーシックタイプには、インスタント機能領域はありません。

そのほかに、ここで作成する「再セットアップ用DVD/CD-ROM」を使った再セットアップ方法が利用できます。

●再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成して再セットアップする場合の一例

ご購入時の状態

※アドバンストタイプでは、領域を1つにして再セットアップすることはできません。

再セットアップ用DVD/CD-ROMを作成する

このパソコンに入っている「再セットアップディスク作成ツール」を使って再セットアップ用 DVD/CD-ROM を作成します。
アドバンストタイプでは、合わせてインスタント用 DVD/CD-ROM も作成します。インスタント機能のみ再セットアップする場合や、ハードディスクをご購入時の状態に戻して再セットアップする場合などに使用します。

また、「再セットアップディスク作成ツール」でソフトチョイス用アプリケーション DVD/CD-ROM の作成もおこないます。

- 再セットアップ用 DVD/CD-ROM は、「DigitalMedia」のアップデート前に作成してください。ご購入時の製品構成以外では、作成できないことがあります。
- 「再セットアップ領域」（NEC Recovery System）に保存されている再セットアップ用データが削除されている場合は、「スタート」-「すべてのプログラム」-「アプリケーション」-「再セットアップディスク作成ツール」をクリックすると、次のいずれかのメッセージが表示され、再セットアップ用 DVD/CD-ROM を作成できません。
  - 「必要なファイルが見つからないため、ソフトウェアを実行できません。」
  - 「再セットアップ用DVD/CD-ROMの作成に必要なファイルが見つからないため、ソフトウェアを実行できません。」

  再セットアップ用データは次のような場合に削除されます。
  - 再セットアップ用 DVD/CD-ROM を使用して「ハードディスクの領域を 1 つにして再セットアップ」、または「C ドライブの領域を自由に作成して再セットアップ」をおこなった場合
  - 手動で再セットアップ領域を削除、または再セットアップ用データを削除した場合
- ソフトチョイス用アプリケーションがあるモデルをご利用の場合、D ドライブにソフトチョイス対応アプリケーションのセットアップファイルが格納されています。C ドライブの領域を変更して再セットアップする場合、D ドライブにあるソフトチョイス対応アプリケーションのセットアップファイルも失われます。そのため、事前にソフトチョイス用アプリケーション DVD/CD-ROM を作成し、ソフトチョイス対応アプリケーションのセットアップファイルを保存しておくことが必要です。

未使用のDVD-Rディスクまたは未使用のCD-Rディスクを準備する

必要な枚数は、お使いのモデルによって異なります。179ページの手順3で画面に表示される枚数を確認してください。再セットアップ用DVD/CD-ROMとソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMを作成するために必要な枚数を用意してください。アドバンストタイプでは、インスタント用DVD/CD-ROM作成のために必要な枚数も合わせて用意してください。作成には、CD1枚につき最大約30分、DVD1枚につき最大約100分かかります。

- **必ず次の容量のディスクを用意してください。**
  CD-Rディスクの場合：700Mバイトまたは650Mバイトのもの
  DVD-Rディスクの場合：4.7Gバイトのもの
- **次のディスクは使用できません。**
  CD-RW、DVD-RW、DVD+R/RW、DVD-RAM、DVD-R（2層）、DVD+R（2層）
- **作成済みの再セットアップ用DVD/CD-ROMも販売しています。お買い求めの際は、PC98-NXシリーズメディアオーダーセンターのホームページをご覧ください。**
  URL： http://nx-media.ssnet.co.jp

DigitalMediaがインストールされていることを確認する

DVD-RまたはCD-Rへのデータ書き込みには「DigitalMedia」というソフトが必要です。このパソコンにあらかじめインストールされていますが、削除してしまっているときは、追加しておいてください。ソフトを追加する方法については、「サポートナビゲーター」-「ソフトの紹介と説明」-「ソフトの追加と削除」をご覧ください。

作成の手順を始める前に

ほかのソフトが起動していると、DVD-RまたはCD-Rへの書き込み中にエラーが発生することがあります。作成の手順を始める前に次の操作をおこなってください。

- **スクリーンセーバーが起動しないようにする**
  次の手順で設定を変更します。
  1.「スタート」-「コントロールパネル」をクリックする
  2.「デスクトップの表示とテーマ」をクリックする
  3.「スクリーンセーバーを選択する」をクリックする
  4.「画面のプロパティ」の「スクリーンセーバー」で「(なし)」を選び「OK」をクリックする
  5.「デスクトップの表示とテーマ」の☒をクリックする
- **自動的にスタンバイ状態／休止状態にならないように設定する**
  設定方法は、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「省電力機能」をご覧ください。
- **起動中のソフトをすべて終了する**
  終了方法は、それぞれのソフトのヘルプなどをご覧ください。
- **常駐プログラム（ウイルス対策ソフトなど）をすべて終了する**
  終了方法は、それぞれのソフトのヘルプなどをご覧ください。
- **テレビ番組の録画予約をしている場合は予約を取り消す（TV モデルのみ）**
  予約を取り消す方法については、『パソコンでテレビを楽しむ本』をご覧ください。
- **Cドライブの空き容量を、CD-Rの場合800Mバイト以上、DVD-Rの場合4.5Gバイト以上確保しておく**

作成の手順

1 **「スタート」-「すべてのプログラム」-「アプリケーション」-「再セットアップディスク作成ツール」をクリック**

次の画面が表示されます。

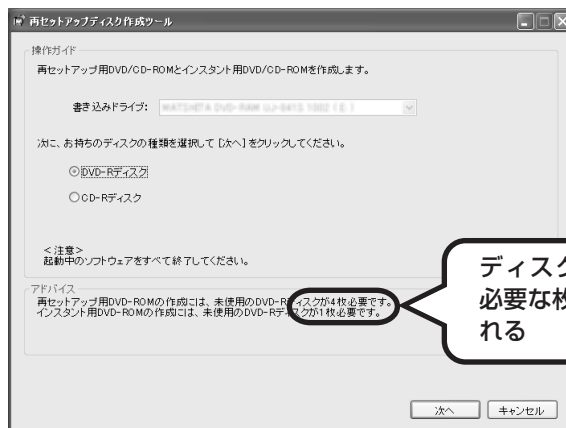
※ベーシックタイプの場合、インスタント用 DVD/CD-ROM の表示はありません。

- ソフトチョイス用アプリケーションがないモデルをご利用の場合、「ソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMを作成する」は表示されません。ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除している場合も同様です。
- ソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMを作成した後で、この画面を表示すると、「ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除する」という表示が追加されます。

2 **作成する DVD/CD-ROM の種類を選び、「次へ」をクリック**

はじめて作成するときは、「再セットアップ用 DVD/CD-ROM」、「ソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROM」の順番で作成してください。

3 **次の画面が表示されたら、ディスクの種類を選び、必要なディスクの枚数を確認して、「次へ」をクリック**

必要な枚数は、お使いのモデルによって異なります。

※ベーシックタイプの場合、インスタント用DVD/CD-ROMの枚数は表示されません。

DVD-Rディスクは、CD-R/RW with DVD-ROMモデルの場合は選択できません。

4 **次の画面が表示されたら、「次へ」をクリック**

一部のディスクの書き込みに失敗した場合などは、この画面で、作成開始ディスク:の をクリックすると、途中から作成するように指定することもできます。

・アドバンストタイプの場合、インスタント用DVD/CD-ROMは必ず再セットアップ用DVD/CD-ROMとセットで作成してください。インスタント機能のみ再セットアップする場合でも、再セットアップ用DVD/CD-ROMが必要になります。

・「書き込み速度」は、通常は「最速」を選んでください。DVD/CDドライブと用意したDVD-RディスクまたはCD-Rディスクの組み合わせで使用可能な最高速度で書き込みます。

・書き込みに失敗した場合は、用意したDVD-RディスクまたはCD-Rディスクに対応した最高速度よりも遅い書き込み速度を選び、再度作成してください。

5 用意したDVD-RまたはCD-Rディスクをセットする

CD/ハードディスクアクセスランプが消えるまで待ってください。

6 「作成開始」をクリック

1枚目のディスクへの書き込みが始まります。書き込みにはしばらく時間がかかります。そのままお待ちください。

書き込みが完了すると、自動的にディスクが排出され、1枚目のディスクが作成されたことを知らせるメッセージが表示されます。

7 「OK」をクリック

8 ディスクを取り出し、ディスクの種類と何枚目のディスクかわかるようにラベル面に記入する

続けて、次のディスクをセットしてください。最後のディスクへの書き込みが終わるまで、同じ操作を繰り返します。

アドバンストタイプの場合、再セットアップ用DVD/CD-ROMの作成が終わると、続けてインスタント用DVD/CD-ROMの作成に入ります。確認画面が表示されたら「OK」をクリックしてください。

再セットアップ用DVD/CD-ROMの作成が終わったら、同じようにしてソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMも作成してください。

作成した再セットアップ用DVD/CD-ROM、インスタント用DVD/CD-ROMおよびソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMは、紛失・破損しないように大切に保管してください。

ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除するには

D ドライブからソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルのみを削除して、D ドライブの空き容量を増やすことができます。その場合、ソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMを作成した後で、「再セットアップディスク作成ツール」を起動し、「ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除する」を選んで、「次へ」をクリックしてください。その後は画面のメッセージにしたがって操作を進めてください。

Dドライブからソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを削除した場合、ソフトナビゲーターからソフトチョイス対応アプリケーションをインストールするように操作したときは、ソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMをセットするように表示されます。画面の指示にしたがって操作してください。

再セットアップ用DVD/CD-ROMを使って再セットアップする

再セットアップ用DVD/CD-ROMを使ってできることを説明します。

再セットアップ用DVD/CD-ROMでできること

目的に応じて、次の再セットアップと、ハードディスクのデータ消去をおこなうことができます。

Cドライブのみ再セットアップ

Cドライブの領域のみ再セットアップをおこない、Dドライブの内容は再セットアップをおこなう前の状態のまま残します。「再セットアップする（Cドライブのみ）」（158ページ）で説明している内容と同じです。

ハードディスクの状態をご購入時から変更した場合（ダイナミックディスクなど）、この方法での再セットアップはできません。

ハードディスクの領域を1つにして再セットアップ

ハードディスク全体を1つの領域（Cドライブ）として作成できます。Cドライブの領域（サイズ）は最大になりますが、Dドライブを含め、それまでにハードディスクに保存されていたデータはすべて失われます。

- **アドバンストタイプの場合、ハードディスクにはCドライブとDドライブのほかに、インスタント機能用のデータが入っている領域があるため、ハードディスクの領域を1つにする再セットアップ方法はご利用になれません。**
- **この方法で再セットアップすると、ご購入時にNEC Recovery Systemに入っていた再セットアップ用データと、Dドライブに入っていたソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルが失われます。**
  作成した再セットアップ用DVD/CD-ROMおよびソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMを紛失・破損しないように、大切に保管してください。
- **再セットアップを始める前に、CD-R/RWディスクなどに大切なデータのバックアップを取ってください。**

C ドライブの領域を自由に作成して再セットアップ

C ドライブの領域サイズを20Gバイトから1Gバイト単位で設定できます。C ドライブの領域サイズは、最大でハードディスク全体のサイズになります。アドバンストタイプの場合、C ドライブの最大の領域サイズは、ハードディスク全体のサイズから「インスタント機能領域」を除いたサイズになります。
D ドライブを含め、それまでにハードディスクに保存されていたデータはすべて失われます。

- この方法で再セットアップすると、ご購入時にNEC Recovery Systemに入っていた再セットアップ用データと、Dドライブに入っていたソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルが失われます。
  作成した再セットアップ用 DVD/CD-ROM およびソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROMを紛失・破損しないように、大切に保管してください。アドバンストタイプの場合は、作成したインスタント用 DVD/CD-ROM も合わせて大切に保管してください。
- 再セットアップを始める前に、CD-R/RW ディスクなどに大切なデータのバックアップを取ってください。
- Cドライブの領域を最大に設定して再セットアップをおこなうと、Dドライブのない構成になります。

ハードディスクをご購入時の状態に戻して再セットアップ

Cドライブをご購入時の状態に復元して再セットアップをおこないます。再セットアップ用DVD/CD-ROMの内容をハードディスクにコピーして、ハードディスクから再セットアップできるようにします。そのため、この方法での再セットアップには約2時間かかります。Cドライブの領域を自由に作成して再セットアップしたり、ハードディスクの領域を 1 つにして再セットアップしたりした後で、ハードディスクの領域をご購入時の状態に戻したいときに利用します。

- この方法で再セットアップすると、それまでのハードディスクの内容はCドライブ、Dドライブ(ソフトチョイス用アプリケーションのセットアップファイルを含む)ともにすべて失われます。また、アドバンストタイプのインスタント機能は初期状態に設定されます。
- Dドライブのソフトチョイス用アプリケーションは復元されません。今後、ソフトチョイス用アプリケーションをインストールする場合は、「再セットアップディスク作成ツール」で作成したソフトチョイス用アプリケーションDVD/CD-ROM を使用してください。
- 再セットアップを始める前に、CD-R/RW ディスクなどに大切なデータのバックアップを取ってください。

インスタントの再セットアップ（アドバンストタイプのみ）

インスタント機能のみ再セットアップをおこないます。C ドライブ、D ドライブの内容は、再セットアップをおこなう前の状態のまま残します。

この方法で再セットアップするときは、インスタント用DVD/CD-ROMのほかに再セットアップ用DVD/CD-ROMが必要になります。

ハードディスクのデータ消去

このパソコンのハードディスクのデータ消去をおこないます。ハードディスクに一度記録されたデータは、「ごみ箱」から削除したり、フォーマットしても復元できる場合があります。このメニューを選択すると、Windows XP 標準のハードディスクのフォーマット機能では消去できないハードディスク上のデータを消去し、復元ツールで復元されにくくします。このパソコンを譲渡や廃棄する場合にご利用ください。
消去にかかる時間は、ご利用のモデルによって異なります。

この方法でのハードディスクのデータ消去は、データの復元が完全にできなくなることを保証するものではありません。データの復元が完全にできないことの証明が必要な場合は、NECフィールディング株式会社に有償のデータ消去を依頼してください。
NEC フィールディングホームページURL： http://www.fielding.co.jp

再セットアップ用DVD/CD-ROMを使った再セットアップ手順

再セットアップを始めたら、途中でやめたりせず、手順どおり最後まで操作してください。やむをえず中断したときは、最初から操作をやりなおしてください。

1 作成した再セットアップ用DVD/CD-ROMを用意する

アドバンストタイプの場合、インスタント用DVD/CD-ROMも用意してください。

2 「再セットアップする（C ドライブのみ）」（158ページ）を読み、「1.必要なものを準備する」から「6.別売の周辺機器（メモリ、プリンタ、スキャナなど）を取り外す」までの作業をおこなう

3 パソコンの電源スイッチを押し、電源を入れる

4 電源ランプが点灯したら、すぐに再セットアップ用DVD/CD-ROM（1枚目）をセットする

5 「再セットアップツール」の画面が表示されたら、「開始」をクリック

ディスクを交換するように指示が表示されたら、指示にしたがって再セットアップ用DVD/CD-ROMを順番にセットしてください。

「再セットアップツール」の画面が表示されずに、通常のWindowsデスクトップが表示されてしまったときは、再セットアップ用DVD/CD-ROMをセットしたまま、パソコンを再起動（「スタート」-「終了オプション」-「再起動」の順にクリック）してください。

6 「再セットアップとは」の画面が表示されたら、「次へ」をクリック

7 「準備するもの」の画面が表示されたら、必要なものがそろっているか確認し、「次へ」をクリック

8 「再セットアップを始める前に」の画面が表示されたら、「次へ」をクリック

9 「再セットアップの種類を選択する」の画面が表示されたら、再セットアップの種類を選び、「次へ」をクリック

10 以降は、画面の指示にしたがって操作する

再セットアップが始まったら、画面に指示が表示されるまで、キーボードやパソコン本体の電源スイッチに触れないでください。

ディスクを交換するように指示が表示されたら、指示にしたがって再セットアップ用DVD/CD-ROMまたはインスタント用DVD/CD-ROMを順番にセットしてください。

ハードディスクのフォーマットまたは再セットアップがおこなわれている間は、画面に指示が表示されないかぎり、ディスクを取り出したり、電源スイッチに触れたりしないでください。

「パソコンを再起動します」の画面が表示されたら、DVD/CD-ROMを取り出し、「再起動」をクリックしてください。パソコンが自動的に再起動して「Windowsへようこそ」の画面が表示されます。

- この画面が表示されなかったときは、再セットアップが正常におこなわれていません。最初からやりなおしてください。
- 「ハードディスクをご購入時の状態に戻して再セットアップ」を選択した場合は、パソコンが再起動した後、再び「再セットアップツール」の画面が表示されます。「開始」をクリックし、後は画面にしたがって作業を進めてください。再び、「パソコンを再起動します」の画面が表示されたら、DVD/CD-ROMを取り出し、「再起動」をクリックしてください。パソコンが再起動し、「Windowsへようこそ」の画面が表示されますので、手順11へ進んでください。

11 **164ページの「8.Windowsの設定をする」以降の説明を参考に、Windowsの設定、周辺機器の再設定、インターネット接続の再設定などをする**

「13.バックアップを取ったデータを復元する」の操作まで終わったら、再セットアップの作業は完了です。

第9章

パソコン内部に取り付ける

メモリを増設して、パソコンをパワーアップすることができます。パソコン内部のほかの部品を傷つけたりしないよう、手順の説明をよく読んでから作業してください。

メモリ **188**

メモリ

メモリを増やすことで、より多くのソフトを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。このパソコンでメモリを増やすときには、別売の増設RAM（ラム）ボードをメモリスロットに取り付けます。

メモリを増やすには

どのくらいメモリを増やすかを決める

このパソコンでは、最大2.25Gバイト（アドバンストタイプの場合）、1Gバイト（ベーシックタイプの場合）まで増やせます。

必要なものを準備する

必要な増設RAMボードなどを準備します。

増設RAMボードを取り付ける

本体底面のメモリスロットのカバーを取り外し、用意した増設RAMボードを専用のスロットに取り付けます。取り付けたらカバーをもとに戻します。

メモリが増えたかどうか確認する

本体の電源を入れて、増やしたメモリがこのパソコンで使えるようになっているかどうか確認します。

アドバンストモデルの場合、増設RAMボードの取り付けや取り外しをおこなうと、インスタント機能が正常に動作しない場合があります。増設RAMボードの取り付けや取り外しをおこなった場合は、そのままの状態でインスタント機能を再セットアップしてください。インスタント機能の再セットアップについて詳しくは、173ページをご覧ください。

メモリを確認する

お使いのモデルのメモリ容量は次の方法で確認できます。

1 デスクトップの（困ったときのサポートナビゲーター）をダブルクリック

パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」が表示されます。

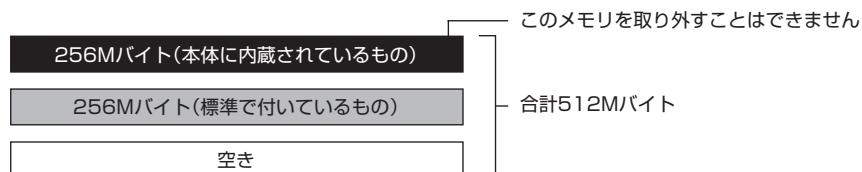
2 パソコンの情報 をクリック

メモリ容量が表示されます。

メモリ容量は実際より数Mバイト少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。

メモリの増やし方の例

アドバンストタイプ

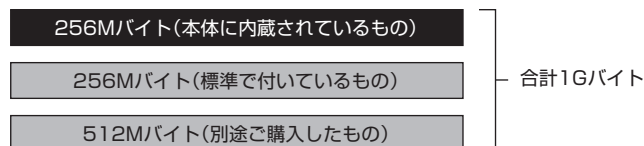
アドバンストタイプには、本体内部に256Mバイトのメモリが内蔵されていて、さらに増設RAMボード（SO-DIMM：エスオーディム）を差し込むスロット(コネクタ)が、2つ用意されています。アドバンストタイプは、デュアルチャネルのメモリアクセスに対応しており、同容量のRAMボードが2枚取り付けられていると、より高速な動作が可能です。
ここでは、標準で本体内部に256Mバイト、スロットに256Mバイトの合計512Mバイトのメモリが付いている場合を例にメモリの増やし方を説明します。

このメモリを取り外すことはできません

メモリ	
256Mバイト(本体に内蔵されているもの)	合計512Mバイト
256Mバイト(標準で付いているもの)	
空き	

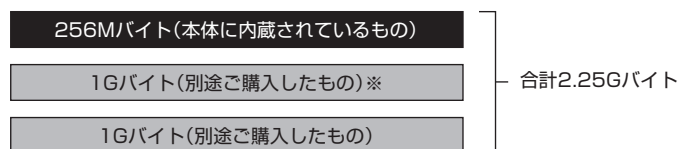
※標準で付いているメモリの数は、モデルによって異なります。

空いている残りの1スロットに、増設RAMボードを追加することで、メモリを増やします。また、標準で付いているRAMボードを取り外して、より大きな容量の増設RAMボードに取り替えることもできます。メモリは、最大で2.25Gバイト（内蔵されている256Mバイト＋1Gバイトの増設RAMボード×2枚）まで増やすことができます。

●例1：1Gバイトにする場合
512Mバイトの増設RAMボードを1枚追加します。

メモリ	
256Mバイト(本体に内蔵されているもの)	合計1Gバイト
256Mバイト(標準で付いているもの)	
512Mバイト(別途ご購入したもの)	

●例２：2.25G バイト（最大）にする場合

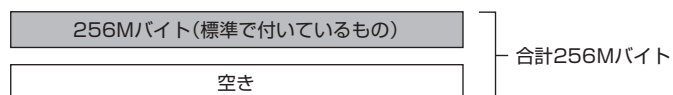
標準で付いているRAMボードを取り外し、1Gバイトの増設RAMボードを２枚取り付けます。

256Mバイト(本体に内蔵されているもの)	合計2.25Gバイト
1Gバイト(別途ご購入したもの)※	
1Gバイト(別途ご購入したもの)	

※標準で付いているRAMボードは外す

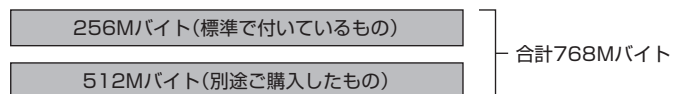
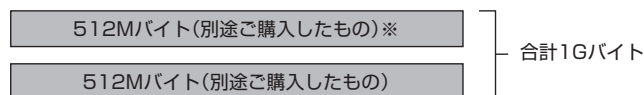
デュアルチャネルとは、同容量/同タイプの２枚のRAMボードに同時にアクセスすることで、メモリのデータ転送性能を約２倍に高速化する技術のことです。

実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より少ない値になります。

ベーシックタイプ

ベーシックタイプには、増設RAMボード（SO-DIMM：エスオーディム）を差し込むスロット(コネクタ)が、2つ用意されています。
ここでは、標準で256MバイトのRAMボードが付いている場合を例にメモリの増やし方を説明します。

※標準で付いているメモリの数は、モデルによって異なります。

空いている残りの1スロットに、増設RAMボードを追加することで、メモリを増やします。また、標準で付いているRAMボードを取り外して、より大きな容量の増設RAMボードに取り替えることもできます。メモリは、最大で1Gバイト（512Mバイトの増設RAMボード×2枚）まで増やすことができます。

● 例1：768Mバイトにする場合
512Mバイトの増設RAMボードを1枚追加します。

● 例2：1Gバイト（最大）にする場合
標準で付いているRAMボードを取り外し、512Mバイトの増設RAMボードを2枚取り付けます。

※標準で付いているRAMボードは外す

実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より少ない値になります。

このパソコンで使える増設RAMボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設RAMボード」というボードを使います。このパソコンでは、次の増設RAMボードを使うことをおすすめします。

● アドバンストタイプの場合

型名	メモリ容量
PK-UG-ME032	256Mバイト
PK-UG-ME033	512Mバイト
PK-UG-ME034	1Gバイト

(DDR SDRAM/SO-DIMM、PC2700タイプ)

● ベーシックタイプの場合

型名	メモリ容量
PK-UG-ME032	256Mバイト
PK-UG-ME033	512Mバイト

(DDR SDRAM/SO-DIMM、PC2700タイプ)

・このパソコンでは、「SIMM(シム)」やDDRが付かない「SDRAM/SO-DIMM」というタイプの増設RAMボード(メモリ)は使用できません。間違ってご購入しないように注意してください。

・市販の増設RAMボードに関する動作保証やサポートはNECではおこなっていません。販売元にお問い合わせください。

増設RAMボードを取り扱うときの注意

・増設RAMボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因になります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。

・増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因になります。

・ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

増設RAMボードの取り付けと取り外し

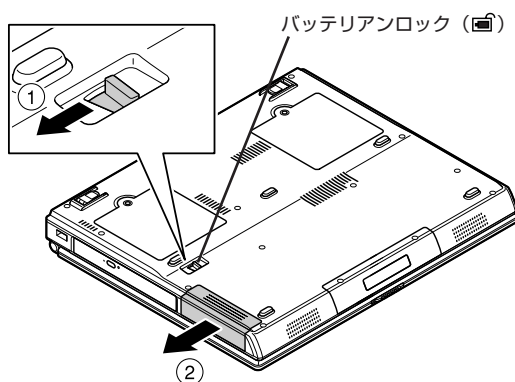
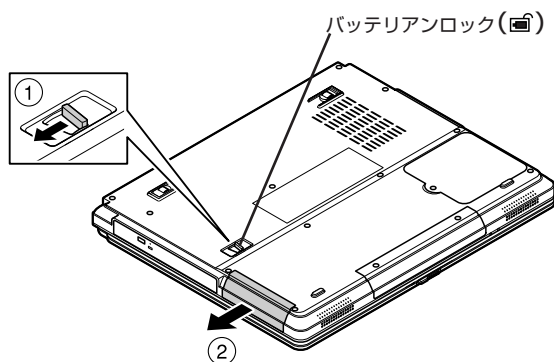
増設 RAM ボードの取り付け方

1 パソコンの電源を切る

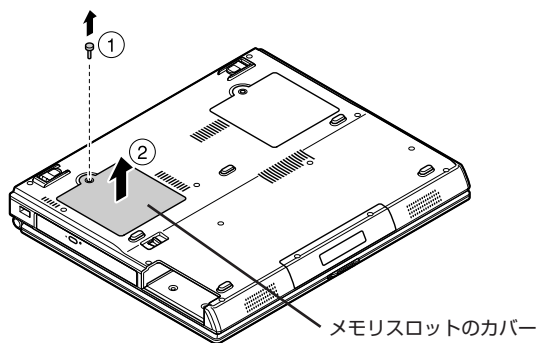
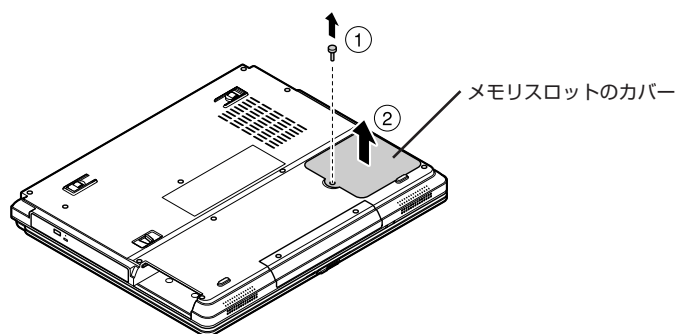
2 電源コードのプラグをコンセントから抜いて、AC アダプタをパソコンから取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す

4 バッテリパックの横にあるバッテリアンロック（🔓）を矢印の方向にずらしたまま、バッテリパックを矢印の方向へスライドさせ、取り外す

● アドバンストタイプの場合

● ベーシックタイプの場合

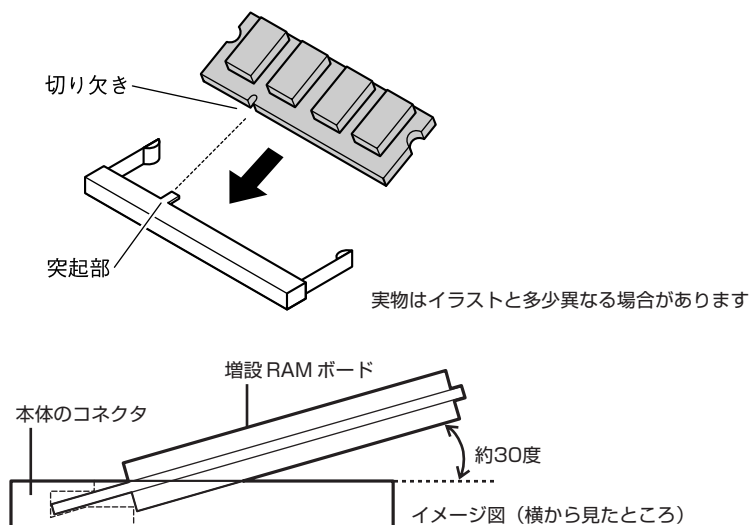
5 **図のネジをプラスドライバーでゆるめて外し、メモリスロットのカバーを取り外す**

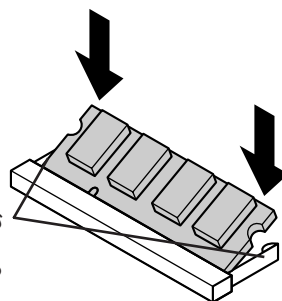
● アドバンストタイプの場合

● ベーシックタイプの場合

6 増設RAMボードの切り欠き部分とコネクタの突起部を合わせ、コネクタに対して約30度の角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで差し込む

増設RAMボードが奥まで入っている場合は、端子部分（金色）のほとんどが、本体のコネクタに差し込まれた状態になります。

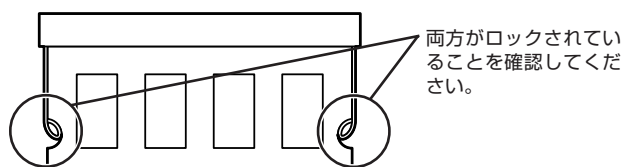
増設RAMボードの表と裏が間違っている場合、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部の位置が合わず、差し込むことができません。間違った向きのままで無理に取り付けようとすると、パソコンのコネクタ部や増設RAMボードが破損する原因になりますので注意してください。

実物はイラストと多少異なる場合があります

イメージ図（横から見たところ）

差し込むときに、コネクタが固いことがありますが、奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順をおこなうと、コネクタを破損するおそれがあります。

7 カチッと音がする位置まで増設RAMボードをコネクタに強く倒し込む

8 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認する

正しくロックされている場合は、増設RAMボードが水平で、端子の金色の部分が少し（1mm程度）見える状態です。

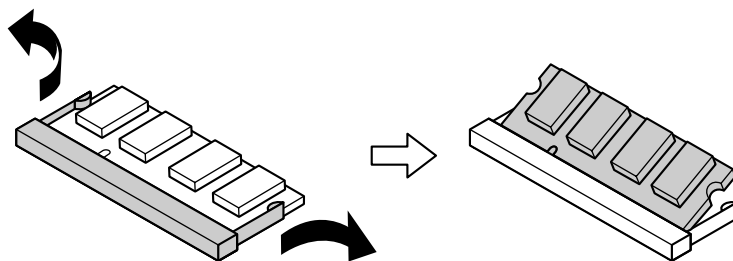
確実にロックされていないと、本体のコネクタ部や増設RAMボードの故障の原因になります。また、パソコンが正しくメモリを認識できないこともあります。

9 メモリスロットのカバーをもとに戻し、ネジでカバーを本体底面に取り付ける

10 バッテリパックとACアダプタを取り付ける

増設RAMボードの取り外し方

1 「増設RAMボードを取り付ける」の手順1～5をおこない、メモリスロットのカバーを取り外す

2 メモリスロットのコネクタの両端部分を左右に押し広げる

増設RAMボードが図のように起き上がります。

3 起き上がった増設RAMボードをそのまま斜めに引き抜く

4 メモリスロットのカバーをもとに戻し、外したネジでカバーを本体底面に取り付ける

5 バッテリパックとACアダプタを取り付ける

増やしたメモリ容量を確認する

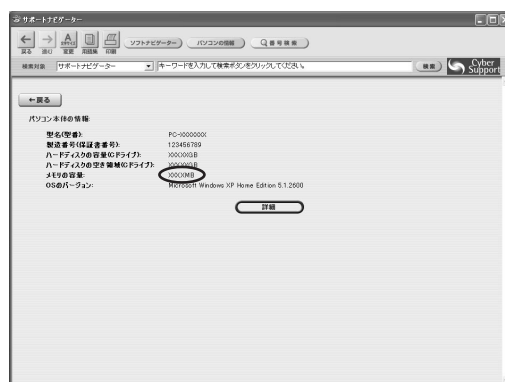
パソコンの電源を入れてみて、増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

1 **デスクトップの（困ったときのサポートナビゲーター）をダブルクリック**

「サポートナビゲーター」が表示されます。

2 **パソコンの情報 をクリック**

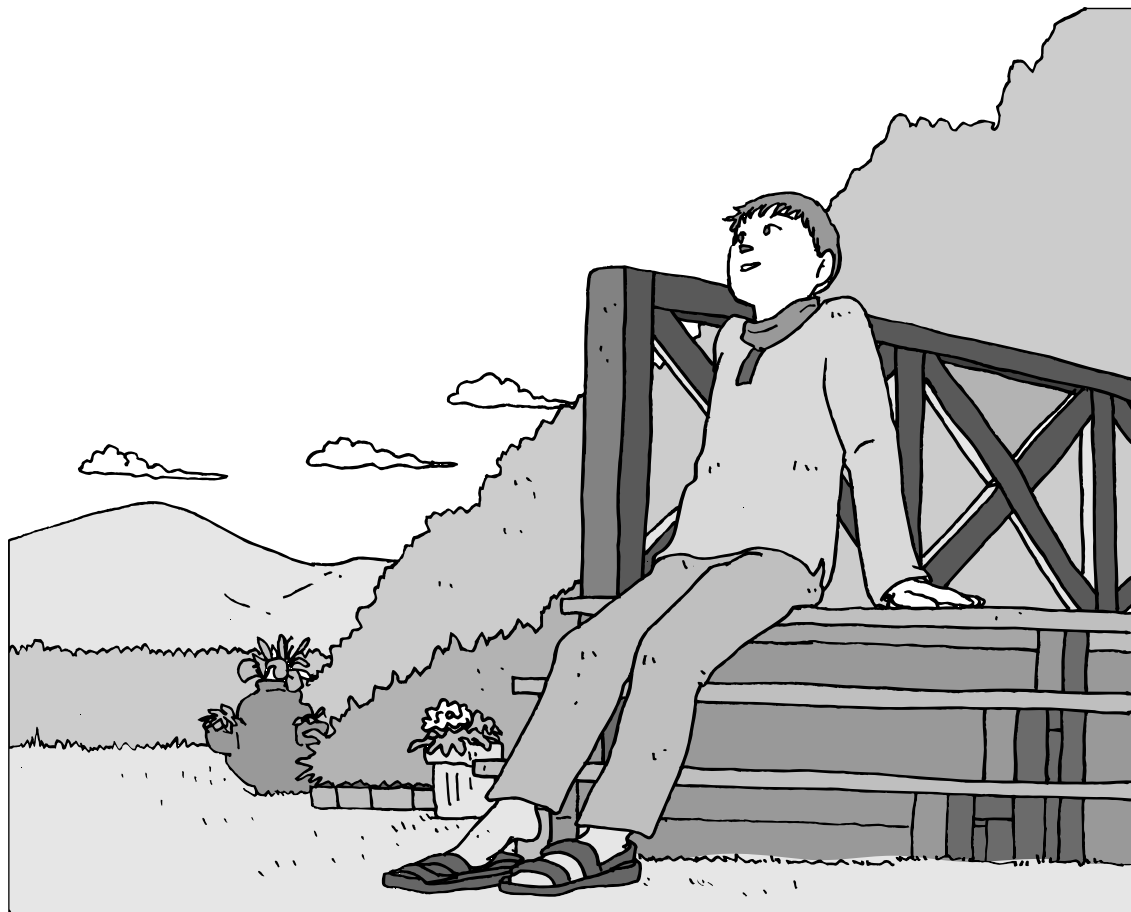
3 **メモリ容量を確認する**

増やした後の全メモリ容量（標準で入っている容量＋増設した容量）が表示されているのを確認してください。

- **ここでは、増やした後の全メモリ容量より数Mバイト少なく表示される場合がありますが故障ではありません。**
- **メモリを増設した場合、初期化のため、電源を入れてからディスプレイの画面が表示されるまで時間がかかることがあります。**

メモリが増えていなかったら

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

- **メモリが正しく取り付けられているか？**
- **このパソコンで使える増設RAMボードを取り付けているか？**

付　録

パソコンのお手入れ 200

バッテリリフレッシュについて 202

DVD/CDドライブからディスクが
取り出せなくなったときは 204

ケーブルにF型コネクタプラグを取り付ける ... 205

アフターケアについて 207

パソコンの譲渡、廃棄、改造について 208

仕様一覧 212

索引 225

各部の名称 .... 巻末

パソコンのお手入れ

パソコンが汚れたときなど、日常のお手入れのしかたを説明します。

水やぬるま湯は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。

準備するもの

軽い汚れのとき

乾いたきれいな布

汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませて、よくしぼった布

シンナーやベンジンなど、揮発性の有機溶剤は使わないでください。これらの有機溶剤を含む化学ぞうきんも使わないでください。キーボードなどを傷め、故障の原因になります。

こんなものもあると便利

- OA 用クリーニングキット
  OA用クリーニングキットについては、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。
- 中性洗剤
- 掃除機など

パソコンの電源を切って、電源コードを抜いてから

お手入れの前には、必ずパソコン本体や周辺機器の電源を切ってください。電源コードはコンセントから抜いてください。電源を切らずにお手入れを始めると、感電することがあります。

パソコン各部の清掃のしかた

液晶ディスプレイ
やわらかい素材の乾いたきれいな布でふいてください。
化学ぞうきんやぬらした布は使わないでください。

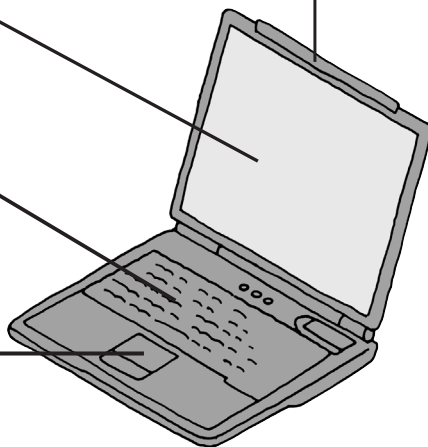
パソコン本体
やわらかい布でふいてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

キーボード
やわらかい布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。
キーのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。
ゴミが取れないときは、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

NXパッド
やわらかい布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

リモコン（添付モデルのみ）
やわらかい布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。
ボタンのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

電源コード／ACアダプタ
電源コードのプラグを長期間コンセントに接続したままにすると、プラグにホコリがたまることがあります。
定期的にやわらかい布でふいて、清掃してください。

マウス（添付モデルのみ）
やわらかい布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

※イラストはイメージ図です。

バッテリリフレッシュについて

バッテリの機能を回復するバッテリリフレッシュについて説明します。バッテリについて詳しくは、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「バッテリ」をご覧ください。

バッテリは、使い続けていくうちに、フル充電してもバッテリの電源のみでパソコンを使用できる時間が以前よりも短くなっていきます。このようなときは、バッテリリフレッシュをおこなうことでバッテリの性能を回復できます。
バッテリリフレッシュをおこなうのは、次のようなときです。
・バッテリの電源のみでパソコンを使用できる時間が、以前よりも短くなったとき
・ご購入直後や長期間放置した後で、バッテリの性能が一時的に低下しているとき
・バッテリの残量表示に誤差が生じているとき

バッテリリフレッシュは数時間かかります。時間に余裕のあるときにおこなってください。

バッテリリフレッシュをおこなう

1　パソコンの電源を切る

2　バッテリリフレッシュをおこないたいバッテリパックをパソコンに取り付ける

取り付けられているバッテリをバッテリリフレッシュする場合は、そのまま手順3に進みます。バッテリの取り付け方については14ページをご覧ください。

3　パソコンにACアダプタを接続し、電源コードをコンセントに差し込む

バッテリ充電ランプ（　）が点滅している場合は、一度ACアダプタを取り外し、バッテリパックを取り付けなおしてください。

4　バッテリをフル充電する

バッテリがフル充電されると、バッテリ充電ランプが消灯します。

5　パソコンの電源を入れ、「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。

BIOSセットアップユーティリティが表示されないときは、電源を入れなおして、【F2】を押す間隔を変えてください。

6　電源コードのプラグをコンセントから抜き、ACアダプタをパソコンから取り外す

7 【→】を押して「終了」を選び、【↓】を押して「バッテリリフレッシュ」を選んでから【Enter】を押す

バッテリリフレッシュが始まります。

バッテリリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。また、バッテリリフレッシュ中はACアダプタを接続しないでください。

バッテリリフレッシュが完了すると、自動的にパソコンの電源が切れます。
電源が切れたら、ACアダプタと電源コードを接続してバッテリをフル充電してください。

バッテリリフレッシュを中断する

バッテリリフレッシュを中断するときは、電源スイッチを約４秒以上押し続けてください。バッテリリフレッシュが中断されて、パソコンの電源が切れます。

バッテリリフレッシュ中に、【Esc】を押したり、ACアダプタを接続したりすると、バッテリリフレッシュの中断を確認するメッセージが表示されます。このとき、ACアダプタを接続している場合はACアダプタを取り外した後、【↑】または【↓】を押して「Continue Battery Refresh」を選んで【Enter】を押してください。バッテリリフレッシュが続行されます。

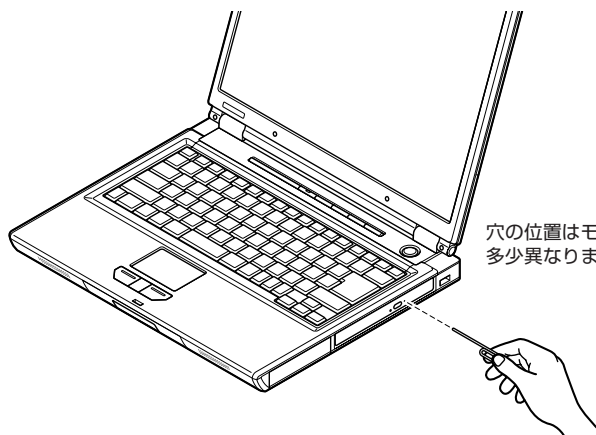
DVD/CDドライブからディスクが取り出せなくなったときは

DVD/CD ドライブからディスクが取り出せなくなったときの取り出し方を説明します。

パソコンの電源が入っていないと、DVD/CDドライブのイジェクトボタンを押してもディスクは出てきません。
パソコンの電源が入っているにもかかわらず、ディスクトレイが出てこなくなった場合は、ソフトの異常な操作などでディスクが取り出せなくなっていることが考えられます。次の操作でディスクを取り出してください。

1 太さが 1.3mm 程度、まっすぐな部分の長さが 45mm 程度（指でつまむ部分を除く）の針金を用意する

大きめのペーパークリップを伸ばして作ることができます。

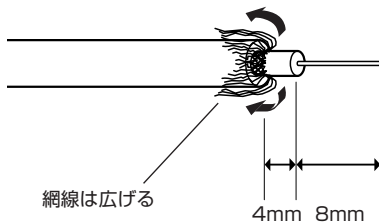
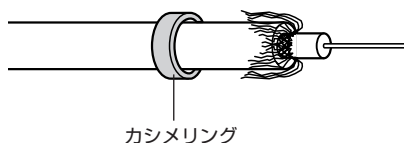
2 非常時ディスク取り出し穴に、手順 1 で作った針金を差し込み、強く押し込む

ディスクトレイが少し飛び出します。

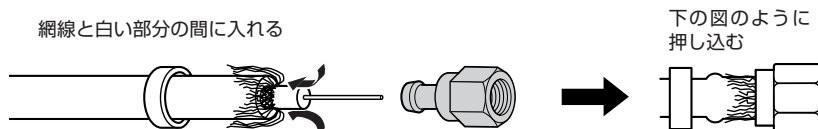
3 ディスクトレイを手前に引き出し、ディスクを取り出す

ケーブルにF型コネクタプラグを取り付ける

パソコンとアンテナ線を接続するとき、アンテナ線が1本（UHFのみまたはVHFのみか、UHF/VHF混合のとき）または、アンテナ線が2本（UHFとVHF）のときには、ケーブルに市販のF型コネクタプラグを取り付ける必要があります。

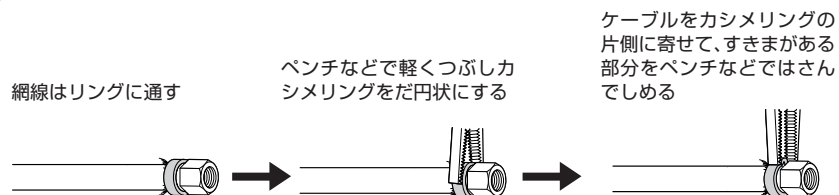
- あらかじめ、市販のF型コネクタプラグと、お手持ちのカッター、ペンチを用意してください。
  F型コネクタプラグは、ケーブルの太さに合ったものをお買い求めください。
- 網線の端を少し切っておくと、後でケーブルにカシメリングを通す際に作業しやすくなります。
- 金属線は折れやすいので、カッターで傷つけたり、曲げないように注意してください。
- カシメリングは、F型コネクタプラグが抜けないようしめるためのものです。

1 アンテナ線の先を持ち、カッターを使って、およそ次のような寸法にケーブルを加工する

2 カシメリングをケーブルに通す

3 F型コネクタプラグを図のようにケーブルに押し込む

網線と白い部分の間に入れる

4 カシメリングをＦ型コネクタプラグの付け根に固定する

網線はリングに通す

ペンチなどで軽くつぶしカシメリングをだ円状にする

ケーブルをカシメリングの片側に寄せて、すきまがある部分をペンチなどではさんでしめる

5 カシメリングからはみ出した網線を、カッターなどで切り取る

アフターケアについて

このパソコンに対する保守サービスや、消耗品・有寿命部品の内容について説明します。

保守サービスについて

保守サービスについては、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。詳しくは、添付の『121wareガイドブック』をご覧ください。

NEC 121コンタクトセンターなどにこのパソコンの修理を依頼する場合は、設定したパスワードを解除しておいてください。

消耗品と有寿命部品について

このパソコンには、消耗品と有寿命部品が含まれています。安定してご使用いただくためには、定期的な保守による部品交換が必要になります。特に長期間連続して使用する場合には、安全などの観点から早期の部品交換が必要です。

種類	内容説明	該当品または部品（代表例）
消耗品	使用頻度や使用量により消耗の進行が異なります。お客様ご自身でご購入いただき、交換していただくものです。本体の保証期間内であっても有償になります。	フロッピーディスク、CD-ROMディスク、DVD-ROMディスク、バッテリ、乾電池など
有寿命部品	使用頻度や経過時間、使用環境によって摩耗、劣化の進行に大きな差が生じ、修理による再生ができなくなる部品です。本体の保証期間内であっても部品代は有償になる場合があります。詳しくはNEC 121コンタクトセンターの故障診断・修理受付窓口にご相談ください。	液晶ディスプレイ、ハードディスクドライブ、DVD/CDドライブ、キーボード、マウス、ファン、NXパッド

- **記載部品は代表例です。機種により構成部品が異なります。詳しくは「仕様一覧」をご覧ください。**
- **有寿命部品の交換時期の目安は、1日8時間のご使用で1年365日として約5年です。上記期間はあくまでも目安であり、上記期間中に故障しないことや無償修理をお約束するものではありません。**
  また、長時間連続使用等のご使用状態や、温湿度条件等のご使用環境によっては早期に部品交換が必要となり、製品の保証期間内であっても有償となることがあります。
- **本製品の補修用性能部品の最低保有期間は、PC本体、オプション製品については製造打切後6年です。**

パソコンの譲渡、廃棄、改造について

パソコンを他人に譲るとき、廃棄のときの注意事項を説明します。また、パソコンの改造はおこなわないでください。

このパソコンを譲渡するには

パソコン内のハードディスクには個人的に作成した情報が多く含まれています。第三者に情報が漏れないように、譲渡の際にはこれらの情報を削除することをおすすめします。このパソコンのハードディスクのデータを消去する方法については、「再セットアップ用DVD/CD-ROMを使って再セットアップする」（182ページ）をご覧ください。

譲渡するお客様へ

このパソコンを第三者に譲渡（売却）する場合は、次の条件を満たす必要があります。

1. 本体に添付されているすべてのものを譲渡し、複製物を一切保持しないこと。
2. 各ソフトウェアに添付されている「ソフトウェアのご使用条件」の譲渡、移転に関する条件を満たすこと。
3. 譲渡、移転が認められていないソフトウェアについては、削除した後譲渡すること（本体に添付されている「ソフトウェア使用条件適用一覧」をご覧ください）。

※ 第三者に譲渡（売却）する製品をお客様登録している場合は、121ware.comのマイアカウント(http://121ware.com/my/)の保有商品情報で削除いただくか、または Eメール webmaster@121ware.com 宛にご連絡ください。

譲渡を受けたお客様へ

NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」での登録をお願いします。

http://121ware.com/my/　にアクセス

● はじめて登録するかた

「新規登録はこちら」をクリックして登録

● 以前ハガキ、オンライン、FAXなどで登録されたかた

「インターネット以外の方法でご登録済みの方はこちら」をクリックして登録

● すでにログインIDをお持ちのかた

「ログイン」をクリックして、ログイン後、保有商品情報の「新規・追加登録」で登録

インターネットに接続できないかたは、お客様登録に必要な次の事項を記入し、下記宛先に郵送してください。

1. 本体型番、型名のいずれかと保証書番号

（本体背面／底部または保証書に記載の型番／型名のいずれかと製造番号）

2. 氏名、住所、電話番号、Eメールアドレス、中古購入された場合はそのご購入先、ご購入日

3. 121ware お客様登録番号

（以前登録されてすでに「121wareお客様登録番号」をお持ちのかたは、記入をお願いします。）

宛先

〒 143-8691　東京都大森郵便局 私書箱５号

NEC121ware 登録センター係

このパソコンを廃棄するには

本製品は「資源有効利用促進法」に基づく回収再資源化対応製品です。PCリサイクルマークが銘板（パソコン本体の底面にある型番、製造番号が記載されたラベル）に表示されている、またはPCリサイクルマークのシールが貼り付けられている弊社製品は、弊社が責任を持って回収、再資源化いたします。

当該製品をご家庭から排出する際、弊社規約に基づく回収・再資源化にご協力いただける場合は、別途回収再資源化料金をご負担いただく必要はありません。

廃棄時の詳細については、NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」（URL：http://121ware.com/support/recyclesel/）をご覧ください。

なお、下記の窓口でも廃棄についてお問い合わせいただけます。

NEC 121 コンタクトセンター

廃棄のお問い合わせ　受付時間：9:00 ～ 17:00（年中無休）

フリーコール 0120-977-121

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

携帯電話、PHSなどフリーコールをご利用いただけないお客様は下記電話番号へおかけください。

03-6670-6000（東京）（通話料金はお客様負担になります）

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

当該製品が事業者から排出される場合（産業廃棄物として廃棄される場合）、当社は資源有効利用促進法に基づき、当社の回収・リサイクルシステムにしたがって積極的に資源の有効利用につとめています。廃棄時の詳細については、下記のホームページで紹介している窓口にお問い合わせください。

URL：http://www.nec.co.jp/eco/ja/products/3r/shigen_menu.html

※本文に記載された電話番号や受付時間などは、将来予告なしに変更することがあります。

ハードディスク、メモリーカード上のデータ消去に関するご注意

本内容は「パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」の趣旨に添った内容で記載しています。詳細は以下のホームページをご覧ください。
http://it.jeita.or.jp/perinfo/release/020411.html

パソコンのハードディスクやメモリーカードには、お客様が作成、使用した重要なデータが記録されています。このパソコンを譲渡または廃棄するときに、これらの重要なデータ内容を消去することが必要になります。「データやファイルの消去」、「ハードディスクの初期化（フォーマット）」、「メモリーカードの初期化（フォーマット）」、「パソコンの再セットアップ」などの操作をおこなうと、記録されたデータの管理情報が変更されるためにWindowsでデータを探すことはできなくなりますが、ハードディスクやメモリーカードに磁気的に記録された内容が完全に消えるわけではありません。

「パソコンの再セットアップ」でデータが消去されるのは、このパソコンに内蔵されたハードディスクのみです。

このため、データ回復用の特殊なソフトウェアを利用すると、ハードディスクやメモリーカードから消去されたはずのデータを読み取ることが可能な場合があり、悪意のある人によって予期しない用途に利用されるおそれがあります。

お客様が廃棄・譲渡などをおこなう際に、ハードディスクおよびメモリーカード上の重要なデータの流出トラブルを回避するために、記録された全データをお客様の責任において完全に消去することが非常に重要です。データを消去するためには、専用ソフトウェアまたはサービス（ともに有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊（メモリーカードの場合は、金槌による物理的破壊のみ）して、読めなくすることを推奨します。有償のデータ消去サービスは、NEC フィールディング株式会社にご依頼ください。

NEC フィールディングホームページ URL：http://www.fielding.co.jp

また、ハードディスクやメモリーカード上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなく譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。十分な確認をおこなってください。

パソコンの改造はおこなわない

添付されているマニュアルに記載されている以外の方法で、このパソコンを改造・修理しないでください。記載されている以外の方法で改造・修理された製品は、当社の保証や保守サービスの対象外になることがあります。

仕様一覧

本体仕様一覧

LL970/DD、LL900/DD、LL770/DD、LL750/DD

<table>
<tr><td colspan="3">型名</td><td>LL970/DD</td><td>LL900/DD</td><td>LL770/DD</td><td>LL750/DD</td></tr>
<tr><td colspan="3">型番</td><td>PC-LL970DD</td><td>PC-LL900DD</td><td>PC-LL770DD</td><td>PC-LL750DD</td></tr>
<tr><td colspan="3">インストールOS・サポートOS</td><td colspan="4">Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system
日本語版 Service Pack 2※1</td></tr>
<tr><td colspan="3">CPU</td><td colspan="2">インテル® Pentium® M プロセッサ 740 (1.73GHz)
(拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジ搭載※2)</td><td colspan="2">インテル® Celeron® M プロセッサ 360J
(1.40GHz)</td></tr>
<tr><td></td><td>キャッシュメモリ</td><td>1次</td><td colspan="4">インストラクション用32KB/データ用32KB</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>2次</td><td colspan="2">2,048KB</td><td colspan="2">1,024KB</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">クロック周波数</td><td colspan="2">1.73GHz</td><td colspan="2">1.40GHz</td></tr>
<tr><td>バスクロック</td><td colspan="2">システムバス</td><td colspan="2">533MHz</td><td colspan="2">400MHz</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">メモリバス</td><td colspan="4">333MHz</td></tr>
<tr><td colspan="3">チップセット</td><td colspan="4">ATI社製 RADEON® XPRESS 200M / IXP 400</td></tr>
<tr><td>メインメモリ
※3</td><td colspan="2">標準容量/最大容量※4</td><td colspan="2">768MB※5(DDR SDRAM/On Board 256MB、PC2700対応、デュアルチャネル対応 + DDR SDRAM/SO-DIMM 256MB×2、PC2700対応、デュアルチャネル対応)/2.25GB※7※8</td><td colspan="2">512MB※5※6(DDR SDRAM/On Board 256MB、PC2700対応、デュアルチャネル対応 + DDR SDRAM/SO-DIMM 256MB、PC2700対応)/2.25GB※7※8</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">スロット数</td><td colspan="2">2スロット[空き0]</td><td colspan="2">2スロット[空き1]</td></tr>
<tr><td>表示機能</td><td colspan="2">内蔵ディスプレイ</td><td colspan="4">15型高輝度・広色度域・広視野角TFTカラー液晶(スーパーシャインビューEX2液晶)
[XGA(最大1,024×768ドット表示)]</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">グラフィックアクセラレータ</td><td colspan="4">ATI社製 RADEON® XPRESS 200Mに内蔵</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">ビデオRAM</td><td colspan="4">標準32MB(BIOS Setup Menuにて64MB/128MB選択可)※5</td></tr>
<tr><td></td><td>表示色(解像度)
※9※10</td><td>内蔵ディスプレイ</td><td colspan="4">最大1,677万色※13
(1,920×1,440ドット、1,600×1,200ドット、1,280×1,024ドット、1,024×768ドット、800×600ドット)</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>別売の外付けディスプレイ接続時
※11※12</td><td colspan="4">最大1,677万色
(1,920×1,440ドット、1,600×1,200ドット、1,280×1,024ドット、1,024×768ドット、800×600ドット)</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">LCDドット抜け割合</td><td colspan="4">0.00034%以下</td></tr>
<tr><td>ドライブ</td><td colspan="2">ハードディスクドライブ※14</td><td colspan="4">約100GB※15(Ultra ATA-100)</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">DVD/CDドライブ(詳細はp.214の別表をご覧ください)※16</td><td colspan="4">DVDスーパーマルチドライブ(DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW)内蔵
(バッファアンダーランエラー防止機能付き)[DVD-R/+R 2層書込み]</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">フロッピーディスクドライブ</td><td>-【別売、専用オプション(型番:PC-VP-WU14)※17】</td><td>3.5型内蔵※18</td><td>-【別売、専用オプション(型番:PC-VP-WU14)※17】</td><td>3.5型内蔵※18</td></tr>
<tr><td colspan="3">インスタント機能※19</td><td>TV視聴・録画※20・予約※21/DVD※22・CD再生※23/ハードディスク内のファイル再生※24</td><td>DVD※22・CD再生※23/ハードディスク内のファイル再生※24</td><td>TV視聴・録画※20・予約※21/DVD※22・CD再生※23/ハードディスク内のファイル再生※24</td><td>DVD※22・CD再生※23/ハードディスク内のファイル再生※24</td></tr>
<tr><td>サウンド機能</td><td colspan="2">スピーカ</td><td colspan="4">内蔵ステレオスピーカ(1.5W + 1.5W)</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">音源/サラウンド機能</td><td colspan="4">PCM録音再生機能(ステレオ/モノラル、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8-48KHz、全二重化対応)、MIDI音源機能(ソフトウェアMIDI<GM、GS演奏モード対応、DLS2対応※25>)、マイクノイズ除去機能、3Dポジショナルサウンド</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">サウンドチップ</td><td colspan="4">ADI社製 AD1981B搭載</td></tr>
<tr><td>通信機能</td><td colspan="2">LAN</td><td colspan="4">100BASE-TX/10BASE-T対応</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">ワイヤレスLAN</td><td colspan="4">トリプルワイヤレスLAN(Super AG™、XR™) 本体内蔵※26※27(IEEE802.11a/b/g準拠)</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">FAXモデム※28</td><td colspan="4">データ通信:最大56Kbps※29(V.90対応)/FAX通信:最大14.4Kbps(V.17)</td></tr>
<tr><td colspan="3">TV機能(詳細はp.220をご覧ください)</td><td>ハードウェアMPEG2リアルタイムエンコーダ</td><td>–</td><td>ハードウェアMPEG2リアルタイムエンコーダ</td><td>–</td></tr>
<tr><td>入力装置</td><td colspan="2">キーボード</td><td colspan="4">本体一体型(キーピッチ19mm※30、キーストローク3.0mm)、JIS標準配列(87キー)、右コントロールキー付き [一枚メンブレン方式]</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">マウス</td><td colspan="4">光センサーUSBマウス(リアルシルバー、スクロール機能付き)</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">リモコン</td><td>赤外線リモコン標準添付
※31※32</td><td>–</td><td>赤外線リモコン標準添付
※31※32</td><td>–</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">ポインティングデバイス</td><td colspan="4">スクロール機能付きNXパッド標準装備</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">ボタン</td><td>TVボタン、DVD/CDボタン、DVD/CDコントロールボタン搭載</td><td>DVD/CDボタン、DVD/CDコントロールボタン搭載</td><td>TVボタン、DVD/CDボタン、DVD/CDコントロールボタン搭載</td><td>DVD/CDボタン、DVD/CDコントロールボタン搭載</td></tr>
</table>

型名			LL970/DD	LL900/DD	LL770/DD	LL750/DD
外部インターフェイス	USB		コネクタ4ピン×5[USB2.0×5]			
	IEEE1394(DV)		4ピン×1			
	ディスプレイ(アナログ)		ミニD-sub15ピン×1			
	FAXモデム		RJ11モジュラコネクタ×1			
	LAN		RJ45コネクタ×1			
	パラレル		D-sub25ピン×1			
	サウンド関連インターフェイス	ライン出力	ヘッドフォン出力と共用(ライン出力レベル　1Vrms)			
		マイク入力	ステレオミニジャック×1(マイク入力インピーダンス 20kΩ、入力レベル 5mVrms、バイアス電圧 3.7V)			
		ヘッドフォン出力	ステレオミニジャック×1(ヘッドフォン出力インピーダンス　16Ω-100Ω「推奨32Ω」、出力電力　5mW/32Ω)			
	映像関連インターフェイス	ビデオ出力(TV-OUT)※12	Sビデオ出力端子×1			
	PCカード		ExpressCard/54×1(ExpressCard/34×1としても使用可)、ExpressCard™ Standard Release 1.0準拠 Type Ⅱ×1、PC Card Standard準拠			
	メモリーカードスロット		トリプルメモリースロット×1※33[SDメモリーカード、メモリースティック(メモリースティック PRO)、xD-ピクチャーカード]			
バッテリ駆動時間※34※35	標準		約2.3時間	約2.5時間	約0.9時間	約1.0時間
	最大(オプションバッテリ装着時)		—		約1.7時間	約1.8時間
バッテリ充電時間※34※36	標準		約2.8時間		約2.3時間	
	最大(オプションバッテリ装着時)		—		約2.8時間	
バッテリ充電時間(電源ON時／OFF時)※34	標準		約6.5時間／約2.8時間		約3.0時間／約2.3時間	約2.8時間／約2.3時間
	最大(オプションバッテリ装着時)		—		約6.5時間／約2.8時間	
電源※32			リチウムイオンバッテリまたはAC100〜240V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由)※37		ニッケル水素バッテリまたはAC100〜240V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由)※37	
消費電力	標準／最大		約46／約60W	約45／約60W	約44／約60W	約43／約60W
エネルギー消費効率(省エネ基準達成率)※38			S区分 0.00018(AAA)	S区分 0.00016(AAA)	S区分 0.00025(AAA)	S区分 0.00022(AAA)
電波障害対策			VCCI ClassB			
温湿度条件			5〜35℃、20〜80%(ただし結露しないこと)			
外形寸法	本体(突起部除く)		333(W)×277(D)×41.3(H)mm			
	バッテリ		約151.5(W)×80.7(D)×22.6(H)mm			
	ACアダプタ		約110(W)×50(D)×28(H)mm または、約114.5(W)×49.5(D)×28.5(H)mm			
	リモコン		52(W)×225(D)×25(H)mm	—	52(W)×225(D)×25(H)mm	—
質量	本体(標準バッテリパック含む)／マウス／リモコン		約3.7kg／約100g／約127g※39	約3.7kg／約100g／—	約3.8kg／約100g／約127g※39	約3.8kg／約100g／—
	バッテリ		約440g			
	ACアダプタ※40		約270g			
主な添付品			ACアダプタ、マニュアル、電話回線ケーブル、光センサーUSBマウス(リアルシルバー)、TVアンテナ変換ケーブル、リモコン、乾電池(単三アルカリ:2本)	ACアダプタ、マニュアル、電話回線ケーブル、光センサーUSBマウス(リアルシルバー)	ACアダプタ、マニュアル、電話回線ケーブル、光センサーUSBマウス(リアルシルバー)、TVアンテナ変換ケーブル、リモコン、乾電池(単三アルカリ:2本)	ACアダプタ、マニュアル、電話回線ケーブル、光センサーUSBマウス(リアルシルバー)

DVD/CD ドライブ仕様一覧

シリーズ	LaVie L(LL970/DD、LL900/DD、LL770/DD、LL750/DD)
ドライブ	DVDスーパーマルチドライブ(DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW) [DVD-R/+R 2層書込み]※16
DVD-RAM読出し※41	最大5倍速
DVD-RAM書換え※41※42	最大5倍速
DVD+R (1層)書込み	最大8倍速
DVD+R (2層)書込み※43	最大2.4倍速
DVD+RW書換え※44	最大4倍速
DVD-R(1層)書込み※45	最大8倍速
DVD-R(2層)書込み※46	最大2倍速
DVD-RW書換え※47	最大4倍速
DVD読出し	最大8倍速
CD読出し	最大24倍速
CD-R書込み	最大24倍速
CD-RW書換え※48	最大10倍速

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

※　1：添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。Windows® XP Home Editionでは、ネットワークでドメインに参加する機能はありません。別売のWindows® XP Home Editionパッケージや Windows® XP Professionalパッケージをインストールおよび利用することはできません。

※　2：電源の種類（AC電源、バッテリ）やシステム負荷に応じて動作性能を切り替える機能です。

※　3：増設メモリは、PK-UG-ME032(256MB、PC2700)、PK-UG-ME033(512MB、PC2700)、PK-UG-ME034(1GB、PC2700)を推奨します。

※　4：他社製の増設メモリの装着は、動作を保証するものではありません。他社製品との接続は各メーカにご確認の上、お客様の責任において行ってくださるようお願いいたします。

※　5：ビデオRAMは、メインメモリを使用します。

※　6：メモリスロットに搭載された増設メモリはシングルチャネル動作となりますが、推奨増設メモリを追加することにより、メモリスロットに搭載されたメモリもデュアルチャネルで動作します。ただし、容量が256MBを超える推奨増設メモリを追加した場合、超えた部分に関してはシングルチャネル対応となります。なお、標準実装メモリを外して同容量の推奨増設メモリを2枚実装した場合はすべての容量がデュアルチャネル対応となります。

※　7：最大メモリ容量にする場合、本体に標準実装されているメモリを取り外して、別売の増設メモリ(1GB)を2枚実装する必要があります。

※　8：メモリ容量が1GB以上の場合には、ビデオRAMは128MB固定になります。

※　9：本体液晶ディスプレイより大きい解像度を選択した場合は、バーチャルスクリーン機能により実現します。

※ 10：本体液晶ディスプレイより小さい解像度を選択した場合、拡大表示機能により液晶画面全体に表示します。ただし、拡大表示によって文字や線などの太さが不均一になることがあります。

※ 11：本機のもつ解像度および色数の能力であり、接続するディスプレイ対応解像度、リフレッシュレートによっては表示できない場合があります。本体の液晶ディスプレイと外付けディスプレイの同時表示可能です。ただしLaVie Lシリーズは、拡大表示機能を使用しない状態では、外付けディスプレイ全体には表示されない場合があります。

※ 12：インスタント機能使用時は外付けディスプレイおよびビデオ(TV-OUT)への出力はできません。

※ 13：1,677万色表示は、グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現します。

※ 14：1GBを10億バイトで計算した場合の数値です。

※ 15：Windows®のシステムからは、容量がCドライブ：約74GB、Dドライブ：約6.5GB、残り：再セットアップ用およびインスタント機能用領域として認識されます。

※ 16：12cmCD、8cm音楽CD、DVDのみ使用できます。使用するディスクによっては、一部の書込み／読み出し速度に対応していない場合があります。

※ 17：2モード(720KB/1.44MB)に対応しています(ただし720KBのフォーマットは不可です)。

※ 18：3モード(720KB/1.2MB/1.44MB)に対応しています(1.2MBモードへの対応は、ドライバをセットアップすることで可能となります)。ただし、720KB/1.2MBモードのフォーマットは不可です。

※ 19：Microsoft® XP® Embeddedにより実現しています。

※ 20：インスタント機能で視聴している番組の録画のみ可能です。DVDへの直接録画はできません。

※ 21：番組表の表示、録画の予約/修正/削除が出来ます。予約した番組録画の実行はWindows上で行います。

※ 22：市販のDVDビデオおよびVideoフォーマットで作成されたDVD-R、DVD+R、DVD-VRフォーマットで作成されたDVD-RAM、DVD+VRフォーマットで作成されたDVD+RWのみ再生可能です。ビデオCDには対応しておりません。

※ 23：市販の音楽CDおよびCD-DAフォーマットで作成されたCD-ROM、CD-R/RWのみ再生可能です。CD-EXTRAやCD-TEXTは音楽データのみ再生可能です。

※ 24：再生できるファイルの種類については、「再生可能フォーマット一覧(インスタント機能)」をご覧下さい。

※ 25：DLSは「DownLoadable Sounds」の略です。DLSを使うと、カスタム・サウンド・セットをSoundMAXシンセサイザにロードできます。

※ 26：IEEE802.11a/b/g準拠、WEP（64/128/152bit）対応、WPA-PSK（TKIP/AES）対応、WPA2-PSK（AES）対応。Super AG™ 機能を使用するには、接続先のワイヤレスLAN機器もSuper AG™ に対応している必要があります。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のアプリケーションソフトウェア、OSなどによっても通信速度、通信距離に影響する場合があります。IEEE802.11b/g(2.4GHz)とIEEE802.11a(5GHz)は互換性がありません。IEEE802.11a(5GHz)ワイヤレスLANの使用は、電波法令により屋内に限定されます。Atheros XR™ 機能を使用するには、接続先の無線LAN機器もAtheros XR™ に対応している必要があります。

※ 27： 5GHz帯ワイヤレスLANは、IEEE802.11a準拠(J52/W52/W53)です。J52/W52/W53は社団法人 電子情報技術産業協会による表記です。詳細は http://121ware.com/navigate/support/info/ieee802.html をご参照ください。
※ 28： 回線状態によっては、通信速度が変わる場合があります。また、内蔵 FAX モデムは一般電話回線のみに対応しています。
※ 29： 最大 56Kbps はデータ受信時の理論上の最大速度です。データ送信時は最大 33.6Kbps になります。
※ 30： キーボードのキーの横方向の間隔。キーの中心から隣のキーの中心までの長さ(一部キーピッチが短くなっている部分があります)。
※ 31： リモコンの電池寿命はアルカリ電池で最大約 100 時間、使用可能な距離は約 3m です（ただし、ご使用の環境条件や方法により異なります）。
※ 32： パソコン本体のバッテリ、およびリモコンなどに使用する各種電池は消耗品です。
※ 33： 著作権保護機能には対応しておりません。「マジックゲート」機能には対応しておりません。ただし、LaVie L(アドバンストタイプ)TVモデルでは、「SD-Jukebox Ver.5 Standard Edition」を利用した「SD メモリーカード」の著作権保護機能（SD-AUDIO）に対応しています。「メモリースティック Duo」をご使用の場合には、必ずメモリースティック Duo アダプタをご利用ください。詳しくは「メモリースティック Duo」の取扱説明書をご参照ください。「miniSD カード」をご使用の場合には、必ずminiSD カードアダプタをご利用ください。詳しくは「miniSD カード」の取扱説明書をご参照ください。「マルチメディアカード(MMC)」はご利用できません。それぞれのメモリーカードは、各々同時に使用することはできません。
※ 34： バッテリ駆動時間や充電時間は、ご利用状況によって記載時間と異なる場合があります。
※ 35： JEITA バッテリ動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリ駆動時間です。詳しい測定条件は、(インターネット http://121ware.com/lavie/ → 各シリーズページ → 「仕様一覧」)でご案内しています。
※ 36： 電源 OFF 時。
※ 37： 標準添付されている電源コードは AC100V 用(日本仕様)です。
※ 38： エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。省エネ基準達成率の表示語 A は達成率 100%以上 200%未満、AA は達成率 200%以上 500%未満、AAA は達成率 500%以上を示します。
※ 39： 乾電池の質量は含まれておりません。
※ 40： 電源コードの質量を除く。
※ 41： DVD-RAM Ver.2.0/2.1/2.2(片面4.7GB)に準拠したメディアの書込みに対応しています。また、カートリッジ式のメディアは使用できませんので、カートリッジなし、あるいはメディア取り出し可能なカートリッジ式でメディアを取り出してご利用ください。
※ 42： DVD-RAM Ver.1 (片面 2.6GB)の書き換えはサポートしておりません。
※ 43： DVD+R 2 層書込みは、DVD+R（2 層）ディスクのみに対応しています。
※ 44： 8 倍速記録対応 DVD+RW への記録はできません。
※ 45： DVD-R は、DVD-R for General Ver.2.0/2.1 に準拠したメディアの書込みに対応しています。
※ 46： DVD-R 2層は、DVD-R for DL Ver.3.0に準拠したメディアの書き込みに対応しています。DVD-R 2層書込みに対応している添付ソフトは「Roxio DigitalMedia」、「Ulead® DVD MovieWriter® for NEC Ver.4」になります。但し、追記には未対応です。作成した DVD-R(2 層)ディスクについては、弊社製パソコンに搭載されている DVD-R(2 層)対応ドライブでのみ読み出しが可能です。
※ 47： DVD-RW は、DVD-RW Ver.1.1/1.2 に準拠したメディアの書き換えに対応しています。
※ 48： Ultra Speed CD-RW メディアはご使用になれません。

LL590/DE、LL550/DD、LL350/DD

型名			LL590/DE	LL550/DD	LL350/DD
型番			PC-LL590DE	PC-LL550DD	PC-LL350DD
インストールOS・サポートOS			Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版 Service Pack 2※1	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Service Pack 2※1	
CPU			AMD Turion™ 64 モバイル・テクノロジ ML-37※3(AMD PowerNow!™ テクノロジ対応※2)	モバイル AMD Sempron™ プロセッサ 2800+※4 (AMD PowerNow!™ テクノロジ対応※2)	
	キャッシュメモリ	1次	128KB		
		2次	1,024KB	256KB	
	クロック周波数		2.00GHz※3	1.60GHz※4	
バスクロック	システムバス		800MHz		
	メモリバス		333MHz		
チップセット			Silicon Integrated Systems社製 SiSM760GX / SiS963L		
メインメモリ※5	標準容量/最大容量※7		512MB※6(DDR SDRAM 256MB×2、PC2700対応)／1GB※8	256MB※6(DDR SDRAM、PC2700対応)／1GB※8	
	スロット数		2スロット[空き0]	2スロット[空き1]	
表示機能	内蔵ディスプレイ		15型高輝度・低反射ＴＦＴカラー液晶(スーパーシャインビュー液晶)[XGA(最大1,024×768ドット表示)]		
	グラフィックアクセラレータ		Silicon Integrated Systems社製 SiSM760GXに内蔵 [AGP対応]		
	ビデオRAM		標準32MB(BIOS Setup Menuにて64MB選択可)※6※9		
	表示色(解像度)※10※11	内蔵ディスプレイ	最大1,677万色※13 (1,024×768ドット、800×600ドット)		
		別売の外付けディスプレイ接続時※12	最大1,677万色 (1,600×1,200ドット、1,280×1,024ドット、1,024×768ドット、800×600ドット)		
	LCDドット抜け割合		0.00030%以下		
ドライブ	ハードディスクドライブ※14		約40GB※15(Ultra ATA-100)	約80GB※16(Ultra ATA-100)	約40GB※15(Ultra ATA-100)
	DVD/CDドライブ(詳細はp.218の別表をご覧ください)※17		マルチプレードライブ(CD-R/RW with DVD-ROM)内蔵(バッファアンダーランエラー防止機能付き)	DVDスーパーマルチドライブ(DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW)内蔵(バッファアンダーランエラー防止機能付き)[DVD-R/+R 2層書込み]	マルチプレードライブ(CD-R/RW with DVD-ROM)内蔵(バッファアンダーランエラー防止機能付き)
	フロッピーディスクドライブ		-【別売、専用オプション(型番:PC-VP-WU14)※18】		
サウンド機能	スピーカ		内蔵ステレオスピーカ(1.0W +1.0W)		
	音源/サラウンド機能		PCM録音再生機能(ステレオ／モノラル、量子化8ビット／16ビット、サンプリングレート8-48KHz、全二重化対応)、MIDI音源機能(ソフトウェアMIDI<GM、GS演奏モード対応、DLS2対応※19>)、マイクノイズ除去機能、3Dポジショナルサウンド		
	サウンドチップ		ADI社製 AD1981B搭載		
通信機能	LAN		100BASE-TX/10BASE-T対応		
	ワイヤレスLAN		トリプルワイヤレスLAN(Super AG™、XR™) 本体内蔵(IEEE802.11a/b/g準拠)※22※23		デュアルモードワイヤレスLAN (Super G™)本体内蔵 (IEEE802.11b/g準拠)※24
	FAXモデム※20		データ通信：最大56Kbps※21(V.90対応)／FAX通信：最大14.4Kbps(V.17)		
入力装置	キーボード		本体一体型(キーピッチ19mm※25、キーストローク3.0mm)、JIS標準配列(87キー)、右コントロールキー付き		
	マウス		−	光センサーUSBマウス(リアルシルバー、スクロール機能付き)	
	ポインティングデバイス		スクロール機能付きNXパッド標準装備		
	ボタン		ワンタッチスタートボタン搭載		
外部インターフェイス	USB		コネクタ4ピン×3[USB2.0×3]		
	IEEE1394(DV)		4ピン×1		
	ディスプレイ(アナログ)		ミニD-sub15ピン×1		
	FAXモデム		RJ11モジュラコネクタ×1		
	LAN		RJ45コネクタ×1		
	サウンド関連インターフェイス	ライン出力	ヘッドフォン出力と共用(ライン出力レベル 1Vrms)		
		マイク入力	ステレオミニジャック×1(マイク入力インピーダンス 20kΩ、入力レベル 5mVrms、バイアス電圧 3.7V)		
		ヘッドフォン出力	ステレオミニジャック×１(ヘッドフォン出力インピーダンス 16Ω-100Ω「推奨32Ω」、出力電力 5mW/32Ω)		
	PCカード		Type Ⅱ×1、PC Card Standard準拠、CardBus対応		

型名		LL590/DE	LL550/DD	LL350/DD
バッテリ駆動時間 ※27※28	標準	約1.5時間	約1.4時間	
	最大(オプションバッテリ装着時)	約2.9時間	約2.7時間	
バッテリ充電時間 ※27※29	標準	約2.1時間		
	最大(オプションバッテリ装着時)	約2.7時間		
バッテリ充電時間 (電源ON時/OFF時) ※27	標準	約2.1/約2.1時間		
	最大(オプションバッテリ装着時)	約3.3/約2.7時間		
電源※26		ニッケル水素バッテリまたはAC100〜240V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由)※30		
消費電力	標準/最大	約32/約60W	約33/約60W	
エネルギー消費効率(省エネ基準達成率)※31		S区分 0.00018(AAA)	S区分 0.00025(AAA)	
電波障害対策		VCCI ClassB		
温湿度条件		5〜35℃、20〜80%(ただし結露しないこと)		
外形寸法	本体(突起部除く)	330(W)×268(D)×36.5(H)mm		
	バッテリ	約156.0(W)×80.0(D)×22.2(H)mm		
	ACアダプタ	約110(W)×50(D)×28(H)mm または、約 114.5(W)×49.5(D)×28.5(H)mm		
質量	本体(標準バッテリパック含む)/マウス	約3.1kg/−	約3.1kg/約100g	
	バッテリ	約560g		
	ACアダプタ※32	約270g		
主な添付品		ACアダプタ、マニュアル、電話回線ケーブル	ACアダプタ、マニュアル、電話回線ケーブル、光センサーUSBマウス(リアルシルバー)	

DVD/CD ドライブ仕様一覧

シリーズ	LaVie L(LL550/DD)	LaVie L(LL590/DE、LL350/DD)
ドライブ	DVDスーパーマルチドライブ(DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW) [DVD-R/+R 2層書込み]※17	マルチプレードライブ(CD-R/RW with DVD-ROM)※17
DVD-RAM読出し※33	最大5倍速	1倍速
DVD-RAM書換え※33※34	最大5倍速	−
DVD+R (1層)書込み	最大8倍速	−
DVD+R (2層)書込み※35	最大2.4倍速	−
DVD+RW書換え※36	最大4倍速	−
DVD-R (1層)書込み※37	最大8倍速	−
DVD-R (2層)書込み※38	最大2倍速	−
DVD-RW書換え※39	最大4倍速	−
DVD読出し	最大8倍速	最大8倍速
CD読出し	最大24倍速	最大24倍速
CD-R書込み	最大24倍速	最大24倍速
CD-RW書換え※40	最大10倍速	最大10倍速

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

※　1：添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。Windows® XP Home Editionでは、ネットワークでドメインに参加する機能はありません。別売のWindows® XP Home EditionパッケージやWindows® XP Professionalパッケージをインストールおよび利用することはできません。
※　2：電源の種類（AC電源、バッテリ）やシステム負荷に応じて動作性能を切り替える機能です。
※　3：AMD Turion™64 モバイル・テクノロジ ML-37は、動作周波数2.00GHzで動作しておりますが、プロセッサの相対的な性能は、クロック周波数だけでなく、アーキテクチャに基づくさまざまな特長によって決まります。
※　4：AMD社が定めた、QuantiSpeed™ アーキテクチャを採用したモバイル AMD Sempron™ プロセッサ 2800+は、動作周波数1.60GHzで動作しておりますが、従来の設計に基づく2.80GHzのCPUに相当もしくはそれ以上の性能を有します。
※　5：増設メモリはPK-UG-ME032(256MB、PC2700)、PK-UG-ME033(512MB、PC2700)を推奨します。
※　6：ビデオRAMは、メインメモリを使用します。
※　7：他社製の増設メモリの装着は、動作を保証するものではありません。他社製品との接続は各メーカにご確認の上、お客様の責任において行ってくださるようお願いいたします。
※　8：最大メモリ容量にする場合、本体に標準実装されているメモリを取り外して、別売の増設メモリ(512MB)を2枚実装する必要があります。
※　9：64MBでご使用になる場合は、メモリの増設が必要となります。
※ 10：バーチャルスクリーン機能には対応しておりません。
※ 11：本体液晶ディスプレイより小さい解像度を選択した場合、拡大表示機能により液晶画面全体に表示します。ただし、拡大表示によって文字や線などの太さが不均一になることがあります。
※ 12：本機のもつ解像度および色数の能力であり、接続するディスプレイ対応解像度、リフレッシュレートによっては表示できない場合があります。本体の液晶ディスプレイと外付けディスプレイの同時表示可能です。ただし、拡大表示機能を使用しない状態では、外付けディスプレイ全体には表示されない場合があります。マルチモニタ使用時は、外付けディスプレイで「1,600 × 1,200ドット」は表示できません。
※ 13：1,677万色表示は、グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現します。
※ 14：1GBを10億バイトで計算した場合の数値です。
※ 15：Windows®のシステムからは、容量がCドライブ：約22GB、Dドライブ：約6.5GB、残り：再セットアップ用として認識されます。
※ 16：Windows®のシステムからは、容量がCドライブ：約59GB、Dドライブ：約6.5GB、残り：再セットアップ用として認識されます。
※ 17：使用するディスクによっては一部の書込み / 読み出し速度に対応していない場合があります。
※ 18：2モード(720KB/1.44MB)に対応しています(ただし720KBのフォーマットは不可です)。
※ 19：DLSは「DownLoadable Sounds」の略です。DLSを使うと、カスタム・サウンド・セットをSoundMAXシンセサイザにロードできます。
※ 20：回線状態によっては、通信速度が変わる場合があります。また、内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
※ 21：最大56Kbpsはデータ受信時の理論上の最大速度です。データ送信時は最大33.6Kbpsになります。
※ 22：IEEE802.11a/b/g準拠、WEP（64/128/152bit）対応、WPA-PSK（TKIP/AES）対応、WPA2-PSK（AES）対応。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のアプリケーションソフトウェア、OSなどによっても通信速度、通信距離に影響する場合があります。IEEE802.11b/g(2.4GHz)とIEEE802.11a(5GHz)は互換性がありません。IEEE802.11a(5GHz)ワイヤレスLANの使用は、電波法令により屋内に限定されます。Super AG™機能を使用するには、接続先のワイヤレスLAN機器もSuper AG™に対応している必要があります。
Atheros XR™機能を使用するには、接続先の無線LAN機器もAtheros XR™に対応している必要があります。
※ 23：5GHz帯ワイヤレスLANは、IEEE802.11a準拠(J52/W52/W53)です。
J52/W52/W53は社団法人 電子情報技術産業協会による表記です。
詳細は　http://121ware.com/navigate/support/info/ieee802.html　をご参照ください。
※ 24：IEEE802.11b/g準拠、WEP（64/128/152bit）対応、WPA-PSK（TKIP/AES）対応、WPA2-PSK（AES）対応。Super G™ 機能を使用するには、接続先のワイヤレスLAN機器もSuper G™ に対応している必要があります。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のアプリケーションソフトウェア、OSなどによっても通信速度、通信距離に影響する場合があります。IEEE802.11b/g(2.4GHz)とIEEE802.11a(5GHz)は互換性がありません。
※ 25：キーボードのキーの横方向の間隔。キーの中心から隣のキーの中心までの長さ(一部キーピッチが短くなっている部分があります)。
※ 26：パソコン本体のバッテリなどに使用する各種電池は消耗品です。

※ 27： バッテリ駆動時間や充電時間は、ご利用状況によって記載時間と異なる場合があります。
※ 28： JEITA バッテリ動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリ駆動時間です。詳しい測定条件は、(インターネット http://121ware.com/lavie/ → 各シリーズページ → 「仕様一覧」)でご案内しています。
※ 29： 電源 OFF 時。
※ 30： 標準添付されている電源コードは AC100V 用(日本仕様)です。
※ 31： エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。省エネ基準達成率の表示語 A は達成率 100%以上 200%未満、AA は達成率 200%以上 500%未満、AAA は達成率 500%以上を示します。
※ 32： 電源コードの質量を除く。
※ 33： DVD-RAM Ver.2.0/2.1/2.2(片面4.7GB)に準拠したメディアの書込みに対応しています。また、カートリッジ式のメディアは使用できませんので、カートリッジなし、あるいはメディア取り出し可能なカートリッジ式でメディアを取り出してご利用ください。
※ 34： DVD-RAM Ver.1 (片面 2.6GB)の書き換えはサポートしておりません。
※ 35： DVD+R 2 層書込みは、DVD+R（2 層）ディスクのみに対応しています。
※ 36： 8 倍速記録対応 DVD+RW への記録はできません。
※ 37： DVD-R は、DVD-R for General Ver.2.0/2.1 に準拠したメディアの書込みに対応しています。
※ 38： DVD-R 2層は、DVD-R for DL Ver.3.0に準拠したメディアの書き込みに対応しています。DVD-R 2層書込みに対応している添付ソフトは「Roxio DigitalMedia」、「Ulead® DVD MovieWriter® for NEC Ver.4」になります。但し、追記には未対応です。作成した DVD-R(2 層)ディスクについては、弊社製パソコンに搭載されている DVD-R(2 層)対応ドライブでのみ読み出しが可能です。
※ 39： DVD-RW は、DVD-RW Ver.1.1/1.2 に準拠したメディアの書き換えに対応しています。
※ 40： Ultra Speed CD-RW メディアはご使用になれません。

TV機能仕様一覧

型名		LL970/DD	LL770/DD
型番		PC-LL970DD	PC-LL770DD
映像関連機能 (地上アナログ放送)	TVチューナ	音声多重対応、受信チャンネル：VHF(1～12ch)、UHF(13～62ch)、CATV(C13～C38)※1	
	データ放送受信	地上アナログデータ放送(ADAMS)、字幕放送	
	映像合成表示機能	DirectShow® により任意のサイズで合成表示可能(全画面表示可能) SmartVision使用時：240×180ドット以上(縦横比3:4固定)でサイズ変更可能	
	高画質機能	ゴーストリデューサ、3次元Y/C分離、タイムベースコレクタ、デジタルノイズリダクション	
	TV録画機能	MediaGrageおよびSmartVisionでMPEG2(高画質モード：720×480ドット(8Mbps CBR)、 標準画質モード：720×480ドット(4Mbps VBR)、長時間モード：352×480ドット(2Mbps VBR)、 超長時間モード：352×240ドット(1.2Mbps VBR))の録画可能	
	最長録画時間(高画質モード)	約16時間	
	最長録画時間(標準画質モード)	約32時間	
	最長録画時間(長時間モード)	約62時間	
	最長録画時間(超長時間モード)	約97時間	
TV関連 インターフェイス	TVアンテナ入力	φ3.5　ミニジャック×1	
	ビデオ入力	Sビデオ入力端子×1※2、ピンジャック(コンポジットビデオ入力端子)×1※2	
	オーディオ入力(L/R)	ピンジャック×2(LおよびR)	

※1：ケーブルテレビの受信チャンネル表記は、(社)電子情報技術産業協会規格(CPR-4103)の表記に基づきます。実際のケーブルテレビ受信チャンネル番号は、ケーブルテレビ会社により異なりますので、ケーブルテレビ会社にお問い合わせください。本製品をケーブルテレビ回線に接続する場合、ケーブルテレビ会社との受信契約が必要となります。また、本製品は、記載されたケーブルテレビ周波数の受信に対応しておりますが、大半のチャンネルはケーブルテレビ会社により視聴制限(スクランブル)を施されているため、本製品で直接受信することはできません。この場合は、ケーブルテレビ会社より貸与されるターミナルアダプタにより、受信する必要があります。ケーブルテレビ会社により再送信を行っている地上アナログ放送は、VHFおよびUHFの周波数で送信されていますので、特別な受信装置がなくとも、受信可能です。詳細は、ご利用のケーブルテレビ会社にご相談ください。

※2：Sビデオ入力端子とコンポジットビデオ入力端子の利用は排他になります。また、表示の優先順位はSビデオ入力端子 → コンポジットビデオ入力端子の順になります。

再生可能フォーマット一覧(インスタント機能)

フォーマット		拡張子
写真/静止画	JPEG	jpg,jpeg
	BMP	bmp
音楽	WAV	wav
	MP3	mp3
	WMA	wma
動画	MPEG1,MPEG2	mpg,mpeg
	SmartVision録画ファイル	svi
	WMV	wmv

<ご注意>
これらの拡張子であっても、フォーマットその他によって、対応できないコンテンツがあります。
著作権保護のかかったコンテンツは、再生することができません。

FAXモデム仕様一覧

項目		規格
適用回線		加入電話回線
ダイヤル方式		パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
FAX機能	交信可能ファクシミリ装置	ITU-T　G3ファクシミリ装置
	同期方式	半2重調歩同期方式
	通信規格 ※1	ITU-T V.17:14,400 / 12,000 / 9,600 / 7,200 bps V.29:9,600 / 7,200 bps V.27ter:4,800 / 2,400 bps V.21 ch2:300 bps
	送信レベル	-11 ～ -15dBm(出荷時 -15dBm)
	受信レベル	-10 ～ -40dBm
	制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)
データモデム機能	同期方式	全2重調歩同期方式
	通信規格 ※1	ITU-T V.90:56,000 ～ 28,000 bps ※2 V.34:33,600 ～ 2,400 bps V.32bis:14,400 ～ 4,800 bps V.32:9,600 ～ 4,800 bps V.22bis:2,400 / 1,200 bps V.22:1,200 / 600 bps V.21:300 bps
	エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM) MNP class 4
	データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class 5
	送信レベル	-11 ～ -15dBm(出荷時 -15dBm)
	受信レベル	-10 ～ -40dBm
	制御コマンド	Hayes ATコマンド準拠 ※3

※1:回線状態によっては通信速度が変わる場合があります。
※2:送信時は33,600～2,400bpsになります。
※3:ATコマンドについては、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「ATコマンド」をご覧ください。

リモコン仕様一覧

項目	仕様
外形寸法	52 (W) × 225 (D) × 25 (H) mm
質量	約127g (電池含まず)
赤外線周波数	940nm
赤外線キャリア周波数	38KHz
赤外線フォーマット	2bitPPM フォーマット
赤外線到達距離	3m以内
対応キー	50キー
電池	単3形アルカリ乾電池2本
電池寿命	キー連続操作約100時間

LAN仕様一覧

項目	規格
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時　：UTPカテゴリ3または5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1,024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長※	100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

※リピータの台数など、条件によって異なります。

ワイヤレスLAN仕様一覧

■トリプルワイヤレス LAN（Super AG 対応）

本機能はトリプルワイヤレス LAN（Super AG 対応）モデルのみの機能です。

トリプルワイヤレス LAN は、Atheros Communications 社が開発したワイヤレス通信の高速化技術「Super AG™」および長距離化技術「Atheros XR™(eXtended Range)」に対応しています。※

※：Super AG™ 機能を使用するには、接続先のワイヤレス LAN 機器も Super AG™ に対応している必要があります。また、Atheros XR™ 機能を使用するには、接続先のワイヤレス LAN 機器も Atheros XR™ 機能に対応している必要があります。

● 5GHz ワイヤレス LAN

項　目	規　格
準拠規格	IEEE802.11a　ARIB STD-T71※4
通信モード	54/48/36/24/18/12/6（Mbpsモード）※1
変調方式	OFDM方式
無線チャンネル	36ch、40ch、44ch、48ch（アクティブスキャン） 34ch、38ch、42ch、46ch、52ch、56ch、60ch、64ch（パッシブスキャン）※5
周波数帯域	5GHz帯域（5.15～5.35GHz）※2
セキュリティ	WPA-PSK（TKIP/AES）、WPA2-PSK（AES） WEP（鍵長64bit/128bit/152bit※3）

※1：各規格による理論的な通信速度をもとにした通信モード表記であり、実効速度とは異なります。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用の OS、アプリケーション、ソフトウェアなどによっても、通信速度、通信距離に影響する場合があります。

※2：5GHz ワイヤレス LAN の使用は、電波法令により屋内に限定されます。

※3：ユーザーが設定可能な鍵長は、それぞれ 40bit、104bit、128bit です。

※4：ARIB についての表記の説明は「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「ワイヤレス LAN（無線 LAN）」の「使用上の注意」をご覧ください。

※5：パッシブスキャンのチャンネルは接続に時間がかかる場合があります。

● 2.4GHz ワイヤレス LAN

項　目	規　格
準拠規格	IEEE802.11g、IEEE802.11b　ARIB STD-T66※3
通信モード	IEEE802.11gモード：54/48/36/24/18/12/6（Mbpsモード）※1 IEEE802.11bモード：11/5.5/2/1（Mbpsモード）※1
変調方式	OFDM方式（54/48/36/24/18/12/6Mbpsモード時） DS-SS方式（11/5.5/2/1Mbpsモード時）
無線チャンネル	1〜13ch（アクティブスキャン）
周波数帯域	2.4GHz帯域（2.4〜2.4835GHz）
セキュリティ	WPA-PSK（TKIP/AES）、WPA2-PSK（AES） WEP（鍵長64bit/128bit/152bit※2）

※１：各規格による理論的な通信速度をもとにした通信モード表記であり、実効速度とは異なります。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のOS、アプリケーション、ソフトウェアなどによっても、通信速度、通信距離に影響する場合があります。

※２：ユーザーが設定可能な鍵長は、それぞれ40bit、104bit、128bit です。

※３：ARIBについての表記の説明は「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「ワイヤレス LAN（無線 LAN）」の「使用上の注意」をご覧ください。

■デュアルモードワイヤレス LAN（Super G 対応）

本機能はデュアルモードワイヤレス LAN（Super G 対応）モデルのみの機能です。

デュアルモードワイヤレスLANは、Atheros Communications 社が開発したワイヤレス通信の高速化技術「Super G™」に対応しています。※

※：Super G™ 機能を使用するには、接続先のワイヤレス LAN 機器も Super G™ に対応している必要があります。

項目	規格
準拠規格	IEEE802.11b、IEEE802.11g ARIB STD-T66 ※ 3
通信モード	IEEE802.11g：54/48/36/24/18/12/6（Mbps モード）※ 1 IEEE802.11b：11/5.5/2/1（Mbps モード）※ 1
変調方式	OFDM 方式（54/48/36/24/18/12/6Mbps モード時） DS-SS 方式（11/5.5/2/1Mbps モード時）
無線チャンネル	1 〜 13ch（アクティブスキャン）
周波数帯域	2.4GHz 帯域（2.4 〜 2.4835GHz）
セキュリティ	WPA-PSK（TKIP/AES）、WPA2-PSK（AES） WEP（鍵長 64bit/128bit/152bit ※ 2）

※1 ：各規格による理論的な通信速度をもとにした通信モード表記であり、実効速度とは異なります。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のOS、アプリケーション、ソフトウェアなどによっても通信速度、通信距離に影響する場合があります。

※2 ：ユーザーが設定可能な鍵長は、それぞれ 40bit、104bit、128bit です。

※3 ：ARIBについての表記の説明は「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「ワイヤレス LAN（無線 LAN）」の「使用上の注意」をご覧ください。

その他のご注意

[TV 視聴／録画について]（TV モデル）
- 地上デジタル・BS デジタル・CS デジタル放送対応のチューナを本商品の外部入力端子に接続した場合、「一回だけ録画可能」の番組などのコピー制御された番組は本商品で録画およびタイムシフトできません。
- TV をご覧いただくためにはご家庭のアンテナケーブル（別売）と接続する必要があります。
- TV放送やデータ放送をご覧になる場合、ノイズやゴーストなど電波障害が強いところでは、TV映像がコマ落ちしたり、データ放送が受信できないなどの現象が発生する場合があります。電波の弱い場合は、ブースタが必要になる場合があります。また、ケーブルテレビをご利用の場合は、ADAMS などのデータ放送が受信可能かどうか、ご利用のケーブルテレビ会社へお問い合わせください。
- 録画時間は映像の内容およびご利用状況によって前後する場合があります。

[著作権に関するご注意]
- お客様が複製元のCD-ROM やDVD-ROM などの音楽コンテンツやビデオコンテンツの複製や改変を行う場合、複製元の媒体などについて、著作権を保有していなかったり、著作権者から複製や改変の許諾を得ていない場合、利用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。
- 複製の際は、複製元の媒体の利用許諾条件、複製などに関する注意事項にしたがってください。
- お客様が録音・録画したものは、個人として楽しむなどのほかには、著作権法上、著作権者に無断で使用することはできません。

[DVD/CD の読み込み／書き込みについて]
- コピーコントロール CD など一部の音楽 CD では、再生や CD 作成ができない場合があります。
- 別途有償アップデートを行うことで CPRM（Content Protection for Recordable Media）の著作権保護機能には対応することができます。
- メディアの種類、フォーマット形式によって読み取り性能が出ない場合があります。また、記録状態が悪い場合など、読み取りできない場合があります。
- 12cm CD、DVD、8cm 音楽 CD 以外は使用できません。ハート形、カード型などの特殊形状をした CD は故障の原因となりますので使用できません。
- 設定した書き込み、書き換え速度を実現するためには、書き込み、書き換え速度に応じたメディアが必要になります。
- 映像ソフトの再生は、ソフトウェアによるMPEG2再生方式です。NTSCのみ対応しております。Regionコード「2」、「ALL」以外のDVDビデオの再生は行えません。再生するDVDディスクおよびビデオCDの種類によってはコマ落ちする場合があります。リニアPCM（96KHz/24bit）で記録されている20KHz以上の音声信号は再生できません。DVDレコーダで記録されたDVDで、書き込み形式により再生できないものがあります。そのような場合はDVDレコーダの取扱説明書などをご覧ください。
- ライティングソフトウェアが表示する書き込み予想時間と異なる場合があります。
- 作成したDVDは家庭用のDVDプレーヤやDVD-ROMドライブ搭載パソコンで再生できますが、一部のDVDプレーヤやDVD-ROMドライブでは再生できないことがあります。また、メディアやプレーヤの状態により再生できないことがあります。
- ソフトウェアによっては書き込み速度において最大速度を表示しない場合があります。

[インターネット電話／インターネットテレビ電話について]
- ご利用の通信事業者、プロバイダ、お客様の環境によってはご利用になれない場合があります。事前に通信事業者やプロバイダにご確認ください。ADSLなどのブロードバンド環境でのご利用を推奨いたします。

[周辺機器接続について]
- 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、本インターフェイスに対応している必要があります。
- 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。他社製品との接続は各メーカにご確認の上、お客様の責任において行ってくださるようお願いいたします。
- USB1.1対応の周辺機器も利用できます。USB2.0で動作するにはUSB2.0対応の周辺機器が必要です。他社製品との接続は各メーカにご確認の上、お客様の責任において行ってくださるようお願いいたします。
- IEEE1394インターフェイスを装備した商品と他社製デジタルビデオカメラの連携は、機種により対応していない場合があります。他社製品との接続は各メーカにご確認の上、お客様の責任において行ってくださるようお願いいたします。

索引

英数字

121ware.com ---------- 41
121 コンタクトセンター ---------- 10
121 ポップリンク ---------- 38
AC アダプタ ---------- 15
ADSL ---------- 82
BIGLOBE ---------- 88
BIOS の初期化 ---------- 162
【CapsLock】---------- 63
CATV ---------- 83
CD-ROM の扱い方 ---------- 56
C ドライブ ---------- 158
DVD/CD ドライブ -------50、51、52、204
D ドライブ ---------- 158
FTTH ---------- 82
ISDN ---------- 83
LAN ---------- 145
LAN ケーブル ---------- 91
【NumLock】---------- 63
NX パッド ---------- 24
【Shift】---------- 63

あ行

アナログ回線への接続 ---------- 86
インスタント用 DVD/CD-ROM ---------- 174
インターネットの接続方法 ---------- 81
インターネット無料体験 ---------- 87
ウイルス ---------- 114
ウイルスチェック ---------- 151
お客様登録 ---------- 41
音量の調節 ---------- 55

か行

各部の名称 ----------50、巻末
型番 ---------- 11
キーボード ---------- 63
クリック ---------- 25

さ行

再セットアップ ---------- 149
再セットアップ用 DVD/CD-ROM --69、174
サポートナビゲーター ---------- 67
システムの修復 ---------- 156
周辺機器の移行 ---------- 140
使用許諾契約 ---------- 26
スタンバイ機能 ---------- 48
製造番号 ---------- 11
セーフモード ---------- 152
セキュリティ対策 ---------- 113
セットアップ作業 ---------- 19
増設 RAM ボード ---------- 188
ソフトチョイス用アプリケーション
　DVD/CD-ROM ---------- 174
ソフトナビゲーター ---------- 64
ソフトの移行 ---------- 141

た行

ダイヤルアップ接続 ----------- 81、104、123
データの移行 -- 132
データのバックアップ -------------------------- 154
電源スイッチ ---------- 21、47、50、51、52
電源ランプ ---------------------------- 50、51、52
電源を入れる --- 47
電源を切る -- 44
電話回線ケーブル --------------------------- 81、86

は行

パソコン各部の説明 -------------------------------- 53
パソコンのいろはⅡ ------------------------------- 63
バックアップ ------------------------------- 69、154
バッテリパック -------------------------------------- 14
バッテリリフレッシュ -------------------------- 202
ブロードバンド接続 ------81、84、91、120
フロッピーディスクドライブ ------------------- 61
フロッピーディスクの扱い方 ------------------- 60
プロバイダ -- 86
ホームネットワーク ------------------------------ 144
保証書 -- 11

ま行

マウスの接続 --- 40
無線 LAN -- 75
メールソフトの設定 ------------------------------ 107
メモリ --- 188
モジュラケーブル ---------------------------------- 81

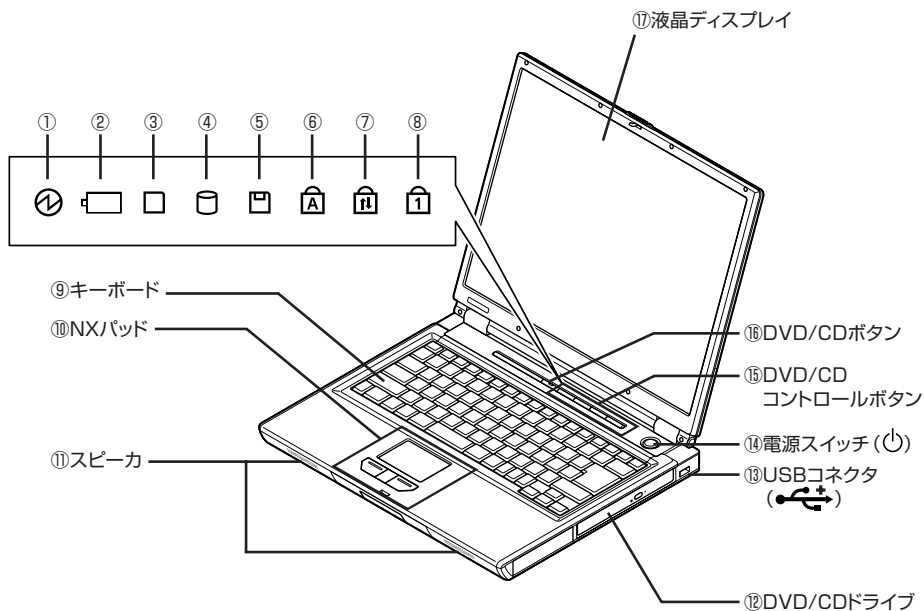
ら行

ライセンス -- 141
リモコン -- 17
ルータ -- 82、98

わ行

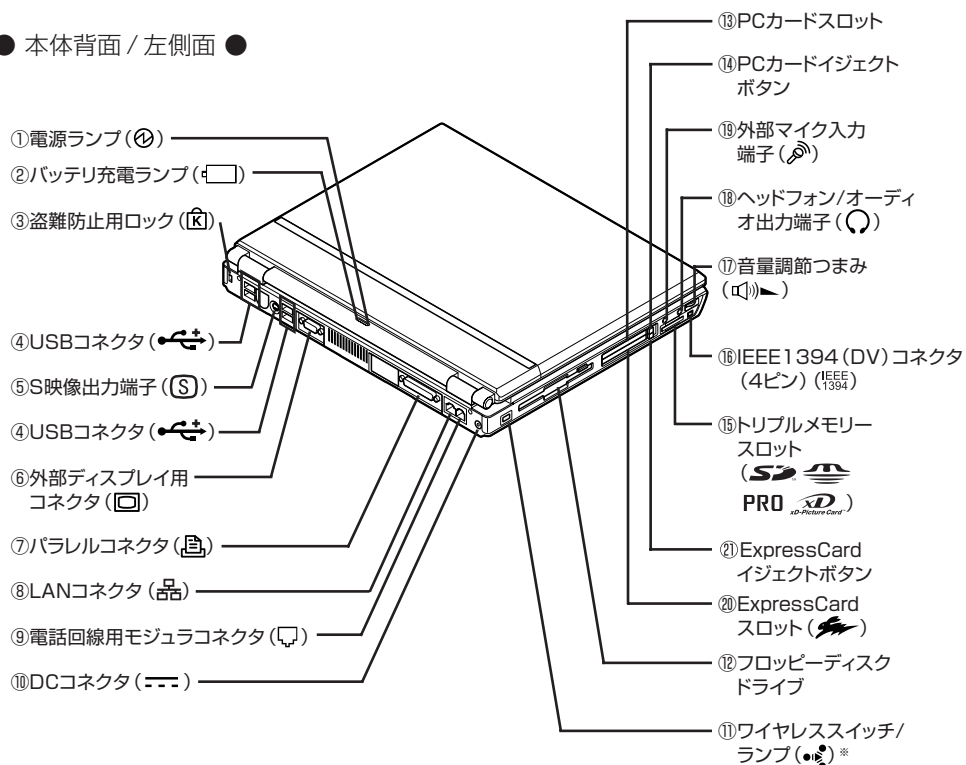
ワイヤレス LAN ------------------------------------ 75
ワンタッチスタートボタン ---------------------- 52

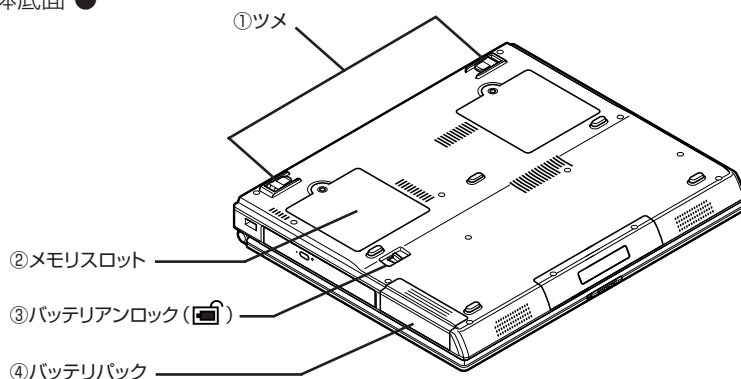
各部の名称（1） アドバンストタイプ（TVモデル除く）

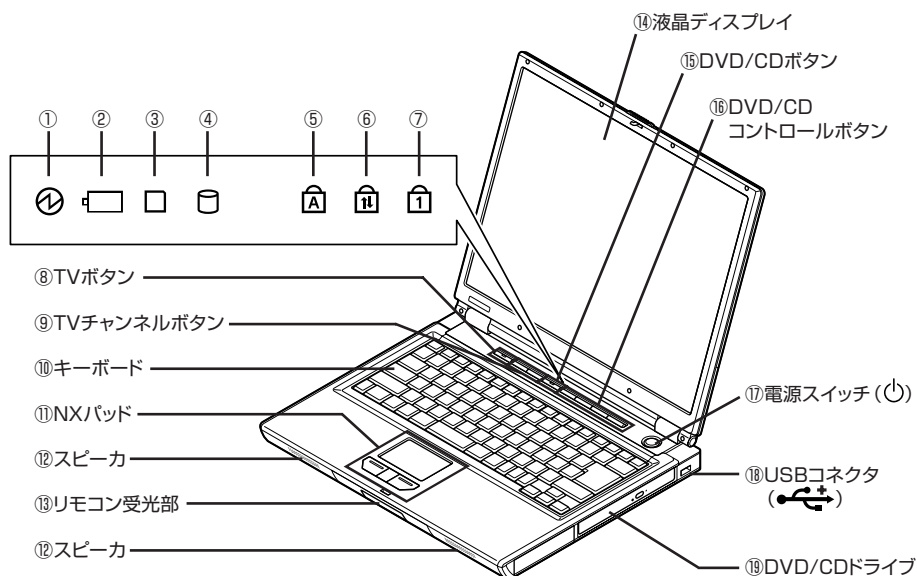
● 本体前面 / 右側面 ●

①電源ランプ	⑤フロッピーディスクドライブアクセスランプ
②バッテリ充電ランプ	⑥キャップスロックキーランプ
③トリプルメモリースロットアクセスランプ	⑦スクロールロックキーランプ
④CD/ハードディスクアクセスランプ	⑧ニューメリックロックキーランプ

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

各部の名称（2） アドバンストタイプ（TVモデル除く）

● 本体背面 / 左側面 ●

※トリプルワイヤレスLAN（Super AG対応）モデルのみ

● 本体底面 ●

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

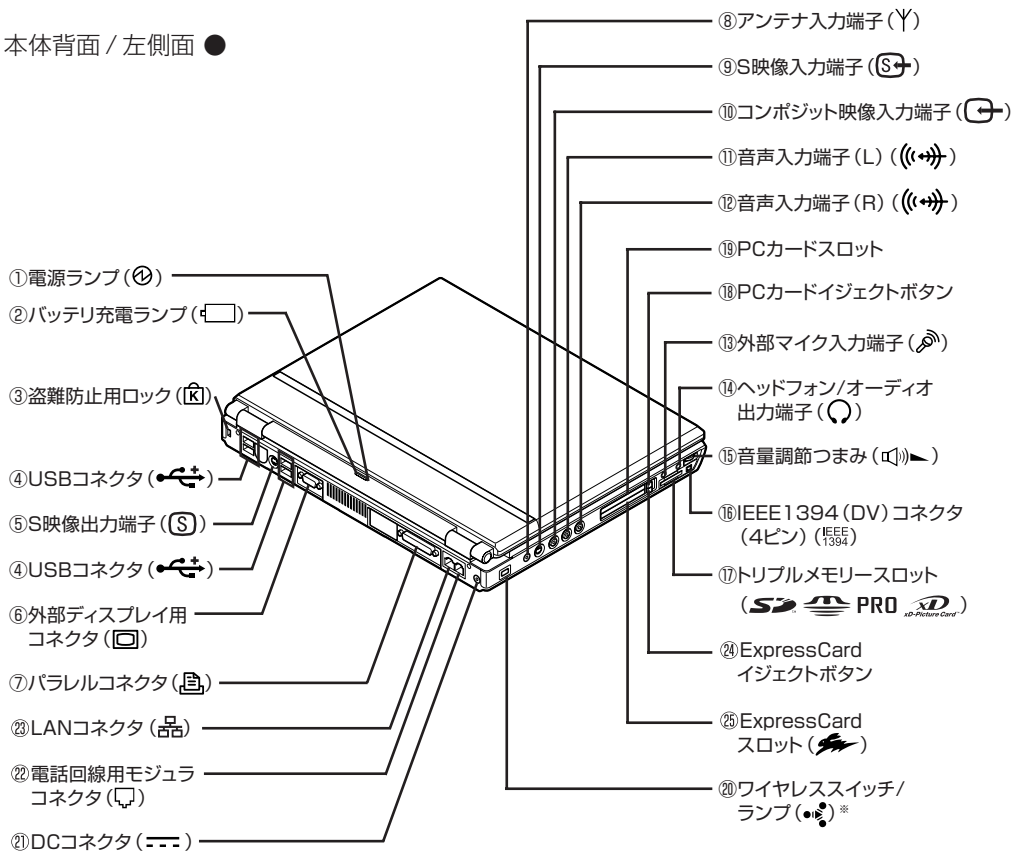
各部の名称（1） アドバンストタイプ（TVモデル）

● 本体前面 / 右側面 ●

①電源ランプ	⑤キャップスロックキーランプ
②バッテリ充電ランプ	⑥スクロールロックキーランプ
③トリプルメモリースロットアクセスランプ	⑦ニューメリックロックキーランプ
④CD/ハードディスクアクセスランプ	

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

各部の名称（2） アドバンストタイプ（TVモデル）

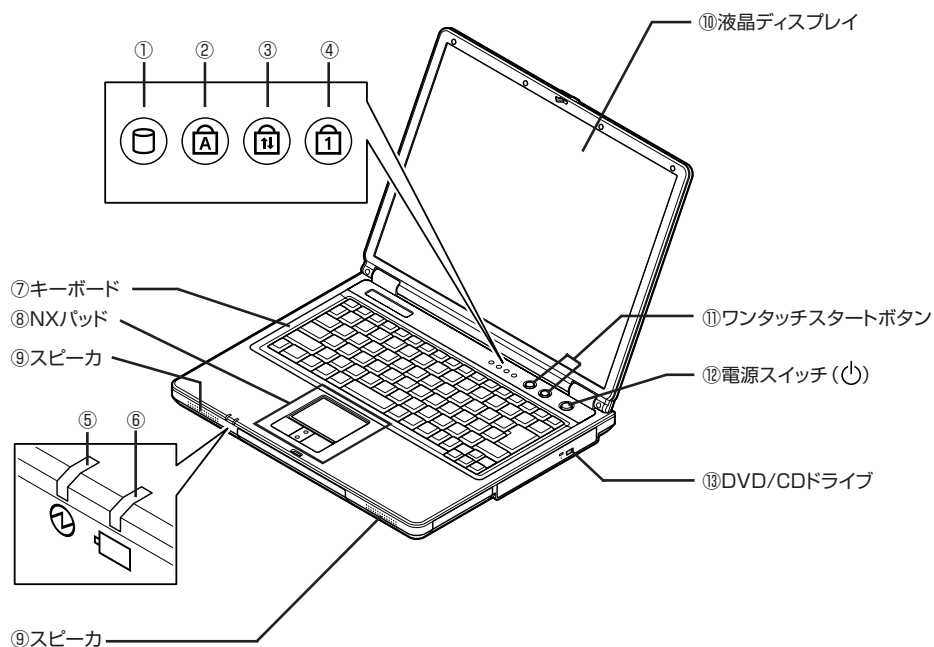
● 本体背面 / 左側面 ●

①電源ランプ
②バッテリ充電ランプ
③盗難防止用ロック
④USBコネクタ
⑤S映像出力端子
④USBコネクタ
⑥外部ディスプレイ用コネクタ
⑦パラレルコネクタ
㉓LANコネクタ
㉒電話回線用モジュラコネクタ
㉑DCコネクタ
⑧アンテナ入力端子
⑨S映像入力端子
⑩コンポジット映像入力端子
⑪音声入力端子（L）
⑫音声入力端子（R）
⑲PCカードスロット
⑱PCカードイジェクトボタン
⑬外部マイク入力端子
⑭ヘッドフォン/オーディオ出力端子
⑮音量調節つまみ
⑯IEEE1394（DV）コネクタ（4ピン）
⑰トリプルメモリースロット
㉔ExpressCardイジェクトボタン
㉕ExpressCardスロット
⑳ワイヤレススイッチ/ランプ※

※トリプルワイヤレスLAN（Super AG対応）モデルのみ

● 本体底面 ●

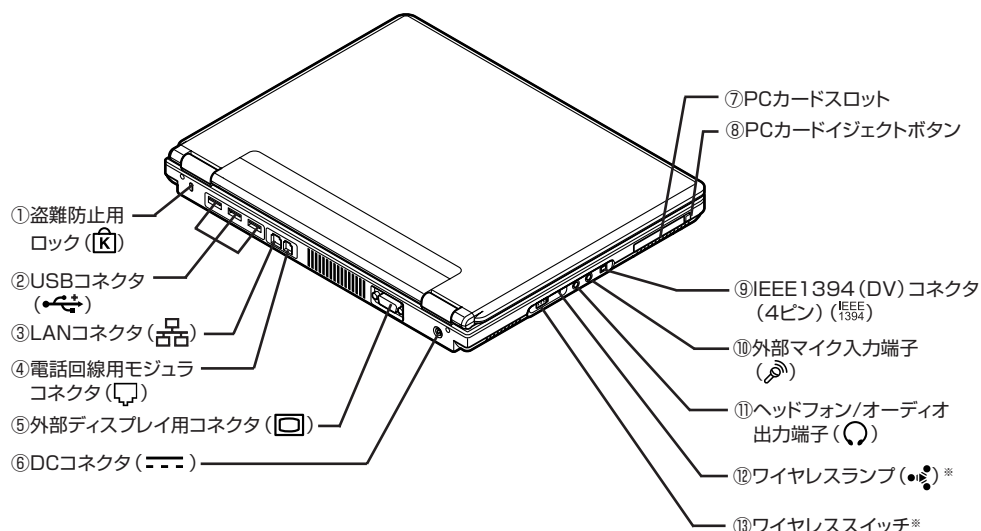
詳しくは、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

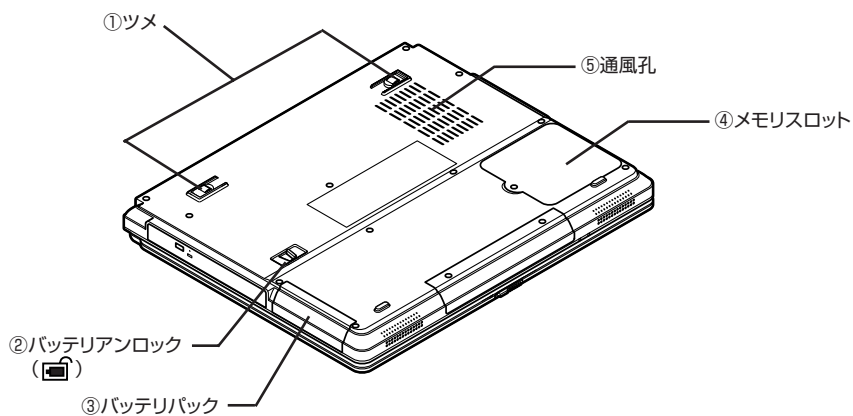
各部の名称（1） ベーシックタイプ

● 本体前面 / 右側面 ●

①CD/ハードディスクアクセスランプ	⑤電源ランプ
②キャップスロックキーランプ	⑥バッテリ充電ランプ
③スクロールロックキーランプ	
④ニューメリックロックキーランプ	

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

各部の名称（2） ベーシックタイプ

● 本体背面 / 左側面 ●

※デュアルモードワイヤレスLAN（Super G対応）モデル、およびトリプルワイヤレスLAN（Super AG対応）モデルのみ

● 本体底面 ●

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「パソコン各部の説明」-「パソコンの機能」-「各部の名称と役割」をご覧ください。

パソコンの中にもマニュアルがある

● サポートナビゲーターで調べてみよう ●

このパソコンには、使いながら画面で説明を見るための、サポートナビゲーターが入っています。

デスクトップにある 困ったときのサポートナビゲーター をダブルクリックすれば、いつでも利用できます。

必要に応じて、次の５種類の説明を利用してください。

つながった後の インターネット	ウイルス対策やセキュリティの設定などについて説明しています。
パソコン使いこなし術	Windowsの便利な操作方法など、一歩進んだ使い方を説明しています。
ソフトの紹介と説明	このパソコンに入っているアプリケーションソフトの使い方などを説明しています。
パソコン各部の説明	このパソコンの各部の機能や設定について、詳しい情報を知りたいときに利用してください。
トラブル解決	うまくいかないときや、故障かな？と思ったときに利用してください。